

# 2019

## 授業科目〈シラバス〉

沖 縄 県 立 芸 術 大 学  
大 学 院 造 形 芸 術 研 究 科

## 授業科目〈シラバス〉について

この「2019年度授業科目〈シラバス〉」は、平成31年度に大学院造形芸術研究科で開講される授業科目について、各担当教員から提出された授業計画（シラバス）をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内（履修規程）は別冊となっています。

1. 集中講義科目については、**単位数・学期欄に（集中）**と表記されています。
2. **担当教員名欄**には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. **担当教員名欄の（客）**は客員教授を、**（非）**は非常勤講師を表します。
4. **履修上の留意点**には、履修の条件や注意事項のほかに、授業外の学習を含めて履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。



# 大学院造形芸術研究科開設授業科目一覧表

## 生活造形専攻 工芸専修 必修科目

科目コード	科目名	単位	履修年次	学期	授業区分	ページ
70214	染研究Ⅰ	12	1	通年	演習	1
70215	染研究Ⅱ	12	2	通年	演習	2
70216	織研究Ⅰ	12	1	通年	演習	3
70217	織研究Ⅱ	12	2	通年	演習	4
70111	陶磁器研究Ⅰ	12	1	通年	演習	5
70112	陶磁器研究Ⅱ	12	2	通年	演習	6
70116	漆工研究Ⅰ	12	1	通年	演習	7
70117	漆工研究Ⅱ	12	2	通年	演習	8
70730	論文演習	2	1	後	演習	64

## 生活造形専攻 デザイン専修 必修科目

科目コード	科目名	単位	履修年次	学期	授業区分	ページ
70317	視覚伝達デザイン研究ⅠA	6	1	前期	演習	9
70318	視覚伝達デザイン研究ⅠB	6	1	後期	演習	10
70319	視覚伝達デザイン研究ⅡA	5	2	前期	演習	11
70320	視覚伝達デザイン研究ⅡB	5	2	後期	演習	12
70323	生活環境デザイン研究ⅠA	6	1	前期	演習	13
70324	生活環境デザイン研究ⅠB	6	1	後期	演習	14
70325	生活環境デザイン研究ⅡA	5	2	前期	演習	15
70326	生活環境デザイン研究ⅡB	5	2	後期	演習	16
70730	論文演習	2	1	後	演習	64

## 環境造形専攻 絵画専修 必修科目

科目コード	科目名	単位	履修年次	学期	授業区分	ページ
70411	絵画研究Ⅰ	12	1	通年	演習	17
70411	絵画研究Ⅰ	12	1	通年	演習	18
70411	絵画研究Ⅰ	12	1	通年	演習	19
70411	絵画研究Ⅰ	12	1	通年	演習	20
70411	絵画研究Ⅰ	12	1	通年	演習	21
70411	絵画研究Ⅰ	12	1	通年	演習	22
70412	絵画研究Ⅱ	12	2	通年	演習	23
70412	絵画研究Ⅱ	12	2	通年	演習	24
70412	絵画研究Ⅱ	12	2	通年	演習	25
70412	絵画研究Ⅱ	12	2	通年	演習	26
70412	絵画研究Ⅱ	12	2	通年	演習	27
70412	絵画研究Ⅱ	12	2	通年	演習	28
70730	論文演習	2	1	後	演習	64

環境造形専攻 彫刻専修 必修科目

科目コード	科目名	単位	履修年次	学期	授業区分	ページ
70511	彫刻研究Ⅰ	12	1	通年	演習	29
70512	彫刻研究Ⅱ	12	2	通年	演習	30
70730	論文演習	2	1	後	演習	64

生活造形専攻・環境造形専攻 選択科目

科目コード	科目名	単位	履修年次	学期	授業区分	ページ
70637	比較美学研究A	2	1～2	後	講義	41
70638	比較美学研究B	2	1～2	前	講義	42
70639	比較芸術学特殊研究A	2	1～2	前	講義	[休講]
70640	比較芸術学特殊研究B	2	1～2	後	講義	[休講]
70653	日本芸術批評史研究A	2	1～2	前	講義	43
70654	日本芸術批評史研究B	2	1～2	後	講義	44
70655	東洋芸術批評史研究A	2	1～2	後	講義	45
70656	東洋芸術批評史研究B	2	1～2	前	講義	[休講]
70643	西洋芸術批評史研究A	2	1～2	後	講義	[休講]
70644	西洋芸術批評史研究B	2	1～2	前	講義	[休講]
70720	民族工芸論研究	4	1～2	通年	講義	[休講]
70659	日本芸術文化学研究A	2	1～2	前	講義	46
70660	日本芸術文化学研究B	2	1～2	後	講義	47
70657	民族芸術文化学研究A	2	1～2	前	講義	48
70658	民族芸術文化学研究B	2	1～2	後	講義	49
70671	東洋芸術文化学研究A	2	1～2	前	講義	50
70672	東洋芸術文化学研究B	2	1～2	後	講義	51
70727	民族芸術学特論	2	1～2	後	講義	73
70812	琉球歌謡論研究A	2	1～2	前	講義	74
70813	琉球歌謡論研究B	2	1～2	後	講義	75
70649	比較工芸史研究	2	1～2	後	講義	[休講]
70712	装飾様式論	2	1～2	後	講義	31
70713	生活環境デザイン論	2	1～2	前	講義	32
70714	産業デザイン論	2	1～2	前	講義	[休講]
70715	映像論	2	1～2	前	講義	[休講]
70716	舞台美術論	2	1～2	後	講義	33
70719	環境芸術演習	2	1～2	前	演習	34

生活造形専攻・環境造形専攻 選択科目

科目コード	科目名	単位	履修年次	学期	授業区分	ページ
70650	民族芸術文化史特論	2	1～2	後	講義	52
70732	比較民俗学研究A	2	1～2	前	講義	76
70733	比較民俗学研究B	2	1～2	後	講義	78
70728	東南アジア文化研究A	2	1～2	前	講義	80
70729	東南アジア文化研究B	2	1～2	後	講義	81
70675	琉球史特論	2	1～2	後	講義	82
70726	東洋工芸史研究	4	1～2	通年	講義	83
70731	造形総合演習	2	2	通年	演習	84

生活造形専攻・環境造形専攻 自由科目

科目コード	科目名	単位	履修年次	学期	授業区分	ページ
70735	染課題演習	2	1～2	前・後	演習	35
70736	織課題演習	2	1～2	前・後	演習	36
70721	陶磁器課題演習	2	1～2	前・後	演習	37
70734	漆工課題演習	2	1～2	前・後	演習	38
70723	デザイン課題演習	2	1～2	前・後	演習	39
70724	絵画課題演習	2	1～2	前・後	演習	[休講]
70725	彫刻課題演習	2	1～2	前・後	演習	40

比較芸術学専攻 選択必修科目

科目コード	科目名	単位	履修年次	学期	授業区分	ページ
70637	比較美学研究A	2	1～2	後	講義	41
70638	比較美学研究B	2	1～2	前	講義	42
70639	比較芸術学特殊研究A	2	1～2	前	講義	[休講]
70640	比較芸術学特殊研究B	2	1～2	後	講義	[休講]
70653	日本芸術批評史研究A	2	1～2	前	講義	43
70654	日本芸術批評史研究B	2	1～2	後	講義	44
70655	東洋芸術批評史研究A	2	1～2	後	講義	45
70656	東洋芸術批評史研究B	2	1～2	前	講義	[休講]
70643	西洋芸術批評史研究A	2	1～2	後	講義	[休講]
70644	西洋芸術批評史研究B	2	1～2	前	講義	[休講]
70649	比較工芸史研究	2	1～2	後	講義	[休講]

比較芸術学専攻 選択必修科目

科目コード	科目名	単位	履修年次	学期	授業区分	ページ
70659	日本芸術文化学研究A	2	1~2	前	講義	46
70660	日本芸術文化学研究B	2	1~2	後	講義	47
70657	民族芸術文化学研究A	2	1~2	前	講義	48
70658	民族芸術文化学研究B	2	1~2	後	講義	49
70671	東洋芸術文化学研究A	2	1~2	前	講義	50
70672	東洋芸術文化学研究B	2	1~2	後	講義	51
70650	民族芸術文化史特論	2	1~2	後	講義	52
70661	芸術学特殊演習A	2	1~2	後	演習	53
70662	芸術学特殊演習B	2	1~2	前	演習	[休講]
70622	比較美学特殊演習 I	4	1	通年	演習	54
70623	比較美学特殊演習 II	4	2	通年	演習	55
70624	比較芸術学特殊演習 I	4	1	通年	演習	56
70625	比較芸術学特殊演習 II	4	2	通年	演習	57
70663	日本美術史特殊演習 I	4	1	通年	演習	58
70664	日本美術史特殊演習 II	4	2	通年	演習	59
70665	東洋美術史特殊演習 I	4	1	通年	演習	60
70666	東洋美術史特殊演習 II	4	2	通年	演習	61
70628	西洋美術史特殊演習 I	4	1	通年	演習	62
70629	西洋美術史特殊演習 II	4	2	通年	演習	63
70669	日本芸術文化学特殊演習 I	4	1	通年	演習	65
70670	日本芸術文化学特殊演習 II	4	2	通年	演習	66
70667	民族芸術文化学特殊演習 I	4	1	通年	演習	67
70668	民族芸術文化学特殊演習 II	4	2	通年	演習	68
70673	東洋芸術文化学特殊演習 I	4	1	通年	演習	69
70674	東洋芸術文化学特殊演習 II	4	2	通年	演習	70

### 比較芸術学専攻 必修科目

科目コード	科目名	単位	履修年次	学期	授業区分	ページ
70651	課題研究Ⅰ	2	2	前・後	演習	71
70652	課題研究Ⅱ	2	2	前・後	演習	72

### 比較芸術学専攻 選択科目

科目コード	科目名	単位	履修年次	学期	授業区分	ページ
70727	民族芸術学特論	2	1～2	後	講義	73
70812	琉球歌謡論研究A	2	1～2	前	講義	74
70813	琉球歌謡論研究B	2	1～2	後	講義	75
70732	比較民俗学研究A	2	1～2	前	講義	76
70733	比較民俗学研究B	2	1～2	後	講義	78
70728	東南アジア文化研究A	2	1～2	前	講義	80
70729	東南アジア文化研究B	2	1～2	後	講義	81
70675	琉球史特論	2	1～2	後	講義	82
70726	東洋工芸史研究	4	1～2	通年	講義	83
70720	民族工芸論研究	4	1～2	通年	講義	[休講]
80553	民族舞踊学研究	4	1～2	通年	講義	85
80551	民族音楽学研究	4	1～2	通年	講義	86
80552	琉球音楽論研究	4	1～2	通年	講義	87
70712	装飾様式論	2	1～2	後	講義	31
70713	生活環境デザイン論	2	1～2	前	講義	32
70714	産業デザイン論	2	1～2	前	講義	[休講]
70715	映像論	2	1～2	前	講義	[休講]
70716	舞台美術論	2	1～2	後	講義	33
70719	環境芸術演習	2	1～2	前	演習	34
70735	染課題演習	2	1～2	前・後	演習	35
70736	織課題演習	2	1～2	前・後	演習	36
70721	陶磁器課題演習	2	1～2	前・後	演習	37
70734	漆工課題演習	2	1～2	前・後	演習	38
70723	デザイン課題演習	2	1～2	前・後	演習	39
70724	絵画課題演習	2	1～2	前・後	演習	[休講]
70725	彫刻課題演習	2	1～2	前・後	演習	40



科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70214	染研究 I	12単位 通年	1	演習	渡名喜はるみ 名護朝和

■**テーマ** 古紅型の調査研究および、染色表現の研究

■**授業の概要**

古典紅型を調査研究し、筒引き・型染めの表現の差異を学ぶ。顔料彩色と藍染め（浸染法）の適正材料の研究を古紅型の色材調査や型紙研究を行う。

■**到達目標**

- ・本学資料館収蔵・鎌倉芳太郎資料の熟覧調査をする事で琉球王朝から近代までの柄構成の題材の変化をまなぶ。
- ・近代型染・染色作家の作品研究。
- ・自己の作品に於ける糊防染の表現方法を広げる。

■**授業計画・方法**

1. 研究室ガイダンス、担当教員と協議の上、研究計画書を作成
2. 研究テーマの決定、研究計画書提出（年間計画表）
3. 写生、紅型研究、フィールドワーク等と並列して染色資料作り
4. 表現技法の研究、作品装丁（裏打ち技法等）について
5. 作品構想、草稿・染色資料を基にディスカッション
6. 研究作品へ向けてテーマやモチーフの選定
7. 研究作品の準備
8. 草稿作成、型紙作成
9. 作業工程の確認（染色、仕上げ等）
10. ディスカッション・中間報告会
11. ディスカッションを踏まえて後期制作確認
12. モチーフ・構想ディスカッション
13. 専修1年研究発表会1月18日～21日
14. 後期制作の補足・展開
15. 作品制作 報告会・研究計画の総括  
定期試験は実施しない。

■**履修上の留意点**（授業以外の学習方法を含む）

- ・美術展、作品展等を観賞し知識を深める。
- ・伝統芸能ならびに舞台美術に触れる機会を作り、創作の糧とする。
- ・公募展、個展など積極的な作品発表が望ましい。

■**成績評価の方法・基準**

□**方法** 平常点30%、成果作品・研究発表70%

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

研究計画書を基に調査研究を積極的に行ったか。自己作品に必要な染色実験・材料研究を行い資料としてまとめているか。提出作品が技術力、独創性など完成度の高い内容か。

■**教科書・参考文献（資料）等**

□**教科書** 特になし

□**テキスト** ディスカッションに必要な資料プリントの配布

□**参考文献** 琉球紅型・城間栄喜作品集（京都書院） 鎌倉芳太郎資料集（沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館）  
伊砂利彦作品集（株式会社用美社） 稲垣稔二郎作品集（京都書院）

□**参考資料** 現代の眼（東京国立近代美術館ニュース 1月号 特別展「現代の型ソメー繰り返すパターン」

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70215	染研究Ⅱ	12単位 通年	2	演習	渡名喜はるみ 名護朝和

## ■テーマ 修了制作としての染色表現の研究

### ■授業の概要

染研究Ⅰで研究した古典紅型を調査研究などの研究成果を基に、自己のオリジナリティを形成し創作紅型を更に展開させ修了制作として発表する

### ■到達目標

- ・近代型染・染色作家の作品研究した上で、自己の作品に於ける糊防染の表現方法を広げる。
- ・色材研究・試色布等を含めた研究成果をファイリングし今後の研究活動の基盤を作る。

### ■授業計画・方法

1. 担当教員と協議の上、前年度の研究計画書を参考に、研究計画書を作成
2. 研究テーマの決定、素材・技法の研究
3. 作品制作について、担当教員とのディスカッション
4. 素材、技法、モチーフを基にディスカッション
5. 草稿・染色資料を基にディスカッション
6. 草稿の確認、型紙作成
7. 作業工程の確認（糊置き、染色、仕上げ等）
8. 中間報告会、作品の状況確認
9. 後期作品制作について担当教員とディスカッション
10. 題目・修了作品制作スケジュール確認
11. 制作（素材技法について検証）
12. 制作（草稿作成、型紙作成）
13. 制作（中間発表、作品の修正、仕上げの確認）
14. 修了作品制作提出
15. 修了作品展、自己評価と作品講評会、ディスカッション  
修士口述試験を実施する（1月下旬）

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・美術展、作品展等を観賞し知識を深める。
- ・伝統芸能ならびに舞台美術に触れる機会を作り、創作の糧とする。
- ・公募展、個展など積極的な作品発表

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点30%、修了作品・口述試験70%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

研究計画書を基に調査研究を積極的に行ったか。自己作品に必要な染色実験・材料研究を行い、口述試験の資料としてまとめあげているか。修了作品が技術力、独創性など完成度の高い内容と成っているか。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特になし

□テキスト ディスカッションに必要な資料プリントの配布

□参考文献 琉球紅型・城間栄喜作品集（京都書院） 鎌倉芳太郎資料集（沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館） 伊砂利彦作品集（株式会社用美社） 稲垣稔二郎作品集（京都書院） 城間栄喜作品集（京都書院）

□参考資料 現代の眼（東京国立近代美術館ニュース 1月号 特別展「現代の型ソメー繰り返すパターン」）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70216	織研究 I	12単位 通年	演習	1	真栄城興茂 花城美弥子

■**テーマ** 織物表現の研究と作品制作

■**授業の概要**

沖縄の染織技術を用いた制作研究と、制作を通して、多彩な色使いや新たな模様などの表現方法の研究を行う。また琉球藍などの天然染料や素材の調査研究を行う。

■**到達目標**

- ・沖縄の伝統染織工芸を基礎として各調査研究・制作を行う。
- ・研究テーマに関し、文献研究、原材料・工程等の調査研究を行い、レポートやファイルとして分類・整理することにより、論理的思考力と文章による表現力を学習する。又、口述発表など、質疑応答やディスカッションを行うことにより、コミュニケーション能力を養う。

■**授業計画・方法**

1. 研究計画、デザイン、意匠設計
2. 素材研究
3. 基礎研究
4. 集中講義1
5. 基礎研究発表
6. 学外研究
7. 制作研究
8. 集中講義2
9. 制作及び研究
10. 中間発表会
11. 制作研究
12. 織物デザイン 意匠設計
13. 製織
14. 仕上げ
15. 後期研究発表・作品講評会  
定期試験は実施しない。

■**履修上の留意点** (授業以外の学習方法を含む)

- ・美術展、作品展等を鑑賞し、知識を深める。
- ・公募展、個展など積極的な作品発表が望ましい。
- ・学外の染織関連機関や産地企業、工房等における研究活動に取り組むことが望ましい。

■**成績評価の方法・基準**

□**方法** 平常点 (30%)、口述・レポート・ファイル (20%) 研究発表・成果作品・成果発表 (50%) の配分とする。  
平常点は参加状況を総合的に評価する。

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
院1年次は調査研究・制作の内容を、完成度、技術力、独創性等を総合的に判断して評価する。  
日常の研究姿勢や展開力、出席状況等も評価の対象とする。  
研究計画書の達成度を評価の対象とする。

■**教科書・参考文献(資料)等**

□**教科書** 特になし

□**テキスト** 必要に応じて適宜指示、紹介する。

□**参考文献** 「沖縄織物の研究」田中俊雄・玲子 紫紅社 / 「沖縄美術全集3」染織編 沖縄タイムス社  
「緋の道」藤本均 毎日新聞社 / 「THE PRIMARY STRUCTURES OF FABRICS」The Textile Museum, Washington, D, C IRENE EMERY / 「Berg Encyclopedia of World Dress and Fashion」

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70217	織研究Ⅱ	12単位 通年	2	演習	真栄城興茂 花城美弥子

■テーマ 織物表現の研究と作品制作の更なる展開

### ■授業の概要

織研究Ⅰに基づき、さらに制作および研究をすすめ、修士作品あるいは修士論文としてまとめる。

### ■到達目標

- ・沖縄の伝統染織工芸を基礎として各調査研究・制作を行う。
- ・研究テーマに関し、文献研究、原材料・工程等の調査研究を行い、レポートやファイルとして分類・整理することにより、論理的思考力と文章による表現力を身につける。また、口述による発表など質疑応答やディスカッションを行うことにより、コミュニケーション能力を養う。

### ■授業計画・方法

1. 修士作品・研究計画、デザイン、意匠設計
2. デザイン、意匠設計、素材研究
3. 修士作品試作研究
4. 集中講義1
5. 修士作品研究発表
6. 学外研究
7. 制作研究
8. 集中講義2
9. 制作研究
10. 中間発表会
11. 修士制作及び研究
12. 織物デザイン、意匠設計
13. 製織
14. 修士作品仕上げ
15. 修了作品展、作品講評会、  
修士口述試験を実施する（2月中旬）

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・美術展、作品展等を鑑賞し、知識を深める。
- ・公募展、個展など積極的な作品発表が望ましい。
- ・学外の染織関連機関や産地企業、工房等における研究活動に取り組むことが望ましい。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（30%）、口述・レポート・ファイル（20%）研究発表・成果作品・成果発表（50%）の配分とする。  
平常点は参加状況を総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

修了作品・研究は、主査（1名）・副査（2名）により総合的に判断・評価する。

修了作品・研究は、完成度、技術力、独創性等を総合的に判断して審査する。

修士作品あるいは修士論文、および口述試験により判断する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特になし

□テキスト 必要に応じて適宜指示、紹介する。

□参考文献 「沖縄織物の研究」田中俊雄・玲子 紫紅社

「沖縄美術全集3」染織編 沖縄タイムス社

「緋の道」藤本均 毎日新聞社

「THE PRIMARY STRUCTURES OF FABRICS」The Textile Museum, Washington, D, C IRENE EMERY

「Berg Encyclopedia of World Dress and Fashion」

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70111	陶磁器研究 I	12 単位・通年	1	演習	山田 聡、島袋 克史 非常勤講師

■テーマ 修士課程における、研究課題の設定

■授業概要 学部で習得した制作技法や扱った素材の再検討を行い大学院における各自の研究テーマ設定する

■到達目標

- ・陶磁器原材料の基礎を理解すること。
- ・陶磁器技法並びに焼成技法を再度習得し、展開を行えること。
- ・各自の研究テーマに基づき、担当教員や指導教員との協議を重ね制作方針を決め、自身の造形理論を構築できること。
- ・制作意図や制作過程など自身の思考（制作理論等）を、齟齬なく他者に対して発言が行えること。

■授業計画・方法

1. 初回ミーティング, 研究テーマ設定, TA 説明
  2. 制作開始・素材研究(胎土、技法等)
  3. 焼成・素材研究(胎土、釉薬等)
  4. 素材研究(釉薬調合、焼成テスト等)
  5. 研究計画書提出、進捗報告会
  6. 学外窯業調査 (学部生合同)
  7. 非常勤講師による前期集中講義 (陶磁器造形論)
  8. 後期計画書提出、後期学部合同ミーティング
  9. 登窯整備 ※学部生合同
  10. 焼成研究・登窯 ※学部生との合同焼成
  11. 学部授業での TA 参加 (土器焼成・予定)
  12. 研究成果物整備
  13. 専修1年研究発表会 (1月18日～21日)
  14. 制作個別指導 (改善点など)
  15. ポートフォリオ制作
- 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・陶磁器研究室は、器物作品制作や造形作品制作を通して、それぞれの領域における理論を探求し、実践的な制作を行える。
- ・工芸専修研究発表会では、成果物 (作品、テストピース、研究記録など) の展示と報告を行うこと。
- ・後期作品提出の際、ポートフォリオの提出すること。研究過程の撮影・画像整理を続けること。
- ・登窯焼成は、学部生と合同で行う。
- ・TA への応募も積極的に行なうこと。

■成績評価の方法・基準

□方法 作品(研究発表会、テストピース、ポートフォリオを含む)70%と平常点(教員とのディスカッションを含む)30%を基に、研究室2教員の合議によって採点する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献(作品)等

□教科書・テキスト

適宜、学生のテーマに沿った図書を紹介する。

□参考文献・参考資料

陶磁器研究室収蔵作品、芸術資料館収蔵作品等。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70112	陶磁器研究Ⅱ	12単位・通年	2	演習	山田 聡、島袋 克史 非常勤講師

#### ■テーマ 修了制作

■授業概要 陶磁器研究Ⅰで研究した成果を踏まえ、より高度な研究制作を行う。

#### ■到達目標

- ・陶磁器原材料の基礎を理解し、陶磁器技法並びに焼成技法を自身の研究テーマに沿って展開を行えること。
- ・各自の研究テーマに基づき、担当教員や指導教員との協議を重ね制作方針を決め、自身の造形理論を構築できること。
- ・完成度、技術力、独創性が備わっている作品制作が行えること。
- ・提出レポートやファイルが過不足なく提出できること。
- ・制作意図や制作過程など自身の思考（制作理論等）を、齟齬なく他者に対して発言が行えること。

#### ■授業計画・方法

1. 研究テーマ、制作計画設定
2. 制作開始・素材研究(胎土、技法等)
3. 焼成・素材研究(胎土、釉薬等)
4. 素材研究(釉薬調合、焼成テスト等)
5. 進捗報告会、研究計画書提出
6. 工芸専修研究発表会（院2）
7. 非常勤講師による前期集中講義（陶磁器造形論）
8. 後期計画
9. 登窯整備 ※学部生合同
10. 素材についての個別指導
11. 成形技法についての個別指導
12. 焼成法についての個別指導
13. 後期研究室報告会（作品提出 12月20日）
14. 修了作品展準備
15. 修了作品展  
修士口述試験を実施する（1月下旬）

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・陶磁器研究室は、器物作品制作や造形作品制作を通して、それぞれの領域における理論を探求し、実践的な制作を行える。
- ・後期作品提出の際、ポートフォリオの提出すること。制作過程の撮影・画像整理を続けること。
- ・TAへの応募も積極的に行なうこと。

#### ■成績評価の方法・基準

##### □方法

- ・修了作品は、主査（1名）・副査（2名）により総合的に判断・評価する。
- ・提出作品、口述試験を含め総合的に判断する。自身の研究目標を十分に達成しているものを優、おおむね達成しているものを良、最低限達成しているものを可、達成していないものを不可とする。
- ・作品（口述試験含む）60％・平常点（教員とのディスカッションを含む）20％・研究報告会発言20％を基に、研究室2教員の合議によって「優・良・可・不可」の4段階評価で行う。

##### □基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（作品）等

##### □教科書・テキスト

適宜、学生のテーマに沿った図書を紹介する

##### □参考文献・参考資料

陶磁器研究室収蔵作品、芸術資料館収蔵作品等

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70116	漆工研究 I	12 単位 通年	1	演習	水上修 諸山正則 (非) 糸数政次 築地久弥 (非) 當眞茂 儀間真紗夫 (非)

■テーマ 社会での活動や修了制作を前提とした漆芸表現の研究

### ■授業の概要

漆工研究 I は、実社会で活動するための基礎と位置づけ、学部で修得した知識、技術や理論を土台とし、さらに高度表現を可能にするため各自のテーマを基に研究を行う。同時に、社会性や時代性についても視野を広げながら研究を進めることを常に意識することが重要となる。課題として学部から続けている「琉球漆芸」を含む「日本漆芸全体」の伝統技法の研究についてもさらに高度な内容の研究を継続する。また、非常勤講師の授業では、「変塗」「実践的で高度な琉球漆芸技法（堆錦・沈金）」「現代漆芸論」を予定している。

### ■到達目標

- ・独自性のある思考・表現を探究し制作に繋げることができる。
- ・漆芸表現の社会性・時代性を意識し偏らず幅広い視野を持つことができる。
- ・よりレベルの高い伝統技法を習得し表現に生かすことができる。

### ■授業計画・方法

1. ディスカッション、研究テーマ決定、研究計画書の作成
2. メインとなる研究：造形及び加飾について、ディスカッション
3. テストピースやモデルによる実験研究
4. 琉球漆芸：加飾について
5. 沈金トレーニング
6. 沈金
7. 堆錦準備
8. 堆錦
9. メインとなる研究：中間チェック、ディスカッション
10. 日本漆芸：加飾について
11. 卵殻
12. 平文
13. 螺鈿
14. 工芸専修研究発表会 1月18日（土）～ 21日（火）
15. メインとなる研究の仕上、講評会

定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・過去から現代までの美術工芸品の鑑賞を通して見識を深める。
- ・様々な展覧会等を訪れ、常に美術工芸界の動向を把握しておく。
- ・学外の産地や教育機関を訪ね幅広い研究を行う。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（授業への参加状況 15%）、プレゼンテーション（15%）、研究内容（工芸専修研究発表会を含む）・研究作品（70%）の割合で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

独自性のある思考・表現をもとに研究されているか。社会性・時代性を意識し幅広い視野を持っているか。レベルの高い伝統技法を表現に生かすことができるか。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□テキスト 教員から各自の研究内容により関係資料の配布がある。

□参考文献 『沖縄美術全集 2 漆芸』 沖縄タイムス社、荒川浩和・徳川義宣 『琉球漆工芸』 日本経済新聞社  
柳橋眞 『蒔絵 田口善国』 アロー・アート・ワークス、『室瀬和美 作品集』 新潮社図書編集室刊

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70117	漆工研究Ⅱ	12単位 通年	2	演習	水上 修 眞 茂 系数 政次

■テーマ 修了制作としての漆芸表現の研究

■授業の概要

学外での発表を前提とし、修了作品のテーマ決定から完成・展示発表までの年間計画を確実に進められるよう研究を行う。

■到達目標

- ・作品制作においては実社会のレベルを念頭に置き、独創的な表現や技術力等が総合的に発揮できる。
- ・6年間の総合力として制作にとどまらず漆芸や工芸全般を取巻く様々な事柄について、偏らない幅広い知識や理論を持ち研究を進めることができる。
- ・他者に分かり易くプレゼンテーション（文章・論文も含む）ができる。

■授業計画・方法

1. ディスカッション、修了作品のテーマ決定
2. 修了作品デザイン決定、年間計画
3. テストピースやモデルによる実験研究
4. 素地制作
5. 素地仕上
6. 下地
7. 下地仕上
8. 下地最終調整、修了作品中間研究報告（前期後半）
9. 塗り
10. 塗り仕上
11. 加飾最終テスト
12. 加飾
13. 加飾仕上
14. 修了作品提出 12月20日（金）17:00
15. 修了作品展示、プレゼンテーション、講評会、ポートフォリオ提出、修士口述試験（2月中旬）  
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・前年度に掲げた留意点も継続する。
- ・卒業修了制作展と共に輪島漆芸美術館で開催される「生新の時 漆芸の未来を拓く」展に出品参加を前提として制作にあたること。
- ・修了制作だけでなく将来必要と思われる研究を並行して行うこと。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（授業への参加状況15%）、プレゼンテーション・ポートフォリオ（15%）、研究内容・研究作品（70%）の割合で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
独自性のある思考・表現をもとに研究されているか。社会性・時代性を意識し幅広い視野を持っているか。レベルの高い伝統技法を表現に生かすことができるか。

■教科書・参考文献（資料）等

- テキスト 教員から各自の研究内容により関係資料の配布がある。
- 参考文献 秋元雄史『工芸未来派 アートする新しい工芸』六耀社、内田繁『茶室とインテリア』工作舎  
相羽高徳『東京妙案開発研究所』日本経済新聞出版社

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70317	視覚伝達デザイン研究 IA	6単位 前期	1	演習	仲本賢、赤嶺雅、 笹原浩造、又吉浩

■テーマ 研究テーマをもとに調査や実験・分析を行い、研究の方向性を決定する。

#### ■授業の概要

視覚伝達デザインに関わる以下の分野の中から、各自でテーマを設定し、技法及び表現の研究を行なう。主に週1回の担当教員（2名）との面接の中から、時代に則した研究テーマを話し合い、高度な職業人としての技術を修得する。研究は、研究室ごとに個人で、あるいはグループで行う。必要な時は学外から非常勤の講師を招いたり、直接企業に出向く等してより実践的なデザインの研究を行なう。

- ・広告やパッケージデザインに関わる領域の研究。
- ・絵本等の編集デザインおよびキャラクターデザインに関わる領域の研究。
- ・写真、ビデオ、アニメーション、Web デザイン等の映像に関わる領域の研究。
- ・グラフィックデザイン、VI、サイン計画の領域の研究。

#### ■到達目標

- ・研究テーマをもとに調査や実験・分析を行い、研究の方向性を決定する。
- ・デザインの社会的役割を理解し、また自ら考察し、学内外で発表の機会を積極的に設け、社会とのつながりが持てるようにする。

#### ■授業計画・方法

- 第1回 プランニング（研究計画）法の指導
  - 第2回 プランニング
  - 第3回 関連項目リサーチ法の指導
  - 第4回 関連項目リサーチ
  - 第5回 プランニング法の指導
  - 第6回 アイディアスケッチ、コンテ等を作成
  - 第7回 素材研究方法の指導
  - 第8回 素材研究、実験等
  - 第9回 ゼミ形式によるグループ内発表と個別指導
  - 第10回 原寸試作等の指導
  - 第11回 原寸試作等
  - 第12回 成果発表会
  - 第13回 成果発表会に関する個別指導
  - 第14回 再創作、変更点制作
  - 第15回 創作ノート提出、次回への展望を指導
- ※ 定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・担当教員（2名）から綿密な指導を受けながら研究を進める。
- ・面接時間（週1回）以外の時間に行なう研究内容についても、担当教員に報告する。

#### ■成績評価の方法・基準

##### □方法

研究成果の総合評価50%、平常点30%、創作ノートやレポート課題等20%

##### □基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。
- テキスト 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。
- 参考文献 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。
- 参考資料 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。

- ・仲本 賢 : 「映像の修辞学」 (ちくま学芸文庫) ロラン・バルト (著)
- ・赤嶺 雅 : 「紙と活版印刷とデザインのこと」 パピエラボ (著)
- ・笹原 浩造 : 「パッケージデザインの教科書 第2版」 日経デザイン (編集)
- ・又吉 浩 : 「アニメーションのつくりかた」 橋本三郎 (著)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70318	視覚伝達デザイン研究 IB	6単位 後期	1	演習	仲本賢、赤嶺雅、 笹原浩造、又吉浩

■テーマ 視覚伝達デザイン研究 IA において決定した方向性に基づき具体案を示す。

#### ■授業の概要

視覚伝達デザイン研究 IA の研究結果を踏まえて、各自テーマを設定し、技法及び表現の研究を行う。主に週 1 回の担当教員（2 名）との面接の中から、時代に則した研究テーマを話し合い、高度な職業人としての技術を修得する。研究は、研究室ごとに個人で、あるいはグループで行う。必要な時は学外から非常勤の講師を招いたり、直接企業に出向く等してより実践的なデザインの研究を行なう。

- ・広告やパッケージデザインに関わる領域の研究。
- ・絵本等の編集デザインおよびキャラクターデザインに関わる領域の研究。
- ・写真、ビデオ、アニメーション、Web デザイン等の映像に関わる領域の研究。
- ・グラフィックデザイン、VI、サイン計画の領域の研究。

#### ■到達目標

- ・視覚伝達デザイン研究 IA において決定した方向性に基づき具体案を示す。
- ・デザインの社会的役割を理解し、また自ら考察し、学内外で発表の機会を積極的に設け、社会とのつながりが持てるようにする。
- ・年度の終わりに研究の成果を発表し、講評を受ける。

#### ■授業計画・方法

- 第 1 回 プランニング（研究計画）法の指導
  - 第 2 回 プランニング
  - 第 3 回 関連項目リサーチ方法の指導
  - 第 4 回 関連項目リサーチ
  - 第 5 回 プランニング方法の指導
  - 第 6 回 アイディアスケッチ、コンテ等を作成
  - 第 7 回 素材研究方法の指導
  - 第 8 回 素材研究、実験等
  - 第 9 回 ゼミ形式によるグループ内発表と個別指導
  - 第 10 回 原寸試作等の指導
  - 第 11 回 原寸試作等
  - 第 12 回 成果発表会
  - 第 13 回 成果発表会に関する個別指導
  - 第 14 回 再創作、変更点制作
  - 第 15 回 年間創作ノート提出、次回への展望を指導
- ※ 定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・担当教員（2 名）から綿密な指導を受けながら研究を進める。
- ・面接時間（週 1 回）以外の時間に行なう研究内容についても、担当教員に報告する。

#### ■成績評価の方法・基準

##### □方法

研究成果の総合評価 50%、平常点 30%、創作ノートやレポート課題等 20%

##### □基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。
- テキスト 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。
- 参考文献 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。
- 参考資料 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。

- ・仲本 賢 : 「映像の修辞学」 (ちくま学芸文庫) ロラン・バルト (著)
- ・赤嶺 雅 : 「紙と活版印刷とデザインのこと」 パピエラボ (著)
- ・笹原 浩造 : 「パッケージデザインの教科書 第 2 版」 日経デザイン (編集)
- ・又吉 浩 : 「アニメーションのつくりかた」 橋本三郎 (著)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70319	視覚伝達デザイン研究ⅡA	5単位 前期	2	演習	仲本賢、赤嶺雅、 笹原浩造、又吉浩

■テーマ 視覚伝達デザイン研究ⅡAにおいて提示した提案内容を具体化する作業を行う。

#### ■授業の概要

視覚伝達デザイン研究ⅡA及びⅡBの研究成果に基づいて修了作品制作を行なう。主に週1回の担当教員（2名）との面接の中から、時代に則した研究テーマを話し合い、高度な専門家としての技術を修得する。学生は研究室ごとに個人で、あるいはグループで研究を行なう。必要な時は学外から非常勤の講師を招き、直接企業に出向く等してより実践的なデザインの研究を行なう。

#### ■到達目標

- ・視覚伝達デザイン研究ⅡAにおいて提示した提案内容を具体化する。
- ・デザインの社会的役割を良く理解し、また自ら考察し、学内外で発表の機会を積極的に設け、社会とのつながりが持てるようつとめる。修了制作（あるいは修了論文）を念頭に入れ、研究を行う。

#### ■授業計画・方法

- 第1回 研究計画の振り返り
  - 第2回 プランニング法の指導
  - 第3回 アイディアスケッチ、コンテ等を制作
  - 第4回 フィールドワーク指導
  - 第5回 フィールドワーク
  - 第6回 素材研究方法の指導
  - 第7回 素材研究、実験等
  - 第8回 デザイン試作等の指導
  - 第9回 デザイン試作等
  - 第10回 ゼミ形式によるグループ内発表と個別指導
  - 第11回 プレゼンテーションボードとディスプレイの指導
  - 第12回 プレゼンテーションボードとディスプレイ制作
  - 第13回 成果発表会
  - 第14回 成果発表会に関する個別指導
  - 第15回 創作ノート提出、次回への展望を指導
- ※ 定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・担当教員（2名）から綿密な指導を受けながら研究を進める。
- ・面接時間（週1回）以外の時間に行なう研究内容についても、担当教員に報告する。

#### ■成績評価の方法・基準

##### □方法

研究成果の総合評価50%、平常点30%、創作ノートやレポート課題等20%

##### □基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。
- テキスト 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。
- 参考文献 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。
- 参考資料 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。

- ・仲本 賢 : 「現代写真論-コンテンポラリーアートとしての写真のゆくえ-」 シャーロット・コットン (著)
- ・赤嶺 雅 : 「ビジュアル・コミュニケーション-効果的な視覚プレゼンの技法」 R.E. ワイルマン (著)
- ・笹原 浩造 : 「現代デザイン論」 藤田 治彦 (著)
- ・又吉 浩 : 「表象と批評 - 映画・アニメーション・漫画」 加藤 幹郎 (著)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70320	視覚伝達デザイン研究ⅡB	5単位 後期	2	演習	仲本賢、赤嶺雅、 笹原浩造、又吉浩

■**テーマ** 視覚伝達デザイン研究ⅡAに引き続き提案内容を具体化する作業を行い、最終成果品として完成させる。

#### ■授業の概要

視覚伝達デザイン研究ⅠA、ⅠB、ⅡAの研究成果に基づいて修了作品制作を行なう。主に週1回の担当教員（2名）との面接の中から、時代に則した研究テーマを話し合い、高度な専門家としての技術を修得する。学生は研究室ごとに個人で、あるいはグループで研究を行なう。必要な時は学外から非常勤の講師を招いたり、直接企業に出向く等してより実践的なデザインの研究を行なう。

#### ■到達目標

- ・視覚伝達デザイン研究ⅡAに引き続き提案内容を具体化する作業を行い、最終成果品として完成させる。
- ・デザインの社会的役割を良く理解し、また自ら考察し、学内外で発表の機会を積極的に設け、社会とのつながりが持てるようにする。
- ・年度の終わりに研究の成果を展示または発表し、講評を受ける。

#### ■授業計画・方法

- 第1回 研究計画の振り返り
- 第2回 スケッチ、コンテ等を制作
- 第3回 上記2回分を提出後、個別指導。
- 第4回 試作
- 第5回 試作後の個別の詳細検討
- 第6回 再試作
- 第7回 ゼミ形式によるグループ内発表と個別指導
- 第8回 プレゼンテーション制作の指導
- 第9回 プレゼンテーション制作
- 第10回 プレゼンテーション試演、および指導
- 第11回 プレゼンテーション再制作
- 第12回 成果発表会
- 第13回 成果発表会に関する個別指導
- 第14回 展示（修了制作展、美術館における5日間）または口頭による発表会
- 第15回 まとめ（口述試験・2月中旬）、年間創作ノート提出、今後の展望を指導

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・担当教員（2名）から綿密な指導を受けながら研究を進める。
- ・面接時間（週1回）以外の時間に行なう研究内容についても、担当教員に報告する。

#### ■成績評価の方法・基準

##### □方法

研究成果の総合評価50%、平常点30%、創作ノートやレポート課題等20%

##### □基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。
- テキスト 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。
- 参考文献 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。
- 参考資料 教員ごとに学生への参考文献が異なるため別記する。

- ・仲本 賢 : 「映像制作ハンドブック」 トムソン・カノーパス (著)
- ・赤嶺 雅 : 「グラフィックデザイナーのサインデザイン」 デザインノート編集部
- ・笹原 浩造 : 「新装版 デザイン随想 離陸 着陸」 亀倉雄策 (著)
- ・又吉 浩 : 「アニメーション・パイプルーアニメーション制作の教科書」 テレコムアニメーションフィルム

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70323	生活環境デザイン研究 I A	6単位 前期	1	演習	座波嘉克 宮里武志 高田浩樹

■テーマ 研究テーマをもとに調査や実験・分析を行い、研究の方向性を決定する。

#### ■授業の概要

生活環境デザインに関わる以下の分野の中から、各自でテーマを設定し、技法及び表現の研究を行なう。主に週1回の担当教員（2名）との面接の中から、時代に則した研究テーマを話し合い、高度な職業人としての技術を修得する。研究は、研究室ごとに個人で、あるいはグループで行う。

- ・都市の外部空間を対象とする環境造形に関する研究。
- ・プロダクトデザイン及び家具などの生活環境に関する研究。
- ・産業デザインにおける造形理論及び制作技術に関する研究。
- ・必要な時は学外から非常勤の講師を招いたり、直接企業に出向く等してより実践的なデザインの研究を行なう。

#### ■到達目標

- ・研究テーマをもとに調査や実験・分析を行い、研究の方向性を決定する。
- ・デザインの社会的役割を良く理解し、また自ら考察し、学内外で発表の機会を積極的に設け、社会とのつながりが持てるようにする。

#### ■授業計画・方法

- 第1回 プランニング（研究計画）法の指導
- 第2回 プランニング
- 第3回 関連項目リサーチ法の指導
- 第4回 関連項目リサーチ
- 第5回 プランニング法の指導
- 第6回 アイディアスケッチ等を制作
- 第7回 素材研究方法の指導
- 第8回 素材研究、実験等
- 第9回 ゼミ形式によるグループ内発表と個別指導
- 第10回 原寸試作等の指導
- 第11回 原寸試作等
- 第12回 成果発表会
- 第13回 成果発表会に関する個別指導
- 第14回 再創作、変更点制作
- 第15回 創作ノート提出、次回への展望を指導

※ 定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・担当教員（2名）から綿密な指導を受けながら研究を進める。
- ・面接時間（週1回）以外の時間に行なう研究内容についても、担当教員に報告する。

#### ■成績評価の方法・基準

##### □方法

研究成果の総合評価50%、平常点30%、レポート課題等20%

##### □基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

##### 【参考文献】

- ・座波 嘉克：「バウハウス（タッシェン・建築デザインシリーズ）」マグダレーナ・ドロステ（著）
- ・宮里 武史：「環境デザイン講義」仙田 満（著）
- ・高田 浩樹：「プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ」JIDA 編集委員会（著）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70324	生活環境デザイン研究 IB	6単位 後期	1	演習	座波嘉克 宮里武志 高田浩樹

■テーマ 生活環境デザイン研究 IA において決定した方向性に基づき具体案を示す。

#### ■授業の概要

生活環境デザイン研究 IA の研究結果を踏まえて、各自でテーマを設定し、技法及び表現の研究を行なう。主に週 1 回の担当教員（2 名）との面接の中から、時代に則した研究テーマを話し合い、高度な職業人としての技術を修得する。研究は、研究室ごとに個人で、あるいはグループで行う。

- ・都市の外部空間を対象とする環境造形に関する研究。
- ・プロダクトデザイン及び家具などの生活環境に関する研究。
- ・産業デザインにおける造形理論及び制作技術に関する研究。
- ・必要な時は学外から非常勤の講師を招いたり、直接企業に出向く等してより実践的なデザインの研究を行なう。

#### ■到達目標

- ・生活環境デザイン研究 IA において決定した方向性に基づき具体案を示す。
- ・デザインの社会的役割を良く理解し、また自ら考察し、学内外で発表の機会を積極的に設け、社会とのつながりが持てるようにする。
- ・年度の終わりに研究の成果を発表し、講評を受ける。

#### ■授業計画・方法

- 第 1 回 プランニング（研究計画）法の指導
  - 第 2 回 プランニング
  - 第 3 回 関連項目リサーチ法の指導
  - 第 4 回 関連項目リサーチ
  - 第 5 回 プランニング法の指導
  - 第 6 回 アイディアスケッチ等を制作
  - 第 7 回 素材研究方法の指導
  - 第 8 回 素材研究、実験等
  - 第 9 回 ゼミ形式によるグループ内発表と個別指導
  - 第 10 回 原寸試作等の指導
  - 第 11 回 原寸試作等
  - 第 12 回 成果発表会
  - 第 13 回 成果発表会に関する個別指導
  - 第 14 回 再創作、変更点制作
  - 第 15 回 年間創作ノート提出、次回への展望を指導
- ※ 定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・担当教員（2 名）から綿密な指導を受けながら研究を進める。
- ・面接時間（週 1 回）以外の時間に行なう研究内容についても、担当教員に報告する。

#### ■成績評価の方法・基準

##### □方法

研究成果の総合評価 50%、平常点 30%、レポート課題等 20%

##### □基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

##### 【参考文献】

- ・座波 嘉克：「家具デザインと製図」森谷 延周（著）
- ・宮里 武史：「住まいの解剖図鑑」増田 奏（著）
- ・高田 浩樹：「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する 71 の知識」JIDA 編集委員会

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70325	生活環境デザイン研究ⅡA	5単位 前期	2	演習	座波嘉克 宮里武志 高田浩樹

■**テーマ** 生活環境デザイン研究ⅡBにおいて提示した提案内容を具体化する作業を行う。

■**授業の概要**

生活環境デザイン研究ⅡA、ⅡBの研究成果に基づいて修了作品制作を行なう。主に週1回の担当教員（2名）との面接の中から、時代に則した研究テーマを話し合い、高度な専門家としての技術を修得する。学生は研究室ごとに個人で、あるいはグループで研究を行なう。必要な時は学外から非常勤の講師を招き、直接企業に出向く等してより実践的なデザインの研究を行なう。

■**到達目標**

- ・生活環境デザイン研究ⅡBにおいて提示した提案内容を具体化する。
- ・デザインの社会的役割を良く理解し、また自ら考察し、学内外で発表の機会を積極的に設け、社会とのつながりが持てるようにする。

■**授業計画・方法**

- 第1回 ディスカッション
- 第2回 研究計画の指導・作成
- 第3回 実施計画の指導・作成
- 第4回 各テーマに基づいた基本調査Ⅰ
- 第5回 各テーマに基づいた素材調査・研究Ⅰ
- 第6回 各テーマに基づいた技法調査・研究Ⅰ
- 第7回 実験的制作（テーマ、コンセプト立案）
- 第8回 実験的制作（アイデア展開）
- 第9回 実験的制作（デザイン計画、基本仕様決定）
- 第10回 実験的制作（制作、仕上げ）
- 第11回 プレゼンテーション計画・作成
- 第12回 成果発表会
- 第13回 成果発表会に関する個別指導
- 第14回 再創作、変更点制作
- 第15回 創作ノート提出、次回への展望を指導

※ 定期試験は実施しない。

■**履修上の留意点**（授業以外の学習方法を含む）

- ・担当教員（2名）から綿密な指導を受けながら研究を進める。
- ・面接時間（週1回）以外の時間に行なう研究内容についても、担当教員に報告する。

■**成績評価の方法・基準**

□**方法**

研究成果の総合評価50%、平常点30%、レポート課題等20%

□**基準**

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■**教科書・参考文献（資料）等**

【参考文献】

- ・座波 嘉克：「木工一樹をデザインする」十時 啓悦（著）
- ・宮里 武史：「意味の生成へ（建築論）」黒川紀章（著）
- ・高田 浩樹：「デザイン論（シリーズ現代工学入門）」田中 央（著）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70326	生活環境デザイン研究ⅡB	5単位 後期	2	演習	座波嘉克 宮里武志 高田浩樹

■**テーマ** 生活環境デザイン研究ⅡAに引き続き提案内容を具体化する作業を行い、最終成果品として完成させる。

■**授業の概要**

生活環境デザイン研究ⅠA、ⅠB、ⅡAの研究成果に基づいて修了作品制作を行なう。主に週1回の担当教員（2名）との面接の中から、時代に則した研究テーマを話し合い、高度な専門家としての技術を修得する。学生は研究室ごとに個人で、あるいはグループで研究を行なう。必要な時は学外から非常勤の講師を招いたり、直接企業に出向く等してより実践的なデザインの研究を行なう。

■**到達目標**

- ・生活環境デザイン研究ⅡAに引き続き提案内容を具体化する作業を行い、最終成果品として完成させる。
- ・デザインの社会的役割を良く理解し、また自ら考察し、学内外で発表の機会を積極的に設け、社会とのつながりが持てるようにする。
- ・年度の終わりに研究の成果を展示または発表し、講評を受ける。

■**授業計画・方法**

- 第1回 ディスカッション
- 第2回 研究計画の見直し・作成
- 第3回 実施計画の指導・作成
- 第4回 各テーマに基づいた基本調査Ⅱ
- 第5回 各テーマに基づいた素材調査・研究Ⅱ
- 第6回 各テーマに基づいた技法調査・研究Ⅱ
- 第7回 本制作（テーマ、コンセプト立案）
- 第8回 本制作（アイデア展開）
- 第9回 本制作（デザイン計画、基本仕様決定）
- 第10回 本制作（制作、仕上げ）
- 第11回 展示及びプレゼンテーション計画・作成
- 第12回 展示設計・アイテム制作・機材準備
- 第13回 展示及びプレゼンテーションの総合確認・指導
- 第14回 修了制作成果発表・展示
- 第15回 まとめ（口述試験・2月中旬）

■**履修上の留意点**（授業以外の学習方法を含む）

- ・担当教員（2名）から綿密な指導を受けながら研究を進める。
- ・面接時間（週1回）以外の時間に行なう研究内容についても、担当教員に報告する。

■**成績評価の方法・基準**

□**方法**

研究成果の総合評価50%、平常点30%、レポート課題等20%

□**基準**

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■**教科書・参考文献（資料）等**

【参考文献】

- ・座波 嘉克：「天童木工」菅澤 光政（著）
- ・宮里 武史：「自然と対話する都市へ」武田史朗 著
- ・高田 浩樹：「プロダクトデザインのためのスケッチワーク」増成和敏（著）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70411	絵画研究 I	12 単位 通年	1	演習	田中 睦治 平井 真人 (非) 非常勤講師

#### ■テーマ

自身の研究テーマに沿った、表現メディアによる制作。

#### ■授業概要

学生自身の研究テーマに沿って、得意とする表現分野の絵画制作（平面、ドローイング）、映像表現、版画表現、インスタレーション（空間表現）、アートパフォーマンス（身体表現）などの個々の表現メディアによる制作深める。さらにグローバル化する社会の中での美術活動の役割を問い、美術家として地域性の表情豊かな「沖縄」から表現活動の発信・研鑽・交流する意義と可能性を高め研究する。

#### ■学習目標

- ・自身の研究テーマ・その意義に沿った、フィールドワークを含むリサーチ、プランニングの展開、作品制作、発表、プレゼンテーションを含むディスカッション等の各能力を養い身に着ける。
- ・それぞれの制作過程における記録、記述能力を養い、実技制作のみならず、研究としての活字表現を含むアーティストブック、文献の収集や各資料作りのプレゼンテーション能力を高める。
- ・自身の表現活動へ向かう動機を大切に、他者と「共感する場」、問題提起できる「場」を創出できるのか、自身による美術ワークショップ、ボランティアとしての活動力も身に着ける。

#### ■授業計画・方法

- 1 教員と面接を繰り返し行いながら、在学期間で取り組む自身の研究テーマ、概要、方法、年間計画を練る。
- 2 ドローイング制作①（ドローイングコミュニケーション展の運営参加と制作）
- 3 ドローイング制作② ドローイングの素材研究と概説講義がある。
- 4 フィールドワーク研究① 生活環境をデッサン、ドローイング、写真やビデオ撮影、オブジェ収集、エッセイを書く、などの好きな方法で行い、身の回りに対する地域観察力を高める。
- 5 フィールドワーク研究② 地域の文化センターや博物館、資料センターを訪ね、地域の中で培われた言い伝えや語り、遺物や資料、歴史を調べるなど情報収集能力を高める。
- 6 制作 I 平面絵画制作、写真やビデオ等の映像表現、版画表現、インスタレーション、アートパフォーマンスなどの個々の学生に対応した表現技術の指導とアドバイスがある。
- 7 制作 II 素材研究 1
- 8 前期成果報告会 ドローイング、フィールドワーク資料、アーティストブック（作品ファイル可）、制作作品 I・II を基に専修油画教員に対してプレゼンテーションを行う。
- 9 制作 III 後学期開始時にガイダンスと面接を行う。素材研究 2
- 10 制作 IV 作家研究・素材研究 3
- 11 制作 V 作家研究・素材研究 4
- 12 コンセプトチェック 自身の制作とアイデンティティーを確認するために、コンセプト（制作意図や意義、動機）の記述チェックを行う。
- 13 展示活動・計画相談
- 14 ワークショップ活動、ボランティア活動報告とディスカッション。
- 15 制作 V 大作制作。1年間の表現活動のまとめ成果レポート（自己評価）提出（1月末）。アーティストブックの提出。ディスカッションと面接。 ※定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ① ディスカッションと個人面接を一定のペースで行いながら授業を進めてゆくの、開始時間を守ること。
- ② 各機材や教室の使用許可願いは、当日でなく、前もって早めに提出すること。

#### ■成績評価の方法・基準

□方法 制作した作品(制作 I～V)、成果レポート、アーティストブックの内容を評価。個展やグループ展での発表、また、展覧会への応募、自主的なワークショップの開催、参加なども積極的に評価の対象にしている。調査資料作成や参考図書などのレポート、個人ファイル作成も評価。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

テキスト・参考文献・参考資料は授業の中で配布する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70411	絵画研究 I	12 単位 通年	2	演習	知花 均 金城 徹 非常勤講師

■テーマ 表現研究における自己と社会

### ■授業の概要

学生の研究概要と計画を元に、共同して実施計画が作成されます。学生の構想する表現研究が、現代社会へ向けて新たな文脈をもってメッセージを創出することは重要なことです。創作の問題意識や課題探求などについてディスカッションを通して深化・明らかにしていきたいと思います。また、表現研究と自己の存在との関連を作品の文脈にどのように位置づけ、世界に作品を発信していくために戦略的に自己のアイデンティティーをどのように位置づけるか。また、現代社会のアクチュアルな問題にどのように関係できるかなど、学生の着眼点から授業を構築していきます。

### ■到達目標

- ・ 研究概要と実施計画を作成し、研究の意義と現代社会へ向けた独自の文脈とメッセージを明文化できる。
- ・ 作家研究を通して研究の関連性と独自性を追求し、自己のアイデンティティーを戦略的にどう位置づけるかを明文化できる。
- ・ 作品発表を通して課題を追求できる。修了制作へ向けた具体的なプランを作成できること。

### ■授業計画・方法

1. 前学期開始 ガイダンス(修士課程におけるディプロマポリシー) 指導体制、環境の整備
2. 研究概要(研究テーマ、研究目的、研究計画と方法)について個別にディスカッション
3. 研究概要の文案についてディスカッション 「創作研究に必要な観点について」、「創作研究の文脈について」
4. 研究指導計画についてディスカッション、研究実施計画及び研究指導計画書の提出
5. 研究計画に沿って活動を実施 毎週定日にディスカッション
6. ドローイング・コミュニケーション展への取り組み ガイダンス
7. ドローイング制作 ドローイング・コミュニケーション展(展示作業の役割、広報、公開デスカッションの進行)
8. 研究実施計画に基づく研究制作
9. 前期研究報告展 ディスカッション 油画研究室にて合同ディスカッション(芸術資料館) 学生の自己評価
10. 夏期 休業 (版画制作へ向けての準備。ただし希望者)
11. 後学期開始 研究計画に沿って活動 試作 版画制作 毎週定日にディスカッション
12. 芸大祭にて版画作品の展示
13. 全国大学版画展へ出品(11月中旬搬入 12月上旬開幕 町田市立国際版画美術館)
- 14.
15. 一年間の研究報告展、ディスカッション(芸術資料館) 一年間の総括 ポートフォリオの提出 自己評価書の提出  
※定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・ 研究計画に沿ってフィールドワーク、文献・資料収集を行う。
- ・ 自己の立脚を確認するために、自身の出自、地域社会の状況、課題などを調査、資料収集の観点を検討する。
- ・ 作家研究の範疇に沖縄の美術工芸に関する資料収集を検討する。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 作品などの創作物 50% ポートフォリオ・コメントペーパー 30% 平常点 20%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□参考文献 『現代美術へ』三井滉、『1970年 - 物質と知覚』読売新聞社、『沖縄文化の軌跡』沖縄県立美術館  
『沖縄文化論』岡本太郎、『鏡と皮膚』谷川渥、『第三の眼』港千尋  
連載『ホルベイン 画家たちの美術史』web 美術手帖 2003年～2009年、『南島 沖縄の建築文化』建築  
資料研究所

□参考資料 収蔵作品

	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70411	絵画研究 I	12 単位 通年	1	演習	高崎 賀朗 非常勤講師

■テーマ 現代における絵画表現・版画表現（シルクスクリーン）についての創作研究

■授業概要 創作表現者への基盤構築を目的として、各自の研究計画、研究作品、研究活動について、コンセプト、素材・技法、新規性、独創性の観点から創作研究指導を行う。各期末には、ディスカッションとレジюме作成により創作研究の総括を行う。これらの研究活動により、創作研究の可能性を探り問題点の把握を目指す。

#### ■到達目標

- ・研究作品のコンセプトの明確化を図り質の高い創作研究を意識できる。
- ・作品制作を通して素材・技法の探究を行い、実験的な創作研究の実践から研究作品を創出できる。
- ・自身の制作と発表の実践及び他者の展覧会等の作品鑑賞研究を通して新規性と独創性を客観的に考察できる。

#### ■授業計画・方法

1. 前学期ガイダンス、これまでの作品ファイルチェック（授業初回に持参）
2. 年間研究計画の立案、ディスカッション
3. 創作研究：発想及び前学期構想計画（エスキース、コンセプトの立案）、ディスカッション
4. 創作研究：前学期中間チェック、ディスカッション
5. 創作研究：素材と技法の応用、前期中間レジюме提出、ディスカッション
6. 創作研究：仕上げ、完成、ディスカッション
7. 創作研究：前学期末チェック：ディスカッション、前学期末レジюме提出（制作、発表の総括）
8. 前期研究発表：油画研究室合同ディスカッション
9. 後学期ガイダンス、ディスカッション
10. 創作研究：発想及び前学期構想計画（エスキース、コンセプトの立案）、ディスカッション
11. 創作研究：後学期中間チェック、ディスカッション
12. 創作研究：素材と技法の応用、後期中間レジюме提出、ディスカッション
13. 創作研究：仕上げ、完成、ディスカッション
14. 創作研究：後学期末チェック：ディスカッション
15. 創作研究：後学期末レジюме提出（制作、発表の総括）

※定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・年間研究計画の立案を十分に検討する。
- ・作品制作における事前研究、取材、資料収集を十分に行う。
- ・創作研究の背景についての変遷がわかるように作品について文書記述を行う。
- ・作品制作・展示発表の記録として、作品ファイルを定期的に作成する。

#### ■成績評価の方法・基準

□方法 成果作品60%、平常点（授業への取り組み状況）20%、提出レジюме20%により総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

適宜教示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70411	絵画研究 I	12 単位 通年	1	演習	平山英樹 香川 亮 関谷 理 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師

#### ■授業概要

- ・テーマに基づいた制作を通して、専門的な技法・技術の修得を図りながら、より造形的な表現の確立を目指す。
- ・自作品について解析し、論述する力を身につける。

#### ■到達目標

- ・自己のテーマに対して深く追究し、表現の独自性を試みる。研究計画に基づき、制作、発表を行い自ら検証する。

#### ■授業計画・方法

第1回 研究計画の作成

第2回 制作Ⅰ・研究①テーマの設定について

第3回 ・研究②支持体について

第4回 ・研究③技法、材料について

第5回 ・研究④新しい画材について

第6回 ・研究⑤表現の追究1

第7回 ・研究⑥表現の追求2

第8回 ・講評 課題の設定

第9回 制作Ⅱ・研究①テーマに掘り下げについて

第10回 ・研究②構想、下図について

第11回 ・研究③マチュールについて

第12回 ・研究④表現の追究1

第13回 ・研究⑤表現の追究2

第14回 ・講評 課題の設定

第15回 制作Ⅲ・研究①テーマの追究

第16回 ・研究②取材、写生のあり方

第17回 ・研究③多様な表現に取り組む

第18回 ・招聘作家の講義、講評

第19回 ・研究④作品の形態について

第20回 ・研究⑥表現の追究1

第21回 ・研究⑦表現の追求2

第22回 ・講評 自己分析 課題の設定

第23回 制作Ⅳ・研究①テーマの追究 構想を深める

第24回 ・研究②表現の可能性を探る

第25回 ・研究③画材の定着について

第26回 ・研究④様々な作品の検証

第27回 ・研究⑤表現の追究1

第28回 ・研究⑥表現の追究2

第29回 ・研究⑦表現の追究3

第30回 ・講評 次年度への課題を探る。

※定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・学内外への発表について、個別に指導を行う。その成果について評価する。

#### ■成績評価の方法・基準

□方法 年間計画に基づいた制作の完成度、専門的技術の修得、発表の成果を問う。また平常点を考慮する。

自らの作品について論述を求め、その内容を検証する。

□基準 到達目標を観点として履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り、評価する。自らのテーマの追究、独創性及び作品の完成度の高さを旨とする。

#### ■教科書・参考文献（資料）等 適宜紹介

科目コード	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70411	12単位 通年	1	演習	平山 英樹 関谷 理 香川 亮 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師

### ■授業概要

#### 【テーマ】

1. 自己の日本画制作を基に、日本画研究制作として創作研究の指導を行います。
2. 自己の日本画表現技法の研究として、素材、素描の研究指導を行います。

### ■学習目標

- ・1、日本画研究制作について、各自のテーマを考えた上で質の高い創作研究を求めます。
- ・2、日本画表現研究の年間を通じて行い、より高度な素材、素描を基に日本画研究制作に結び付けることを求めます。

### ■授業計画・方法

- ① ガイダンス、研究計画作成について（これまでの作品ファイルのチェック）
  - ② 研究計画の提出（年間計画表）
  - ③ 創作研究作品の準備（取材、素描など具体的に）
  - ④ 創作研究に必要な知識や理論の受講計画
  - ⑤ 創作研究作品の中間チェックとディスカッション
  - ⑥ 創作研究作品の講評とまとめ（前期末のチェック）
  - ⑦ 夏期、表現技法研究について
  - ⑧ 夏期、表現技法研究のまとめ
  - ⑨ 研究作品の制作（素材、素描の研究）準備
  - ⑩ 研究作品のテーマやモチーフの選定
  - ⑪ 素描研究について
  - ⑫ 技法研究について
  - ⑬ 研究作品の中間チェックとディスカッション
  - ⑭ 研究作品の講評とまとめ（後期末のチェック）
  - ⑮ 春期、表現技法研究について
- ※定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

日本画制作研究として、各自の制作テーマと主体的な取り組みとしての創作研究を各自で計画して下さい。  
あくまで実質的制作を通じて表現技法と創作研究の日本画制作を合わせて計画して下さい。  
各自の日本画研究制作の作品数や展示など年間計画として事前に用意して下さい。

### ■成績評価の方法・基準

評価は年間を通じて創作研究作品と日本画研究作品の内容を重視し、研究作品提出をもって評価します。  
そのほか表現技法の研究成果についても日本画研究作品の提出を含め要件に入れます。

### ■教科書・参考文献（作品）等

教科書の使用は特にありません。

□使用文献 「日本画の表現技法」(石踊紘一・高嵩三朗 美術出版社)「日本画用語辞典」東京藝術大学院文化保存学日本画研究室  
その他、授業内で使用する文献等は教員が配布します。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70411	絵画研究 I	12 単位 通年	1	演習	平山 英樹 関谷理 香川 亮 非常勤講師

#### ■テーマ

伝統的絵画技法を踏まえながら自己の表現を確立し、現代における新たな絵画様式を目指しつつ実践的な表現研究をおこなっていく。

#### ■授業概要

多様化する絵画様式のなかで、伝統的絵画技法を踏まえながら自己の表現を確立し、現代においての新たな絵画様式の担い手としての育成を目指し、より実践的な表現研究をおこなっていく。二年間の修士課程の前半にあたる本科目では、基礎に忠実な技法を再認識し経年変化の少ない安定した絵画技法の習得と、学内外での発表を前提とした実践的で社会に立脚した活動を通して、研究者としての立場を明示しながら二年次の修了制作への土台づくりをおこなっていく。

#### ■到達目標

- ・修士研究としてふさわしいボリュームを有し、かつ安定した技法表現に優れ、完成度の高い作品を制作することができる。
- ・研究において使用した画材や技法の根拠を述べ、自己の設定したテーマとの関連を論理的に説明することができる。
- ・積極的に学内外の発表に参加し、作品の発表を通じて自己表現やテーマなどを明示しながら他者とのコミュニケーションを行うことができる。
- ・常に先鋭的な意識をもって新たな表現を模索し、現代の美術のなかで制作表現と社会とのかかわりを考察しながら制作をおこなうことができる。

#### ■授業計画・方法

- 第1回 研究テーマ作成：個別指導のもと各自、学部での研究を発展させた研究テーマを作成
- 第2回 年間計画表の作成：個別指導のもと各自、研究テーマに沿った年間計画、それを踏まえた前期計画を作成(修士課程にふさわしいボリュームを有しているか、学外での発表計画があるかに留意)
- 第3回 研究制作の準備：スケッチ、素描、資料収集、データなどで研究の準備を進める
- 第4回 支持体の準備：後の発表形態に関わるので研究テーマに即した支持体を指導、チェック
- 第5回 制作指導：個別指導のもと表現に必要な知識、理論を指導。
- 第6回 中間講評：各制作に中間講評を挟み、研究の客観視のなかでその後の研究計画を組み立てる
- 第7回 研究計画を踏まえて、表現に必要な技能の習得の授業、非常勤講師による講義、実技指導を取り入れる
- 第8回 学内、学外展覧会への出品を含めた具体的準備
- 第9回 講評：前期最後に前期を通しての総評を行う。研究計画の不備や今後の修正を含めた総括をし、後期につなげる
- 第10回 研究テーマ作成：個別指導のもと各自、前期での研究を発展させた研究テーマを作成
- 第11回 後期計画表の作成：個別指導のもと各自、研究テーマに沿った後期計画を作成(前期を踏まえて、充実した年間になるよう後期計画を指導)
- 第12回 テーマをより深めるため、研究の動機付けや題材の選択を追求する
- 第13回 古典、現代の技法と自らの研究を照らし合わせ、より独自性の強い表現の追求
- 第14回 中間講評：各制作に中間講評を挟み、研究の客観視のなかでその後の研究計画を組み立てる
- 第15回 講評：後期最後に年間を通しての総評を行う。研究計画の不備や今後の修正を含めた総括をし、次年度につなげる(特に2年修了制作の研究内容のきっかけになるよう留意)

※定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・各研究について講評会の際、成果と研究報告を行ってください。また作品の展覧会への出品などその後の具体的計画案も報告を行ってください。
- ・普段から授業内容に即した準備(研究のための取材、資料のファイリング)を行ってください。講評会においての成果と報告のなかで研究概要として発表してください。

#### ■成績評価の方法・基準

##### □方法

作品の完成度(50%)、平常点(50%) 平常点は授業への参加状況、研究への積極性、素材への理解など総合的に判断。

##### □基準

「到達目標」を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### 【テキスト・参考文献(作品)等】

テキストに関しては教員が配布。蔵書、資料に関しては図書館での閲覧、貸出の指示、専攻内の蔵書に関しては閲覧の説明を適宜行います。

また、下記2点を参考文献として課題前に閲覧すること。

『マックス・デルナー 絵画技術体系』(ハンス・ゲルト・ミュラー改訂、佐藤一郎訳 美術出版社) 絵画学科室

『日本画用語辞典』(東京藝術大学大学院文化財保存学日本画研究室 株式会社東京美術) 絵画学科室

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70412	絵画研究 II	12 単位 通年	2	演習	田中 睦治 平井 真人 (非) 非常勤講師

#### ■テーマ

絵画研究 I をさらに深化させ自身のコンセプトを修了制作に反映させる。

#### ■授業概要

絵画研究 I で培った作品や資料調査、素材研究を制作活動の養分として、制作内容をさらに発展させる 1 年とする。また、自らの制作活動全体を地域性や社会状況と、生きる身体との相互的な関係として捉え、「制度」としての美術を反射板とし、表現者としての視座や軸足の置き方を考える。制作では、修了制作へ向けて、幅広い美術環境に係わるコンセプトを大切に、素材研究と同時に表現行為が意する象徴性や寓意性、物語性なども図りながら内容としての奥行きを深めていき、自らの潜在的な資質の表出と創作力を高める。

#### ■学習目標

- ・造形的な制作だけでなく、自らの研究の記述や記録によってもプレゼンテーションできるような制作サイクルを作る。
- ・個展やグループ展などの活動を継続的に行いながら、作品を通じてコミュニケーションとして「共感」、問題を共有できる「場所化」の実現性を高める。
- ・修了後も芯のある作家として、また研究者、教育者として活動を続けることができるよう継続的・多角的に取り組む。

#### ■授業計画・方法

- 1 教員と面接を行い、前年度の研究を参考に、1 年間の研究テーマ、概要、方法、年間計画を練る。
- 2 平面絵画制作、ドローイング、写真やビデオ等の映像表現、版画表現、インスタレーション、アートパフォーマンス、エッセイを書くなどの本人に相応しい表現の技術指導とアドバイスがある。
- 3 ドローイング研究 ① 素材研究、ドローイング表現の概説講義がある。
- 4 ドローイング研究 ② 作家研究
- 5 ドローイング関係資料収集とディスカッション。
- 6 修了制作試作 I (コンセプトチェック、プランニング、ドローイング、マケット、を含む。)
- 7 修了制作試作 II
- 8 前期制作報告会 (絵画専攻分野教員参加、資料を含むアーティストブック、作品ファイル、試作 I・II を前にプレゼンテーション、質疑応答)
- 9 修了制作のプランニング (コンセプト、工程計画、素材へのアプローチ、マケット制作、空間表現展参加の希望等) 提出。
- 10 修了作品—実制作 I
- 11 制作チェック
- 12 修了制作—実制作 II
- 13 空間表現展参加など。修了制作展示会場を想定した作品の手直し。
- 14 成果レポート (自己評価) 提出 (1 月末)。アーティストブック、制作ファイルの提出。
- 15 ディスカッションと面接。修了作品提出後、修了審査会。

※定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・学生によっては、学外での制作が多くなる場合があるので、前もって計画を伝えておくこと。
- ・各機材や特別教室の使用願い等は、当日でなく前もって早めに打診して、提出すること。

#### ■成績評価の方法・基準

- 方法 ・制作した作品 (試作 I・II、修了制作 I・II) の内容を評価。
- ・個展やグループ展の開催、また応募公募展や企画展への出展なども評価の対象にしている。
  - ・調査資料や個人ファイル、アーティストブック作成を基に、修了審査会でのプレゼンテーションやディスカッション (質疑応答) を評価。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献 (資料) 等

テキスト・参考文献・参考資料は授業の中で随時配布する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70412	絵画研究Ⅱ	12単位 通年	2	演習	知花 均 金城 徹 非常勤講師

■テーマ 表現研究における自己と社会

### ■授業の概要

絵画研究Ⅰの成果を踏まえて行う本授業において修了作品展へ向けた研究制作のほかに重要なことは、創作研究を継続していくために必要な高度な専門的実技力を養うことです。材料技法の研究や新たな素材や技法の開発のために十分な環境を整備する必要がある、研究制作と成果発表を年間のプログラムの中で繰り返しながら完成度を高めてください。前期研究報告展、後期の空間表現展、2月の修了作品展があり、修士課程の成績評価は合否審査会での口頭試問をもって行われます。

### ■到達目標

- ・ 研究計画に基づいて修了制作を行い、修了作品展で発表できる。
- ・ 研究テーマ、創作研究の文脈、表現手法、現代社会へのメッセージなどに関して研究概要を作成する。
- ・ 二年間の創作研究活動についてポートフォリオを作成することができ、準じてパンフレットを作成し、今後の創作活動に活用することができる。

### ■授業計画・方法

1. 前学期開始 ガイダンス、指導体制、学習環境の整備
2. 研究概要(研究テーマ、研究目的、研究計画と方法)について個別にディスカッション
3. 研究概要の文案についてディスカッション 「創作研究に必要な観点について」、「作品の文脈について」
4. 研究指導計画についてディスカッション、研究実施計画及び研究指導計画書の提出
5. 研究計画に沿って活動を実施 毎週定日にディスカッション
6. ドローイング・コミュニケーション展への取り組み ガイダンス
7. ドローイング制作 ドローイング・コミュニケーション展
8. 研究実施計画に基づく研究制作・試作(修了制作への動き)
9. 前期中間報告展(ドローイング、試作等を展示)前期報告会・油画研究室合同ディスカッション
10. 夏期 休業 (選択;版画制作へ向けての取り組み)
11. 後学期開始 研究計画に沿って活動 毎週定日にディスカッション
12. 修了制作 (選択;全国大学版画展へ出品 11月中旬搬入 会期12月前半 町田市立国際版画美術館)
13. 空間表現展(空間表現へ展開する作品に提供)
14. 修了作品展での展示
15. ポートフォリオの提出、二年間の総括 修士課程 油画研究室において口頭試問 審査会にて成績評価。  
※定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

- ・ 研究計画に沿ってフィールドワーク、文献・資料収集を行う。
- ・ 自己の立脚を確認するために、自身の出自、地域社会の状況、課題などを調査、資料収集の観点を検討する。
- ・ 作家研究の範疇に沖縄の美術工芸に関する資料収集を検討する。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 修了作品などの創作物 50% ポートフォリオ・リーフレット 30% 平常点 20%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□参考文献 『現代美術へ』三井滉、『1970年-物質と知覚』読売新聞社、『沖縄文化の軌跡』沖縄県立美術館  
『沖縄文化論』岡本太郎、『鏡と皮膚』谷川渥、『記憶』港千尋 他。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70412	絵画研究Ⅱ	12単位 通年	2	演習	高崎 賀朗 非常勤講師

■テーマ 現代における絵画表現・版画表現（シルクスクリーン）についての創作研究の深化

■授業概要 「絵画研究Ⅰ」に引き続き、更なる創作研究の深化を目的とした創作研究指導を行う。「絵画研究Ⅰ」における成果と問題点について、研究作品、研究活動、作品発表、レジュメ作成、ディスカッション等により確認を行い、研究作品の応用、展開を図る。これらの研究活動により、更なる創作研究の可能性を探り問題点の改善と、応用、展開を目指す。

#### ■到達目標

- ・研究作品のコンセプトの明確化を図り質の高い創作研究を意識できる。
- ・作品制作を通して素材・技法の探究を行い、実験的な創作研究の実践から研究作品を創出できる。
- ・自身の制作と発表の実践及び他者の展覧会等の作品鑑賞研究を通して新規性と独創性を客観的に考察できる。

#### ■授業計画・方法

1. 前学期ガイダンス、作品ファイルチェック、ディスカッション
  2. 年間研究計画の立案（変更箇所の確認）、ディスカッション
  3. 創作研究：発想及び前学期構想計画（エスキース、コンセプトの立案）、ディスカッション
  4. 創作研究：前学期中間チェック、ディスカッション
  5. 創作研究：素材と技法の応用、前期中間レジュメ提出、ディスカッション
  6. 創作研究：仕上げ、完成、ディスカッション
  7. 創作研究：前学期末チェック：ディスカッション、前学期末レジュメ提出（制作、発表の総括）
  8. 前期創作研究発表：油画研究室合同ディスカッション
  9. 後学期ガイダンス、ディスカッション
  10. 創作研究：発想及び前学期構想計画（エスキース、コンセプトの立案）、ディスカッション
  11. 創作研究：後学期中間チェック、ディスカッション
  12. 創作研究：素材と技法の応用、後期中間レジュメ提出、ディスカッション
  13. 創作研究：仕上げ、完成、ディスカッション
  14. 創作研究：後学期末チェック：ディスカッション、後学期末レジュメ提出（制作、発表の総括）
  15. 修了研究作品発表：ディスカッション（卒業・修了作品展）、口答諮問
- ※定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・年間研究計画の立案を十分に検討する。
- ・作品制作における事前研究、取材、資料収集を十分に行う。
- ・創作研究の背景についての変遷がわかるように作品について文書記述を行う。
- ・作品制作・展示発表の記録として、作品ファイルを定期的に作成する。

#### ■成績評価の方法・基準

□方法 成果作品60%、平常点（授業への取り組み状況）20%、提出レジュメ20%により総合的に審査し評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

適宜教示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70412	絵画研究Ⅱ	12単位 通年	2	演習	平山英樹 香川 亮 関谷 理 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師

#### ■授業概要

年間計画に基づく制作研究を行い、修士作品においてより高い完成度を目指す。

#### ■到達目標

- ・自己のテーマを追究し、修士作品を通して自己表現の確立を図る。
- ・より高度な造形力を養い、独創性のある表現を探求し、修士作品の充実を図る。

#### ■授業計画・方法

- 第1回 年間計画の作成
- 第2回 制作Ⅰ・研究①テーマの設定について
- 第3回 ・研究②支持体について1
- 第4回 ・研究③構想、下図について1
- 第5回 ・研究④表現の多様性について
- 第6回 ・研究⑤自己表現の追究1
- 第7回 ・講評 自己分析 課題の設定
- 第8回 制作Ⅱ・研究①テーマの追究
- 第9回 ・研究②支持体について2
- 第10回 ・研究③構想、下図について2
- 第11回 ・研究④表現の多様性について2
- 第12回 ・研究⑤自己表現の追究2
- 第13回 ・講評 事項分析 課題の設定
- 第14回 修了制作・研究 制作準備 取材 下図 支持体
- 第15回 ・研究①テーマの明確化を図る
- 第16回 ・研究②構想について
- 第17回 ・研究③下図制作
- 第18回 ・研究④地塗り
- 第19回 ・研究⑤自己表現の追究3
- 第20回 ・中間講評1 招聘作家による講義、講評
- 第21回 ・研究⑥表現の追究1
- 第22回 ・研究⑦表現の追究2
- 第23回 ・研究⑧表現の追究3
- 第24回 ・中間講評2
- 第25回 ・研究⑨完成度について1
- 第26回 ・研究⑩表現の追究4
- 第27回 ・研究⑪表現の追究5
- 第28回 ・研究⑫完成度について
- 第29回 ・講評⑬発表について
- 第30回 ・講評（卒業・修了制作展） 口頭試問

※定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・学内外への発表について、個別に指導を行う。その成果について検証する。

#### ■成績評価の方法・基準

□方法 制作Ⅰ、Ⅱ、修了制作の評価70%、平常点30%による総合評価。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。修士作品は、造形性、独創性に優れ、高い技術に裏打ちされた作品であることを求め、完成度の高さを旨とする。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

作品集、資料、美術情報等 適宜紹介

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70412	絵画研究 II	12単位 通年	2	演習	香川 亮 平山 英樹 関谷 理 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師

### ■授業概要

#### 【テーマ】

自己の総合的な創作研究作品の研究制作を行います。これらを踏まえ年間計画を考えた上で、日本画修士作品の完成に取り組みます。

### ■学習目標

- ・日本画表現の創作研究を絵画研究 I に引き続き行い、修士作品の制作研究に結び付けることを求めます。
- ・自己の日本画制作の研究を深め、日本画表現の可能性を広める研究制作を修士作品に求めます。

### ■授業計画・方法

- ① ガイダンス、春期表現技法のまとめ
  - ② 研究計画の作成（年間計画表）
  - ③ 創作研究作品の準備（取材、資料収集など具体的に）
  - ④ 創作研究に必要な知識や理論の受講計画について
  - ⑤ 創作研究作品の中間チェック、ディスカッション
  - ⑥ 創作研究作品の学内、学外の発表計画
  - ⑦ 創作研究作品の講評とまとめ
  - ⑧ 修士作品の具体的な制作計画
  - ⑨ 修士作品の準備（取材、資料収集など）
  - ⑩ 修士作品のテーマやモチーフの選定について
  - ⑪ 修士作品の制作技法研究の指導
  - ⑫ 修士作品の制作表現研究の指導
  - ⑬ 修士作品の中間チェック、ディスカッション
  - ⑭ 修士作品の講評とまとめ
  - ⑮ 後期末チェック、表現技法研究のまとめ
- ※定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

日本画研究制作の成果として、修士作品の発表を目的としています。自己の年間計画として、修士作品に結び付く日本画研究制作のテーマと創作研究を事前に各自が用意して下さい。日本画研究制作の作品数や展示など年間計画を各自が事前に準備して下さい。

### ■成績評価の方法・基準

評価は、あくまで日本画研究制作としての内容を重視し修士作品の提出を持って評価します。日本画表現技法の研究や創作研究作品の提出を含め要件に入れます。

### ■教科書・参考文献（作品）等

教科書の使用は特にありません。

□使用文献 「日本画用語辞典」（東京藝術大学大学院文化保存学日本画研究室編）その他、日本画研究や日本画材料技法研究に必要な参考書は、年間計画に合わせて適宜紹介します。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70412	絵画研究Ⅱ	12単位 通年	2	演習	平山 英樹 関谷理 香川 亮 非常勤講師

### ■テーマ

伝統的絵画技法を踏まえながら自己の表現を確立し、現代における新たな絵画様式を目指しつつ実践的な表現研究をおこなっていく。

### ■授業概要

多様化する絵画様式のなかで、伝統的絵画技法を踏まえながら自己の表現を確立し、現代においての新たな絵画様式の担い手としての育成を目指し、より実践的な表現研究をおこなっていく。二年間の修士課程の後半にあたる本科目では、修士一年次を通して得た経験をもとに前期は学内外での発表を前提としたより実践的で社会とのコミュニケーションを通じた活動から個々の研究制作を客観的な視点から考察し後期の修了制作につなげていく。修了制作は修士二年間の集大成であるだけでなく、研究者としての立場を明示しながら社会のなかで立脚していく足がかりとなるよう制作をおこなっていく。

### ■到達目標

- ・修士研究としてふさわしいボリュームを有し、かつ安定した技法表現に優れ、完成度の高い作品を制作することができる。
- ・研究において使用した画材や技法の根拠を述べ、自己の設定したテーマとの関連を論理的に説明することができる。
- ・積極的に学内外の発表に参加し、作品の発表を通じて自己表現やテーマなどを明示しながら他者とのコミュニケーションを行うことができる。
- ・常に先鋭的な意識をもって新たな表現を模索し、現代の美術のなかで制作表現と社会とのかかわりを考察しながら制作をおこなうことができる。

### ■授業計画・方法

- 第1回 研究テーマ作成：個別指導のもと各自、修士1年での研究を発展させた研究テーマを作成
- 第2回 年間計画表の作成：個別指導のもと各自、研究テーマに沿った年間計画、それを踏まえた前期計画を作成(前期は後期修了制作につながる具体的計画になるよう留意)
- 第3回 研究制作の準備：スケッチ、素描、資料収集、取材、データなどで研究の準備を進める
- 第4回 支持体の準備：後の発表形態に関わるので研究テーマに即した支持体を指導、チェック
- 第5回 制作指導：個別指導のもと表現に必要な知識、理論を指導(修了制作を踏まえた前期制作になるよう留意)
- 第6回 中間講評：各制作に中間講評を挟み、研究の客観視のなかでその後の研究計画を組み立てる
- 第7回 研究計画を踏まえて、表現に必要な技能の習得の授業、非常勤講師による講義、実技指導を取り入れる
- 第8回 学内、学外展覧会への出品を含めた具体的準備
- 第9回 講評：前期最後に前期を通しての総評を行う。研究計画の不備や今後の修正を含めた総括をし、後期につなげる
- 第10回 研究テーマ作成：個別指導のもと各自、前期での研究を発展させた修了テーマを作成
- 第11回 後期計画表の作成：個別指導のもと各自、研究テーマに沿った修了制作計画を作成
- 第12回 テーマをより深めるため、研究の動機付けや題材の選択を追求する(小下図、ドローイングの作成、具体的なイメージ化)
- 第13回 制作
- 第14回 中間講評：各制作に中間講評を挟み、研究の客観視のなかでその後の研究計画を組み立てる
- 第15回 講評：修了制作の講評を行う。

※定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・各研究について講評会の際、成果と研究報告を行ってください。また作品の展覧会への出品などその後の具体的計画案も報告を行ってください。
- ・普段から授業内容に即した準備(研究のための取材、資料のファイリング)を行ってください。講評会においての成果と報告のなかで研究概要として発表してください。

### ■成績評価の方法・基準

#### □方法

作品の完成度(50%)、平常点(50%) 平常点は授業への参加状況、研究への積極性、素材への理解など総合的に判断。

#### □基準

「到達目標」を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### 【テキスト・参考文献(作品)等】

テキストに関しては教員が配布。蔵書、資料に関しては図書館での閲覧、貸出の指示、専攻内の蔵書に関しては閲覧の説明を適宜行います。

また、下記2点を参考文献として課題前に閲覧すること。

『マックス・デルナー 絵画技術体系』(ハンス・ゲルト・ミュラー改訂、佐藤一郎訳 美術出版社) 絵画学科室  
『日本画用語辞典』(東京藝術大学大学院文化財保存学日本画研究室 株式会社東京美術) 絵画学科室

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70511	彫刻研究 I	12 単位 通年	1	演習	波多野 泉 河原 圭佑 非常勤講師 砂川 泰彦 長尾 恵那

## ■テーマ 彫刻表現研究

### ■授業の概要

多様化する現代の美術表現の中で作家としての基盤の確立を目指し、将来にわたって創作活動を継続していくための、より実践的な表現研究を行う。そのために、自己の研究テーマに基づき、材料・技法研究と表現様態の論理的考察を中心に、それぞれの領域における高度な内容の充実をはかり、学内外における発表を前提とした研究を行う。また、アートプロジェクトや展覧会の企画立案、出品から記録までを演習する。

### ■到達目標

- ・ 研究テーマに沿って独創的な造形思考ができる。
- ・ 修士研究相当のボリューム、高い完成度、説得性のある作品を制作できる。
- ・ 自身の見解を論理的に文章に記述し、他者に自身の言葉で分かりやすく説明できる。

### ■授業計画・方法

1. 前期制作プレゼンテーション：作品1点以上・ドローイング複数枚の構想計画
2. 作品構想：テーマの創出、素材・技法の高度な研究（表現素材の特性）
3. 制作に伴う作例研究、作品コンセプトについて担当教員とのディスカッション
4. 素材・技法の検証、展示計画構想
5. 中間発表：制作の方向性チェック
6. 高い完成度の追究
7. 作品の完成度確認、作品展示計画決定
8. 院生成果展：任意の学内施設等において展示発表、自己評価・講評、ディスカッション
9. 後期制作作品コンセプトについて担当教員とのディスカッション
10. 後期制作プレゼンテーション：作品1点以上・ドローイング複数枚の構想計画
11. 素材・技法の検証、展示計画構想
12. 制作：中間発表1：作品コンセプトとの整合確認
13. 制作：作品の構造、表現方法などの修正
14. 制作：中間発表2：作品コンセプトとの整合確認、フィニッシュワークの方向性確認
15. 制作：作品の完成度確認、作品展示計画決定
16. 院1年生展：自己評価と講評、ディスカッション  
定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 各研究テーマに則した作品制作と発表の実践、記録の作成を課題としているので、研究テーマによる日常的な作品構想の習慣が特に大切である。
- ・ 適宜、同研究室学生とのゼミ形式になることもある。
- ・ 表現によっては担当教員以外に相当数の教員が関わることになるので、随時各教員とのコミュニケーションを積極的にとること。場合によっては、合同のミーティングを行うこともある。
- ・ ドローイングや試作等の日頃の研究成果の記録作成を各自で行い、年度末にポートフォリオとして提出する。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（制作への取組）30%、成果物70%による総合評価

〈成果物〉作品2点以上 / 作品コンセプトシート（制作意図等） / ポートフォリオ

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。作品の独創性、説得性、新規性は高く評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

適宜教示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70512	彫刻研究Ⅱ	12単位 通年	2	演習	波多野 泉 河原 圭佑 非常勤講師 砂川 泰彦 長尾 恵那

## ■テーマ 彫刻表現研究

### ■授業の概要

多様化する現代の美術表現の中で作家としての基盤の確立を目指し、将来にわたって創作活動を継続していくための、より実践的な表現研究を行う。そのために彫刻研究Ⅰに引き続き、自己の研究テーマに基づき、材料・技法研究と表現様態の論理的考察を中心に、それぞれの領域における高度な内容の充実をはかり、学内外における発表を前提とした研究を行う。また、アートプロジェクトや展覧会の企画立案、出品から記録までを演習する。

### ■到達目標

- ・研究テーマに沿って独創的な造形思考ができる。
- ・修士研究相当のボリューム、高い完成度、説得性のある作品を制作できる。
- ・自身の見解を論理的に文章に記述し、他者に自身の言葉で分かりやすく説明できる。

### ■授業計画・方法

1. 前期制作プレゼンテーション：作品1点以上・ドローイング複数枚の構想計画
2. 作品構想：テーマの創出、素材・技法の高度な研究（表現素材の特性）
3. 制作に伴う作例研究、作品コンセプトについて担当教員とのディスカッション
4. 素材・技法の検証、展示計画構想
5. 中間発表：制作の方向性チェック
6. 高い完成度の追究
7. 作品の完成度確認、作品展示計画決定
8. 院生成果展：任意の学内施設等において展示発表、自己評価・講評、ディスカッション
9. 後期制作作品コンセプトについて担当教員とのディスカッション
10. 後期制作プレゼンテーション：作品1点以上・ドローイング複数枚の構想計画
11. 素材・技法の検証、展示計画構想
12. 制作：中間発表1：作品コンセプトとの整合確認
13. 制作：作品の構造、表現方法などの修正
14. 制作：中間発表2：作品コンセプトとの整合確認、フィニッシュワークの方向性確認
15. 制作：作品の完成度確認、作品展示計画決定
16. 修了作品展：自己評価と講評、ディスカッション  
定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・各研究テーマに則した作品制作と発表の実践、記録の作成を課題としているので、研究テーマによる日常的な作品構想の習慣が特に大切である。
- ・適宜、研究室学生とのゼミ形式になることもある。
- ・表現によっては担当教員以外に相当数の教員が関わることになるので、随時各教員とのコミュニケーションを積極的にとること。場合によっては、合同のミーティングを行うこともある。
- ・ドローイングや試作等の日頃の研究成果の記録作成を各自で行い、年度末に彫刻研究Ⅰの継続ポートフォリオとして提出する。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（制作への取組）20%、成果物80%による総合評価

〈成果物〉作品2点以上 / 作品コンセプトシート（制作意図等） / ドローイング1点 / ポートフォリオ

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。作品の独創性、説得性、新規性は高く評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

適宜教示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70712	装飾様式論 (隔年開講*奇数年)	2単位 後 (集中)	1~2	講義	岡本亜紀 (非)

■**テーマ** 琉球漆器を中心とした沖縄の伝統工芸の造形や伝統文化を通して、そこに表現された意匠やフォルムを検証する。さらにその広がりや関わりを、自然環境、歴史、中国や日本などの東アジア・東南アジア諸国との交流なども視野に入れつつ、比較検証しながら学習する。

#### ■授業の概要

沖縄の風土、歴史、伝統文化と造形との関わりを、多方面な視点から紹介する。パワーポイントを使用した座学を行い、その後史跡や博物館、美術館の展示で実物を見学する。

#### ■到達目標

- ・美術や工芸などについて造形的な視点から、沖縄の歴史を考察することができる。
- ・沖縄の風土や文化から生じた造形を、論理的に考察し記述することができる。
- ・沖縄と中国、日本、韓国、東南アジア諸国との歴史・文化的関係を概観することができる。

#### ■授業計画・方法

- 第1回 沖縄の風土と造形
  - 第2回 素材と用途
  - 第3回 琉球王国の造形
  - 第4回 琉球の色
  - 第5回 聖と死の造形
  - 第6回 吉祥文様
  - 第7回 近現代沖縄の造形
  - 第8回 民具・民芸
  - 第9回 琉球漆芸の展開 (王国時代)
  - 第10回 琉球漆芸の展開 (近現代)
  - 第11回 海の文様
  - 第12回 アジアの造形
  - 第13回 作品鑑賞 旧跡巡検
  - 第14回 作品鑑賞 博物館
  - 第15回 作品鑑賞 美術館
- 定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・レポートを提出

#### ■成績評価の方法・基準

□**方法** レポート50%・平常点30%・コメントペーパー20%で総合的に評価する。

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献(資料)等

□**教科書** 特になし

□**テキスト** 特になし

□**参考文献** 『すぐわかる沖縄の美術』東京美術 『沖縄県史 図説篇』(予定)

70713	生活環境デザイン論 (隔年開講*奇数年)	2単位 前 (集中)	1~2	講義	前田 慎 (非)
-------	-------------------------	---------------	-----	----	----------

■授業概要

【テーマ】人の使う空間のデザインプロセス概要～建築デザインを題材に解説～

住宅を中心にインテリアや照明など建築デザインプロセスを解説し、生活環境デザインを「人の使う空間」という視点から学ぶ。

■学習目標

住宅を中心に建築計画プロセスを学習し、建築の設計から工事までの建設過程を理解することで、生活環境のデザイン手法と造形力の獲得を目標とする。

■授業計画・方法

- 第1回 建築デザインの基本的内容説明。これから家を建てる一般の人が抱く家に関する疑問について、講師が住宅情報雑誌に連載していた「住宅相談 Q&A」に寄せられた質問の内 50 例を紹介しながら Q&A 形式で授業を進める。No. 1～15 の解説 (例 1.家を建てられる敷地条件について、等)
- 第2回 同上、No. 16～30 の解説。
- 第3回 同上、No. 31～50 の解説。
- 第4回 温度、湿度、日射、風などの環境工学について解説。
- 第5回 最新の工業製品技術について説明し、建築空間や照明器具を例にデザインへの取り入れ術を解説。
- 第6回 実施計画の写真・図面を利用し設計プロセスの解説。講師設計の住宅作品 (グッドデザイン受賞作品) の基本計画から実施設計及び竣工写真を示し、設計プロセスの解説。
- 第7回 講師設計の住宅作品 (グッドデザイン受賞作品) の基本計画から実施設計及び竣工写真を示し、設計プロセスの解説。
- 第8回 講師設計の保育園作品の基本計画から実施設計及び竣工写真を示し、設計プロセスの解説。
- 第9回 講師設計の飲食店等インテリアデザイン作品の基本計画から実施設計及び竣工写真を示し、設計プロセスの解説。
- 第10回 講師現在計画中プロジェクトの基本計画から実施設計等を示し、設計プロセスの解説。
- 第11回 第6回～第9回で解説した計画の現場見学を通して、実スケールで体験し図面で得たイメージとの対比やすり合わせ等を行う。
- 第12回 第6回～第9回で解説した計画の現場見学を通して、実スケールで体験し図面で得たイメージとの対比やすり合わせ等を行う。
- 第13回 第10回で解説したプロジェクトの工事中現場の見学を実施し、作る過程を把握する。
- 第14回 第1回～第13回を踏まえ、課題を行う。グループで課題に取り組み、ディスカッションしながら実施する。
- 第15回 第1回～第13回を踏まえ、課題を行う。グループで課題に取り組み、ディスカッションしながら実施し、プレゼンを行う。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

学期中に示した資料を踏まえ、期末に行う課題に取り組む。講義初めに、期間末の課題テーマを提示するので、授業中に得た知識等をテーマと照らし考察する事。期末課題へつなげる。

■成績評価の方法・基準

□方法

平常点 (30%) 課題への取り組み (15%) 課題 (55%)

「平常点」は授業への参加状況、「課題への取り組み」はグループディスカッションでの作品作りへの取り組み状況 (他人任せにしていないかなど)、「課題」ではその内容について。これらを総合的に判断する。

□基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献 (作品) 等

□教科書 特に提示しない

□テキスト 授業中に提示する

□参考文献 特になし

□参考資料 要望があれば授業中に随時知らせる

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70716	舞台美術論 (隔年開講*奇数年)	2単位 後期 (集中)	1~2	講義	小林優仁 (非)

### ■授業概要

【テーマ】 舞台美術とプロジェクション、そしてプロジェクション・マッピング。

- ・ヨーロッパの劇場と日本の劇場との発展経緯の違いから、日本で普及が遅れたプロジェクションについてその使用法と可能性を探る。

### ■学習目標

- ・舞台美術の歴史、西洋文化との相違の学習、及び映像プロジェクション手法の演習によって、舞台美術への理解を深め、その造形力の向上を図る。
- ・実際にプロジェクターを操作し作品を投影することで、プロジェクションを用いたオペラ、芝居、コンサート、イベントを考察する。

### ■授業計画・方法

- 第1回 古代から現代までの劇場の変遷。
- 第2回 舞台装置製作の実際をオーストリア劇場連盟の大道具製作工場から知る。
- 第3回 劇場に於いてどのようにプロジェクションが用いられたか、実際のオペラ公演での使用例を見る
- 第4回 プロジェクションの方法、作画の方法を学ぶ。
- 第5回 課題を通してエスキースを作る。
- 第6回 耐熱ガラス板への作画方法解説。
- 第7回 作画（上映物）計画。
- 第8回 シナリオ検討。
- 第9回 作画実験。
- 第10回 作画講評及び。
- 第11回 プロジェクターのセッティング、操作を学ぶ。
- 第12回 投影実験。制作した作品を屋外の建物等に投影し、その効果を確認する。
- 第13回 それぞれの行程における手直し。
- 第14回 再投影実験。
- 第15回 講評会及びレポート提出。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

授業では参考資料を提示するが、授業時間内に提示できない資料もある。授業で紹介した参考文献、参考映像資料について授業時間外に図書室等で検索、視聴することが望ましい。なお、レポートを課すので、調査、検討し期限内に提出すること。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点 25%・コメントペーパー25%・レポート 50%で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（作品）等

□教科書 特になし

□テキスト 授業中に提示する

□参考文献

「プロジェクション・マッピング入門」尾崎マサル・著

「分かる!できる!プロジェクション・マッピング」antymark・著

「これからはじめるプロジェクションマッピング」藤川佑介・著

□参考資料

「ハイパープロジェクション演劇「ハイキュー!!」Documentary of “頂の景色” DVD」ウォーリー木下・監督

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70719	環境芸術演習 (奇数年度開講)	2単位 前 (集中)	1~2	演習	竹田 直樹(非)

■テーマ 環境と芸術の関係性について検証した後、パブリックアートやアートプロジェクトにアプローチする。

#### ■授業概要とねらい

野外彫刻、インスタレーション、コミュニケーション型作品、プロジェクト型作品、サブカルチャー型作品などにおける特有の美のメカニズムについて具体例をもって論考し、その上で現実のパブリックアート、アートプロジェクト、美術展覧会、ビジネスアプローチなどにも応用可能な演習を行う。

#### ■到達目標

将来、自立して作家活動を行うために必要となる、1)文章表現力、2)コミュニケーション能力、3)論理的思考力を獲得する。

#### ■授業計画・方法

1. 環境芸術とその周辺 (自然の形、園芸、盆栽など)
2. 環境芸術とその周辺 (世界の庭園：イスラム・インド・中国・韓国)
3. 環境芸術とその周辺 (世界の庭園：ヨーロッパ)
4. 環境芸術とその周辺 (日本の伝統美術：彫刻・絵画・工芸・建築・庭園など)
5. 近年のアートプロジェクトや現代美術展覧会
6. 石仏と銅像
7. 日本のパブリックアート (1950年代と山口県宇部市での出来事)
8. 日本のパブリックアート (1960年代と70年代の状況：作家と作品の選定方法)
9. 日本のパブリックアート (1980年代の状況)
10. 日本のパブリックアート (1990年代の状況とパブリックアートプロジェクト)
11. アメリカのパブリックアートとアースワーク
12. ヨーロッパ、アメリカ、日本のスカルプチャーガーデン
13. アーティストによるランドスケープデザイン
14. 1990年代のアートプロジェクトの始まり
15. 2000年代以降のアートプロジェクトの展開と表現のバリエーション (その1～5)
16. 新たなパブリックアートとしてのサブカルチャーの都市空間への進出
17. 演習/アートプロジェクト、アートギャラリーへの作品提案ための企画書づくり (企画書作成のトレーニング)
18. ディスカッション、まとめ

定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

企画書に関する課題は、本授業終了後3～4週間を目途に提出してもらう。2日目から4日目の内容は、下記の教科書と対応しているので、事前に予習を行うこと。

#### ■成績評価の方法・基準

- 方法 課題70%、ディスカッション(授業への参加度を含む)30%を評価の比重とする総合評価  
演習中のディスカッション等においてはコミュニケーション能力を、提出される課題においては授業内容の理解度、文章表現力、論理的思考力を観点とする。
- 基準 満たすべき要件は、上記の課題とディスカッションの両方において、アーティストとしての何らかの独自の(オリジナリティのある)見解あるいは表現を提示することである。ただし、合格者に対する個別の評点基準については、到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献(作品)等

- 教科書 『アニメの像VS.アートプロジェクト—まちとアートの関係史』(竹田直樹, 公人の友社, 2013)(入手方法は彫刻専攻学科室より指示する。)
- 参考文献 (全て竹田直樹著。本学附属図書館及び彫刻専攻学科室にある。)  
『日本のパブリックアート』(誠文堂新光社, 1995)、『日本の彫刻設置事業』(公人の友社, 1997)、『アートを開く』(公人の友社, 2001)、『まちにアートの風が吹く』(マルモ出版, 2005)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70735	染課題演習	2単位 前・後	1～2	演習	渡名喜はるみ 名護朝和

※染研究室学生を除く。

■テーマ 染表現を自己の造形研究へ生かす。

### ■授業の概要

自己の専修分野以外の造形研究を目的とした染の基礎演習。研究テーマに合わせて技法を選択、その技法の工程を経験する事で工芸染色の基礎的知識を得る。半期（前期又は後期）での演習を予定しているが、専門分野のカリキュラムの都合上、演習期間の調整が必要となる。

### ■到達目標

- ・制作・研究テーマの目的に合わせた技法のプロセスを理論的に理解する。
- ・技法・素材・特性などの組み合わせで表現方法が広がる染色の知識を学ぶ。
- ・自己表現に相応しい応用技法を学び作品・研究成果としてまとめる。
- ・自己の専門分野の造形研究の更なる展開を図る。

### ■授業計画・方法

1. 希望する研究室の教員と面接し、授業計画を建てる。
2. 研究テーマに合った表現方法のディスカッション。
3. 素材、又は機材を決める。
4. 制作スペース、日程決め。
5. モチーフ決め。
6. 草稿準備。
7. 白黒草稿。
8. 色草稿に合わせて工程表作成。
9. 型彫 (技法に合わせて)
10. 色材調整 ( " )
11. 部分染色
12. 全体染色
13. 地染め
14. 染料固着(蒸し等)水元
15. 仕上げ(裏打ち、パネル仕上げ等) 講評。  
定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・事前に決めた授業日、面談日、ディスカッション、講評の予定を変更する場合は、担当教員へ連絡する事。
- ・制作及び調査研究の為の学外での研修後（博物館の熟覧等）はレポートを提出する。
- ・材料費等必要に応じて実習費を徴収する場合がある。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点30%、レポート10% 成果作品・研究成果60%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

受講の際の目的意識を維持して制作・研究したか。研究計画書を基に調査研究を積極的に行ったか。自己作品に必要な染色実験・材料研究を行い資料としてまとめているか。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□教科書 特になし

□テキスト ディスカッションに必要な資料プリントの配布

□参考文献 琉球紅型・城間栄喜作品集(京都書院) 鎌倉芳太郎資料集(沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館)  
伊砂利彦作品集(株式会社用美社) 稲垣稔二郎作品集(京都書院)

□参考資料 特になし

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70736	織課題演習	2単位 前・後	1~2	演習	真栄城興茂 花城美弥子

※織研究室学生を除く

■テーマ 織物表現の基礎演習。

### ■授業の概要

研究テーマとの関連又は必要（希望）により自己の専修分野以外の造形研究を目的とした織の基礎演習。基礎的な過程を経験することより、研究テーマの基礎を演習する。

### ■到達目標

- ・制作・研究したい技術・表現のプロセスを理解し、さらに応用技法を学びながら作品・研究成果としてまとめることを目標とする。このことにより染織の知識・技術や仕組み・素材や特性等、制作・研究に合わせた成果を学ぶ。

### ■授業計画・方法

1. 制作・研究内容についての制作計画
2. 素材研究、デザイン
3. 制作準備、意匠設計
4. 糸染色
5. 仮葎通し 経巻き
6. 綜紬通し
7. 葎通し 織付け
8. 試織
9. 緯糸準備
10. 緯糸染色
11. 緯糸染色
12. 糸繰り
13. 製織
14. 仕上げ
15. 講評、作品、レポート提出  
定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・授業日、面接日、講評等の予定の時間を厳守すること。変更がある場合は担当教員へ連絡すること。
- ・織専修学生とアトリエ等の共同使用をするので、マナーを守ること。
- ・使用する素材など必要に応じて実習費を徴収する場合がある。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点 40%、レポート・ファイル 20%、成果作品・成果研究 40% 平常点は参加状況を総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

各自のテーマに基づいた制作・研究が行えたか。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特になし

□テキスト 織基礎プリント

□参考文献 「沖縄織物の研究」田中俊雄・玲子 紫紅社 / 「沖縄美術全集3」染織編 沖縄タイムス社  
「緋の道」藤本均 毎日新聞社  
「THE PRIMARY STRUCTURES OF FABRICS」The Textile Museum, Washington, D, C IRENE EMERY  
「Berg Encyclopedia of World Dress and Fashion」

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70721	陶磁器課題演習	2単位 前・後	1～2	演習	山田 聡 島袋 克史

※陶磁器研究室学生を除く

#### ■テーマ

他専修学生のための陶磁器制作の基礎研究

#### ■授業概要

自身の専門分野以外である造形領域の研究を目的とした演習。主に陶磁器領域の基礎的製作の習得を行う。

#### ■到達目標

- ・研究テーマに設定し、それに沿った内容の研究制作を行えること。
- ・陶磁器素材による作品制作を行えること。

#### ■授業計画・方法

1. 研究テーマ設定
2. 胎土、技法等の素材解説、試作
3. 研究計画書作成、提出
4. 研究に沿った制作（素材や成形技法の個別指導）
5. 制作実践（制作指導）
6. 素材研究（釉薬調合、焼成テスト等）
7. 進捗報告① 制作
8. 焼成研究（酸化焼成解説）
9. 焼成実践
10. 進捗報告② 焼成
11. 技法研究及び焼成研究（酸化、還元などの基礎）
12. 進捗報告③ 焼成応用
13. 最終個別指導（全体的な改善点など）
14. 最終制作（展開、焼成）
15. 作品講評、レポート提出

定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・受講希望学生の研究テーマとの関連性または必要性により、研究室が判断し受講を許可する。
- ・受講希望学生は、上記の理由により登録前に研究室教員と相談すること。
- ・授業計画を立てる。
- ・陶磁器研究室の学生は、受講できないので注意すること。
- ・主に制作は工芸棟陶磁器制作室で行う。

#### ■成績評価の方法・基準

##### □方法

成果作品・研究成果(テストピース、ポートフォリオなどを含む)50%・平常点(教員とのディスカッションを含む)30%・講評会での発言など20%を基に採点を行う。

##### □基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（作品）等

##### □教科書・テキスト

適宜、学生のテーマに沿った図書を紹介する

##### □参考文献・参考資料

陶磁器研究室収蔵作品、芸術資料館収蔵作品等

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70734	漆工課題演習	2単位 前・後	1~2	演習	水上 修 系数 政次 當眞 茂

※ 漆工研究室学生を除く

■**テーマ** 漆工の研究を専門分野へ生かす

■**授業の概要**

各専門分野の研究テーマとの関連や希望により、自己の専修分野以外の造形研究を目的とした漆工の基礎演習を行う。

■**到達目標**

- ・漆工の知識・素材の特性・構造や技法の特徴等を研究しまとめることができる。
- ・自身の専門分野の研究に生かすことができる。

■**授業計画・方法**

1. 授業計画を立てる
2. 素地制作
3. 布着せ
4. 地付け、研ぎ
5. 切粉付け、研ぎ
6. 錆付け、研ぎ
7. 捨て塗り
8. 捨て塗り研ぎ
9. 化粧錆付け、研ぎ
10. 下塗
11. 下塗研ぎ
12. 中塗り
13. 中塗研ぎ
14. 上塗
15. 仕上げ、講評会 作品・レポート提出

定期試験は実施しない。

■**履修上の留意点** (授業以外の学習方法を含む)

- ・漆工研究室の教員と面談を行い、授業計画を立てる。
- ・漆芸で行っている授業に参加する場合もある。
- ・実習室や機材は共同使用なので注意して使用すること。
- ・研究内容によって材料費等を徴収する。
- ・漆工研究室の学生は履修できない。また“漆かぶれ”での欠席は認めないので注意すること。
- ・参考文献を事前に読んでおくこと。

■**成績評価の方法・基準**

□**方法** 平常点 (授業への参加状況 30%)、研究内容・作品・レポート (70%) の割合で総合的に評価する。

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

漆芸作品の制作について、素材の特徴等を理解し作業ができているか。

■**教科書・参考文献(資料)等**

□**テキスト** 各自の研究内容により関係資料の配布がある。

□**参考文献** 小松大秀/加藤寛『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70723	デザイン課題演習	2単位 前・後	1～2	演習	デザイン専修教員

■テーマ 自己の専修分野以外の造形研究を目的としたデザインの基礎的演習

### ■授業の概要

自身の研究テーマとの関連または必要（希望）により、自己の専修分野以外の造形研究を目的としたデザインの基礎的演習。デザイン専修以外の大学院生が自己の専門分野の補助的な学習、あるいは包括的な学習を行うための演習科目である。

### ■到達目標

- ・受講のはじめに担当する教員と年間の目標と計画を策定し、それを実行すること。
- ・補助的な学習の場合、自己の研究テーマや専門分野の学習を補うデザインの技術や教養の修得を、必要な情報の収集や分類、考察、実験などを通して担当教員と協議しながら計画的に実行することができる。
- ・包括的な学習の場合、ある程度広いデザイン領域に渡る文献や資料を紹介してもらい、必要な情報の収集や分類、考察などを通して担当教員と週1回程度のゼミを中心に知識を共有する方法で包括的なデザイン学習を計画的に実行することができる。

### ■授業計画・方法

（補助的な学習の場合）

1. 初回面談、ガイダンス
2. 研究テーマに関する年間計画の作成
3. 年間研究計画の提出
4. 年間研究計画に関する面談  
（機器、素材、文献、資料などの提示）
5. 実習A開始
6. 実習Aに関する面談
7. 実習Aに関する反省、分析
8. 今後の課題に関する面談
9. 実習B開始
10. 実習Bに関する面談
11. 実習Bに関する反省、分析
12. 今後の課題に関する面談
13. 実習レポートの執筆・提出
14. 実習に関する最終面談
15. 作品あるいはレポートの最終提出

（包括的な学習の場合）

1. 初回面談、ガイダンス
2. 研究テーマに関する年間計画の作成
3. 年間研究計画の提出
4. 年間研究計画に関する面談  
（文献、資料の提示）
5. 文献、資料収集
6. 収集した文献、資料に関する面談
7. 資料などの分析
8. 今後の課題に関する面談
9. 文献、資料の再収集
10. 収集した文献、資料に関する面談
11. 資料などの分析
12. 今後の課題に関する面談
13. 課題レポートの執筆・提出
14. 課題に関する最終面談
15. レポートの最終提出

※ 定期試験は実施しない。

※ 定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・デザイン専修の学生は受講できないので注意すること。
- ・担当教員から綿密な指導を受けながら計画的に演習を進めること。
- ・ゼミ以外の時間に行なう研究内容についても、担当教員に報告すること。

### ■成績評価の方法・基準

#### □方法

作品またはレポート50%・平常点30%・コメントペーパー20%で総合的に評価する。  
上記の3点を考慮しながら担当した教員が協議の上、評価する。

#### □基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 演習の中で提示する
- テキスト 書籍、印刷物など演習の中で提示する
- 参考文献 書籍など演習の中で提示する
- 参考資料 書籍、データ、映像資料、現物など演習の中で提示する

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70725	彫刻課題演習	2単位 前・後	1~2	演習	波多野 泉 砂川 泰彦 河原 圭佑 長尾 恵那 非常勤講師

注：彫刻専修学生を除く。

■テーマ (各自の研究分野に対応したテーマを設定する。)

■授業の概要

研究テーマとの関連又は必要(希望)により、自己の専門分野以外の造形研究を目的として、彫刻の基礎的な演習を行う。

■到達目標

- ・ 研究テーマに沿って独創的な造形思考ができる。
- ・ 自身の見解を論理的に文章に記述し、他者に自身の言葉で分かりやすく説明できる。

■授業計画・方法

1. 前期制作プレゼンテーション：ドローイング複数枚の構想計画
2. 作品構想：テーマの創出、素材・技法の研究(表現素材の特性を理解し制作を開始)
3. 制作に伴う作例研究、
4. 作品コンセプトについて担当教員とのディスカッション
5. 素材・技法の検証、展示計画構想
6. 高い完成度の追究
7. 中間発表：自己評価とディスカッション
8. 後期制作プレゼンテーション：ドローイング複数枚の構想計画
9. 制作：表現素材の特性を理解し制作を開始する。
10. 制作：作品コンセプトについて担当教員とのディスカッション
11. 制作：素材・技法の検証、展示計画構想
12. 制作：作品コンセプトとの整合確認
13. 制作：作品の構造、表現の方法などの修正
14. 制作：作品コンセプトとの整合確認、フィニッシュワーク(密度等)の方向性確認
15. 作品発表：自己評価と講評

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

- ・ 明確な目的をもって臨んで欲しい。
- ・ 登録前に所属専修の研究室指導教員又は担当教員に相談することが望ましい。
- ・ 履修にあたっては特段の制限はないが、彫刻の実技実習の全てが共同の教室(アトリエ・工房)で行われるので、必要に応じて学部の授業への受講を指示することがある。
- ・ 事故防止(適した服装、他者への配慮等)に充分留意して欲しい。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点(制作への取組)30%、成果物70%による総合評価

具体的成果物とそれに至るまでの試作等を中心に、関連する教員の合議により評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。作品の独創性、説得性、新規性は高く評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

適宜教示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70637	比較美学研究 A	2 単位 後期	1~2	講義	喜屋武 盛也

## ■テーマ Form (形式) の理念史

### ■授業の概要

形式 (form) という言葉は学術においてだけではなく社会の様々な場面でも登場するが、芸術を語るうえでも再頻出の言葉のひとつと言ってもよいであろう。しかし、この語の意味するものがあまりに広範に及ぶため、明確に捉えることは困難である。対応する英語 Form を見ても明らかのように、眼前に展開される具体的な「かたち」と結びつくと同時に、極めて抽象的なものを言い当てようとする。本講義は、形式およびそれと深くかかわる言葉の概念史をたどることで、芸術思想の理解の一助とするものである。

### ■到達目標

- ・形式という語について西洋思想史という観点から理解し、説明することができる。

### ■授業計画・方法

1. ガイダンス／形式という語について
2. 形式の歴史を語る困難性
3. 古代の形式理論 1 詩と絵画
4. 古代の形式理論 2 モルフェ、エイドス
5. 古代の形式理論 3 エンテレケイア
6. 中世・ルネサンスの形式理論 1 実体形式と美
7. 中世・ルネサンスの形式理論 2 ディセーニョ
8. 中世・ルネサンスの形式理論 3 素描と色彩
9. 近代の形式理論 1 感覚と概念：モリヌークス問題を発端に
10. 近代の形式理論 2 形式と内容
11. 近代の形式理論 3 モルフォロギア
12. 形式主義の系譜
13. 構造主義とフォルマリズム
14. 「象徴形式」再考
15. 回顧と展望  
定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・テーマに即した内容について、参考文献等を読んで、認識や思索を積み重ねておくこと。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 レポートを課す (100%)

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書

□テキスト

□参考文献

- ・タタルキェヴィッチ「形式 (美学史における)」荒川幾男ほか日本語版編集『西洋思想大辞典』平凡社、1990 (開架参考 130/Se19/1-5)
- ・加藤尚武『「かたち」の哲学』岩波現代文庫
- ・シモンドン『個体化の哲学』法政大学出版局

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70638	比較美学研究 B (奇数年度開講)	2 単位 前期 集中	1~2	講義	関村 誠 (非)

■テーマ 〈かたち〉の比較美学

### ■授業の概要

古代ギリシアの思想における美学に関わる「かたち」や「現れ」などの概念を検討して、その現代的な意味を探り、創造や受容の機能との関わりを考察する。その上で、現代の美学思想や日本思想と比較吟味していく。

### ■到達目標

- ・美学の古典的な基本概念を理解する。
- ・古典的な理論の理解をもとに創造と受容の場における現代的意味を論理的に考察展開することができる。

### ■授業計画・方法

1. 導入：感性論について
2. 古代ギリシアの模倣と再現の理論
3. プラトンにおける美とエロース
4. 感覚機能とイデア論
5. 現れと影
6. 形と型の機能と創造行為
7. 〈かたち〉と〈うつし〉
8. 見える「かたち」と見えない「かたち」
9. 美と魂の浄化
10. 美の内在性
11. 空間と主体性
12. コーラー（場）と風土
13. 風土と芸術
14. 和辻哲郎とギリシア彫刻
15. 定期試験および解説・まとめ

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・授業で扱う概念を知識としてのみではなく、美的感性的経験の中でどのように位置づけられるかなどを含めてディスカッションも行います。
- ・授業で扱った内容を自分自身の感性的経験と比較しつつ反省する。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 論述試験（70%）、平常点（30%）。平常点は授業への参加状況、ディスカッションへの参加やコメントペーパーの提出状況で総合的に評価。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特になし。

□テキスト 授業中に資料を配付する。

□参考文献 プラトン『パイドン』『饗宴』『国家』（プラトン全集）、プロティノス「美について」（プロティノス全集 第一巻）、ミシェル・アンリ『見えないものを見る カンディンスキー論』（法政大学出版局）、和辻哲郎『風土』『古寺巡礼』（岩波文庫）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70653	日本芸術批評史研究A (奇数年度開講)	2単位 前期	1~2	講義	小林 純子

■テーマ 日本の芸術論と美術史

### ■授業の概要

日本の画論・芸術論を講読し、美術にまつわる価値の創造とその変化について考究します。また明確な史観を持って記述された画史を読み、史観の変遷や美術史における歴史叙述の方法について考えます。本年はテキストに狩野安信『画道要訣』、田能村竹田『山中人饒舌』、岡倉天心『東洋の理想』、柳宗悦『琉球の富』等を用いる予定ですが、受講生の専攻分野を考慮して変更する可能性があります。また各自一編の芸術批評を選び、それについて口頭で成果を発表し、さらにレポートを書いて学期末に提出してもらいます。

### ■到達目標

- ・日本の芸術論を批判的に読み、問いを設定することができる。
- ・文献資料、作品等を調査し、得た知識をもとに問いを解決することができる。
- ・自説を持ち、それを合理的に論述することができる。

### ■授業計画・方法

1. オリエンテーション、日本の画史・画論・芸術論について
2. 狩野安信『画道要訣』、狩野派について
3. 狩野安信『画道要訣』、狩野派の画論について
4. 狩野安信『画道要訣』、狩野安信の絵画観について
5. 田能村竹田『山中人饒舌』、文人画について
6. 田能村竹田『山中人饒舌』、田能村竹田について
7. 田能村竹田『山中人饒舌』、田能村竹田の絵画観について
8. 岡倉天心『東洋の理想』、近代の芸術思想について
9. 岡倉天心『東洋の理想』、岡倉天心について
10. 岡倉天心『東洋の理想』、岡倉天心の芸術観について
11. 柳宗悦『琉球の富』、民芸思想について
12. 柳宗悦『琉球の富』、柳宗悦について
13. 柳宗悦『琉球の富』、柳宗悦の沖縄芸術観について
14. 発表の準備
15. 口頭発表、質疑応答  
定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・毎回授業で進捗状況を報告してもらうので、継続的に調査研究する時間をとること。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点 (20%)、口頭発表 (20%)、学期末レポート (80%) で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 特になし

□テキスト 購読する文献を授業中に配布する。

□参考文献 下記の参考文献は芸術学専攻と大学附属図書館が所蔵している。

安村敏信編『定本 日本絵画論大成 第4巻 画道要訣ほか』ペリかん社、1997年

高橋博巳編『定本 日本絵画論大成 第7巻 山中人饒舌ほか』ペリかん社、1996年

岡倉竟三著、隈元謙次郎ほか編『岡倉天心全集』平凡社、1979-1981年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70654	日本芸術批評史研究B (奇数年度開講)	2単位 後期 集中	1~2	講義	未定(非)

※未定 (詳細は決まり次第、掲示します。)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70655	東洋芸術批評史研究 A (奇数年度開講)	2 単位 前期	1~2	講義	金 恵信

## ■テーマ アジア近現代美術の企画展

### ■授業の概要

1990年代以降、日本の主に国公立美術館で開催された東アジア諸地域の美術企画展の中で、国際美術文化交流企画の性格を持ち、複数の地域の専門家・研究者の学術論文が収められている図録の中から、学術的、批評眼のある論考を取りあげて読む。

### ■到達目標

- ・東アジアの近現代を美術館の企画展を通して把握する。
- ・図録の論考を読むことで、美術展示を中心に展開する批評的論点と言説を考察できるようになる。

### ■授業計画・方法

1. 前提:美術館と美術展示 ―国民国家という共同体の中の美術館
2. 東アジアの近現代いう時代とそのイメージとしての美術
3. 1990年代以降日本国公立美術館におけるアジア近現代美術企画展
4. 『「戦場」としての美術館』第三章を読む―批評家と美術館のことを考える前提として
5. 「90年代の韓国美術から―等身大の物語」展(1996) 東京国立近代美術館他
6. 「還流 日韓現代美術」展(1995)愛知県美術館／名古屋市美術館
7. 「アジアのキュービズム展―境界なき対話」展(2005)東京国立近代美術館他
8. 「秘すれば花／東アジアの現代美術」展(2005) 森美術館
9. 「近代の東アジアイメージ」展(2009)豊田市美術館
10. 「アジアをつなぐ―境界を生きる女たち 1984-2012」展(2012) 沖縄県立美術館・博物館他
11. 「官展にみるそれぞれの近代美術―東京・ソウル・台北・長春」展(2014) 兵庫県立美術館他
12. 「アジアにめざめたら:アートが変わる 世界が変わる」展(2018)東京国立近代美術館他
13. アジア美術館という空間 「福岡アジア美術トリエンナーレ」 福岡アジア美術館
14. 「闇に刻む光 アジアの木版画運動」展(2018)福岡アジア美術館
15. 授業のまとめ。定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・示される次のテキスト及び配布資料を熟読する。
- ・日頃積極的に美術展覧会を見て、作品について考えることを授業と並行して行う。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 レポート70%・平常点20%・コメントペーパー10%で総合的に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□教科書

□テキスト

□参考文献

取り上げる展覧会図録

『「戦場」としての美術館―日本近代美術館設立運動／論争史』 朴昭炫著 ブリュッケ 2012

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70659	日本芸術文化学A	2単位 前期	1~2	講義	波平 八郎

■テーマ 日本文学作品（『南方録 覚書』）の講読

■授業の概要

千利休が確立した茶の作法を伝えるとされる『南方録 覚書』を講読する。その際、茶の湯の理論を様々な芸術分野に適用できないか試みる。たとえば、茶の湯の「わび」という理念を文学や美術工芸の分野に適用できるかどうか試みる。

（受講生の興味・関心に応じて講読作品を変更することがある。）

■到達目標

- ・茶の湯の理念を通して、日本文学、その他の分野の芸術理念を理解する。

■授業計画・方法

『南方録 覚書』を逐条講読する。受講生は当該作品について授業中に自身の意見を発表する。また、受講生は分担してテキストを輪読する。

なお、講読するテキストについては、受講生の専門分野を勘案して、受講生と協議の上変更することがある。

テキストが『南方録 覚書』の場合、次のような流れで授業を進めていく。

[前学期]	
1	オリエンテーション
2	茶の湯の心
3	手水鉢
4	利休の師匠
5	かなうはよし、かないたがるはあしし
6	露地に水を打つ
7	雪駄
8	わび茶の花は軽く生ける
9	禁花の歌
10	夜会にも白い花
11	夏は涼しく、冬は暖かに
12	暁の火相
13	暁に汲んだ水
14	暁会と夜会
15	前期まとめ・レポート提出

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

レポートはそれぞれ関心のあるテーマをテキストの中から選んでレポートする。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（50%）、レポート（50%）を総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 なし

□テキスト 筒井紘一訳注 『利休聞き書き 「南方録 覚書」』（講談社学術文庫）

□参考文献 適宜指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70660	日本芸術文化学Ⅱ	2単位 後期	1～2	講義	波平 八郎

■テーマ 日本文学作品（『南方録 覚書』）の講読

■授業の概要

千利休が確立した茶の作法を伝えるとされる『南方録 覚書』を講読する。その際、茶の湯の理論を様々な芸術分野に適用できないか試みる。たとえば、茶の湯の「わび」という理念を文学や美術工芸の分野に適用できるかどうか試みる。

（受講生の興味・関心に応じて講読作品を変更することがある。）

■到達目標

- ・茶の湯の理念を通して、日本文学、その他の分野の芸術理念を理解する。

■授業計画・方法

『南方録 覚書』を逐条講読する。受講生は当該作品について授業中に自身の意見を発表する。また、受講生は分担してテキストを輪読する。

なお、講読するテキストについては、受講生の専門分野を勘案して、受講生と協議の上変更することがある。

テキストが『南方録 覚書』の場合、次のような流れで授業を進めていく。

[後学期]	
1	オリエンテーション
2	雪の茶会の心得
3	雪の夜会の灯籠
4	茶室
5	不完全の美
6	名物の掛物
7	茶の湯における掛物
8	わび茶の料理
9	懐石の作法
10	茶壺の飾り方
11	捨壺
12	風炉
13	釣瓶水指
14	水指の用い方
15	まとめ・レポート提出

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

レポートは、それぞれ関心のあるテーマをテキストの中から選んでレポートする。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（50%）、レポート（50%）を総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 なし

□テキスト 筒井紘一訳注 『利休聞き書き 「南方録 覚書」』（講談社学術文庫）

□参考文献 時代別日本文学史事典編集委員会『時代別 日本文学史事典 近世編』（東京堂出版）・その他適宜指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70657	民族芸術文化学Ⅰ	2単位 前	1~2	講義	鈴木 耕太

## ■テーマ 琉球文学作品の講読と解釈

### ■授業概要

琉球文化を表現するものの中から琉球文学について解釈方法を基礎的に学習する。琉球・沖縄の芸術には琉球語が密接に関わり合っており、前近代に至っては近世琉球の文化や、琉球語（とくに組踊・琉歌語）の解釈が必要不可欠である。本講義では、琉球語の表現を知る手だてとして、おもろさうし・琉歌・組踊を中心とし、さらに南島歌謡など基礎的に学ぶ。特に作品の背景にある人々の感情や、詠まれた（創作された）世界を捉え、一首・または一作品ごとに琉球語の読解、解釈、鑑賞を検討していく。なお、講読するおもろさうし・琉歌・組踊・南島歌謡などのジャンルについては、受講生の専門分野を考慮し、受講生と協議の上決定する。

### ■学習目標

おもろさうし・琉歌・組踊・南島歌謡など一つの作品を正確に解釈できるようになることを目指す。古典琉球語について、用例にあたり、その語が当該作品でどのような意味を担っているかを明らかに出来るようにする。作品一首の解釈・鑑賞へといたる道筋についてその方法を習得し、一首の鑑賞が出来るようになることを最終目標とする。

### ■授業計画・方法

第1回 琉球文学概説	第9回 テキスト講読「組踊」「執心鐘入」第二場
第2回 琉球文学史概説	第10回 発表と鑑賞「おもろさうし」巻一～巻十二より
第3回 テキスト講読「おもろさうし」 巻一～巻十二を中心に	第11回 発表と鑑賞「おもろさうし」 巻十三～巻二十二より
第4回 テキスト講読「おもろさうし」 巻十三～巻二十二を中心に	第12回 発表と鑑賞「琉歌百控」乾柔節流より
第5回 テキスト講読「琉歌百控」乾柔節流より	第13回 発表と鑑賞「琉歌百控」独節流より
第6回 テキスト講読「琉歌百控」独節流より	第14回 発表と鑑賞「琉歌百控」覧節流より
第7回 テキスト講読「琉歌百控」覧節流より	第15回 本講義のまとめ
第8回 テキスト講読「組踊」「執心鐘入」第一場	※定期試験は実施しない。レポートを課す。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修にあたっては、事前に琉球文学の基礎知識、または基礎文献・辞典の活用方法（項目の引き方）などを予習しておくこと。たとえば『沖繩語辞典』『沖繩古語大辞典』その他琉球語の辞典などである。また、先行研究として、池宮正治・玉城政美・波照間永吉などの著書をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

### ■成績評価の方法

通常の授業発表（平常点50%）に加え、発表態度、発表レポート（50%）を元に評価を決定する。

### ■成績評価の基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（作品）等

- 教科書 講義用レジュメや資料を配布する。
- テキスト なし。
- 参考文献（作品）

島袋盛敏・翁長俊郎『琉歌全集』（1968年・武蔵野書店）国立国語研究所『沖繩語辞典』（1963年・大蔵省印刷局）沖繩古語辞典編集委員会編『沖繩古語大辞典』（1995年・角川書店）玉城政美『南島歌謡論』（1991年・砂子屋書房）外間守善『南島文学論』（1994年・角川書店）波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』（1999年・砂子屋書房）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70658	民族芸術文化学Ⅱ	2単位 後	1～2	講義	鈴木 耕太

## ■テーマ 琉球文学作品の講読と解釈

### ■授業概要

琉球文化を表現するものの中から「琉球文学芸能論」について基礎的に学習する。前期に引き続き、詞章解釈を通じて、琉球語の表現やその特性を理解するために、琉歌・組踊を中心とした琉球芸能文学の作品から、作品の背景にある人々の感情や、詠まれた（創作された）世界を捉え、一首・または一作品ごとに琉球語の読解、解釈、鑑賞を検討していく。後期は前期に行った解釈に加え、琉球舞踊や組踊、または祭祀の場で歌われる作品についても言及し、文献だけでなく、観劇やフィールドワークなども加え、深化した発表を行うことを目的とする。

なお、講読するおもろさうし・琉歌・組踊・南島歌謡などのジャンルについては、受講生の専門分野を考慮し、受講生と協議の上決定する。

### ■学習目標

おもろさうし・琉歌・組踊・南島歌謡など一つの作品を正確に解釈できるようになることを目指す。古典琉球語について、用例にあたり、その語が当該作品でどのような意味を担っているかを明らかに出来るようにする。作品一首の解釈・鑑賞へといたる道筋についてその方法を習得し、一首の鑑賞が出来るようになることを最終目標とする。

### ■授業計画・方法

第1回 琉球文学芸能論概説	第11回 発表と鑑賞「琉球古典舞踊」
第2回 琉球芸能史概説	(二才踊・若衆踊)より
第3回 作品鑑賞「琉球古典舞踊」(女踊・老人踊)	第12回 発表と鑑賞「組踊」朝薫五番より
第4回 作品鑑賞「琉球古典舞踊」(二才踊・若衆踊)	第13回 フィールドワーク(朝薫誕生の地、首里儀保・末吉宮)
第5回 作品鑑賞「組踊」朝薫五番より	第14回 フィールドワーク(万寿寺・浦添中頭方西街道、玉城朝薫の墓)
第6回 作品鑑賞「組踊」「大川敵討」前半	第15回 本講義のまとめ
第7回 作品鑑賞「組踊」「大川敵討」後半	
第8回 テキスト講読「組踊」「大川敵討」前半	
第9回 テキスト講読「組踊」「大川敵討」後半	
第10回 発表と鑑賞「琉球古典舞踊」(女踊)より	※定期試験は実施しない。レポートを課す。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

履修にあたっては、「民俗芸術文化学Ⅱ」のシラバスで提示した内容に加え、琉球舞踊・組踊・年中行事などの祭祀を実際に見聞することがのぞましい。毎回の講義に向けて、事前準備を欠かさないこと。

### ■成績評価の方法

通常の授業発表(平常点50%)に加え、発表態度、発表レポート(50%)を元に評価を決定する。

### ■成績評価の基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(作品)等

□教科書 講義用レジュメや資料を配布する。

□テキスト なし。

□参考文献(作品)

「民俗芸術文化学Ⅱ」の参考文献の他に、池宮正治『琉球文学芸能論』、矢野輝雄『組踊への招待』『組踊を聴く』などを参考文献とする。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70671	東洋芸術文化学Ⅰ	2単位 前期	1～2	講義	森 達也

## ■テーマ 東洋工芸史の探求

### ■授業の概要

世界の陶磁器の源流となった中国陶磁の発展史を、時代ごとに詳説する。その背景となった中国を中心としたアジアの歴史についても概説。また、中国陶磁と関係の深い青銅器、漆器、ガラス器、玉器、金銀器など中国工芸全般についても触れる。文献や写真だけでなく、陶片などの実物資料も活用する。

### ■到達目標

- ・中国陶磁の発展史の詳細を把握するとともに、中国工芸全般への理解を深めることを目的とする。
- ・中国陶磁史を通じてアジア工芸史全般を理解することにより、東洋美術史を理解するための基礎を身に着ける。
- ・実物資料を見る機会を設け、研究者として資料調査方法を身に着けることも目標とする。

### ■授業計画・方法

1. オリエンテーション、中国の風土と歴史
  2. 中国陶磁史概説
  3. 新石器時代の土器
  4. 商周時代の土器と原始青磁
  5. 秦・兵馬俑と漢・兵馬俑
  6. 漢時代陶磁の発展
  7. 魏晋南北朝の陶磁
  8. 北朝から唐時代の鉛釉陶器の発展と白磁の誕生
  9. 晩唐の中国陶磁と海外輸出
  10. 青磁の発展－越州窯、耀州窯、汝窯－
  11. 青磁の発展－南宋官窯、龍泉窯－
  12. 白磁の発展－邢窯、定窯、景德鎮窯、徳化窯－
  13. 青花磁器の誕生と発展(景德鎮)
  14. 青花磁器と五彩磁器の展開(景德鎮)
  15. 中国貿易陶磁、授業総括
- ※ 定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

中国史の概説書や中国陶磁史の概説書に目を通してもらいたい

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点40%、レポート60%で評価を行う。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□教科書 なし

□テキスト 資料は講義中にプリントを配布する。

□参考文献 講義中に紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70672	東洋芸術文化学Ⅱ	2単位 後期	1～2	講義	森 達也

## ■テーマ 東洋工芸史の探求

### ■授業の概要

アジア各地の陶磁器の発展史を、地域ごと、時代ごとに詳説する。その背景となったアジアの歴史についても概説。また、陶磁器と関係の深い青銅器、漆器、ガラス器、玉器、金銀器など工芸全般についても触れる。文献や写真だけでなく、陶片などの実物資料も活用する。

### ■到達目標

- ・日本を始めとしたアジア各地（中国を除く）の陶磁の発展史の詳細を把握するとともに、工芸全般への理解を深めることを目的とする。
- ・陶磁史を通じてアジア工芸史全般を理解することにより、東洋美術史を理解するための基礎を身に着ける。
- ・実物資料を見る機会を設け、研究者として資料調査方法を身に着けることも目標とする。

### ■授業計画・方法

1. オリエンテーション、アジアの風土と歴史
2. 日本 原始・古代
3. 日本 中世(前期)
4. 日本 中世(中期)
5. 日本 中世(後期)
6. 日本 桃山
7. 日本 近世
8. 日本 近・現代
9. 日本 琉球陶磁
10. 韓国 原始・古代
11. 韓国 高麗時代
12. 韓国 朝鮮時代
13. 東南アジア
14. 西アジア
15. ヨーロッパ、授業総括

※ 定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

東洋史・日本史・西アジア史の概説書や陶磁史の概説書に目を通してもらいたい。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点40%、レポート60%で評価を行う。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 なし

□テキスト 資料は講義中にプリントを配布する。

□参考文献 講義中に紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70650	民族芸術文化史特論	2単位 後期 集中	1~2	講義	未定

※未定 (詳細は決まり次第、掲示します。)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70661	芸術学特殊演習 A (奇数年度開講)	2 単位 後期 集中	1-2	演習	未定 (非)

※ 未定(詳細は決まり次第、掲示します。)

70622	比較美学特殊演習Ⅰ	4単位 通年	1	演習	喜屋武 盛也
-------	-----------	--------	---	----	--------

■テーマ 英語・ドイツ語を通じて美学芸術学の基礎概念を捉える

■授業概要

英文あるいは独文で書かれた美学事典の記述を読解（具体的には、出来るだけ忠実な日本語訳を作成）する。

■到達目標

・専門的な文献の読解能力および美学芸術学の基礎概念に関する知識を養う。

■授業計画・方法

1. 初回に提示する事典項目に基づいて、各回の担当者を一名あるいは若干名指定する。担当者は進行役を務めつつ、該当する項目について訳文を提示し解説を加える。担当者以外の者は、訳文は作らないまでも当該項目を通読しておく。授業では、文法上の諸問題や訳語の適否のみならず、当該項目についての具体的内容およびそれをめぐる今日的議論について全員で吟味を加える。
2. 項目の選択や分担の詳細については、初回に決定する。進度は参加者の能力や実際の進行状況に応じて調整する。

1 ガイダンス	6 第3課題 訳出	11 第5課題 議論	16 第8課題 訳出	21 第10課題 議論	26 第13課題 訳出
2 第1課題 訳出	7 第3課題 議論	12 第6課題 訳出	17 第8課題 議論	22 第11課題 訳出	27 第13課題 議論
3 第1課題 議論	8 第4課題 訳出	13 第6課題 議論	18 第9課題 訳出	23 第11課題 議論	28 第14課題 訳出
4 第2課題 訳出	9 第4課題 議論	14 第7課題 訳出	19 第9課題 議論	24 第12課題 訳出	29 第14課題 議論
5 第2課題 議論	10 第5課題 訳出	15 第7課題 議論	20 第10課題 訳出	25 第12課題 議論	30 回顧と展望

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

1. 正確な訳文を作成する訓練を積むのが目標であるのと言うまでもないが、そうした作業を通じて美学・芸術学そのものについての理解を深めてゆくことを目指してほしい。そのために、註で引かれている文献はもちろん、関連がある事典や邦語文献にも出来る限り当たって語の意味を確かめておくことが望まれる。
2. 訳文が出来る限りつじつまのあった日本語となるように全力を傾けること。訳文の日本語におかしいところがあったら、99%は誤訳を疑うべきである。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常の授業における取り組みを総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書 なし

□テキスト

*Encyclopedia of Aesthetics.* Michael Kelly (ed.), New York/Tokyo, Oxford University Press, 1998 (開架参考 考 701.1/En/1-4)

*Metzler Lexikon Kunstwissenschaft.* Ulrich Pfisterer (hrsg.), Stuttgart/Waimar, Verlag J. B. Metzler, 2003 (開架洋書 701/P49)

□参考文献

*DICTIONARY OF THE HISTORY OF IDEAS.* NEW YORK: CHARLES SCRIBNER'S, 1973 (地下年鑑及び参考 103/D72/1-5)

荒川幾男ほか日本語版編集『西洋思想大辞典』平凡社、1990 (開架参考 130/Se19/1-5) ※上掲事典の日本語版

佐々木健一『美学辞典』東京大学出版会、1995 (開架一般 701.1/Sa75)

竹内敏雄編『美学事典 増補版』弘文堂、1985 (開架参考 701.03/B42)

*Historisches Wörterbuch der Philosophie.* hrsg. von Joachim Ritter, Basel, Schwabe, 1971-2005 (地下年鑑及び参考 103/H76/1)

*Ästhetische Grundbegriffe : historisches Wörterbuch in sieben Bänden.* hrsg. von Karlheinz Barck [et al.]. Stuttgart, J. B. Metzler, c2000-2005 (開架洋書/簡易一般 701/A85/)

70623	比較美学特殊演習Ⅱ	4単位 通年	2	演習	喜屋武 盛也
-------	-----------	--------	---	----	--------

※「比較美学特殊演習Ⅰ」を履修済みの者を対象とする。

■テーマ 英語・ドイツ語を通じて美学芸術学の基礎概念を捉える

■授業概要

英文あるいは独文で書かれた美学事典を読解（具体的には、出来るだけ忠実な日本語訳を作成）する。

■到達目標

・上記の作業を通じ、美学芸術学の基礎概念に関する知識を習得する／専門的な文献を正確に読解できるようになる

■授業計画・方法

1. 初回に提示する事典項目に基づいて、各回の担当者を一名あるいは若干名指定する。担当者は進行役を務めつつ、該当する項目について訳文を提示し解説を加える。担当者以外の者は、訳文は作らないまでも当該項目を通読しておく。授業では、文法上の諸問題や訳語の適否のみならず、当該項目についての具体的内容およびそれをめぐる今日的議論について全員で吟味を加える。
2. 項目の選択や分担の詳細については、初回に決定する。進度は参加者の能力や実際の進行状況に応じて調整する。

1 ガイダンス	6 第3課題 訳出	11 第5課題 議論	16 第8課題 訳出	21 第10課題 議論	26 第13課題 訳出
2 第1課題 訳出	7 第3課題 議論	12 第6課題 訳出	17 第8課題 議論	22 第11課題 訳出	27 第13課題 議論
3 第1課題 議論	8 第4課題 訳出	13 第6課題 議論	18 第9課題 訳出	23 第11課題 議論	28 第14課題 訳出
4 第2課題 訳出	9 第4課題 議論	14 第7課題 訳出	19 第9課題 議論	24 第12課題 訳出	29 第14課題 議論
5 第2課題 議論	10 第5課題 訳出	15 第7課題 議論	20 第10課題 訳出	25 第12課題 議論	30 回顧と展望

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

1. 正確な訳文を作成する訓練を積むのが目標であるとは言ってもないが、そうした作業を通じて美学・芸術学そのものについての理解を深めてゆくことを目指してほしい。そのために、註で引かれている文献はもちろん、関連がある事典や邦語文献にも出来る限り当たって語の意味を確かめておくことが望まれる。
2. 訳文が出来る限りつじつまのあった日本語となるように全力を傾けること。訳文の日本語におかしいところがあったら、99%は誤訳を疑うべきである。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常の授業における取り組みを総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書 なし

□テキスト

*Encyclopedia of Aesthetics*. Michael Kelly (ed.), New York/Tokyo, Oxford University Press, 1998 (開架参考 701.1/En/1-4)

*Metzler Lexikon Kunstwissenschaft*. Ulrich Pfisterer (hrsg.), Stuttgart/Waimar, Verlag J.B. Metzler, 2003 (開架洋書 701/P49)

□参考文献

*DICTIONARY OF THE HISTORY OF IDEAS*. NEW YORK: CHARLES SCRIBNER'S, 1973 (地下年鑑及び参考 103/D72/1-5)

荒川幾男ほか日本語版編集『西洋思想大辞典』平凡社、1990 (開架参考 130/Se19/1-5) ※上掲事典の日本語版

佐々木健一『美学辞典』東京大学出版会、1995 (開架一般 701.1/Sa75)

竹内敏雄編『美学事典 増補版』弘文堂、1985 (開架参考 701.03/B42)

*Historisches Wörterbuch der Philosophie*. hrsg. von Joachim Ritter, Basel, Schwabe, 1971-2005 (地下年鑑及び参考 103/H76/1)

*Ästhetische Grundbegriffe : historisches Wörterbuch in sieben Bänden*. hrsg. von Karlheinz Barck [et al.]. Stuttgart, J.B. Metzler, c2000-2005 (開架洋書/簡易一般 701/A85/)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70624	比較芸術学特殊演習 I	4 単位 通年	1	演習	土屋 誠一

## ■テーマ 高度なテキスト読解

### ■授業の概要

主として現代の視覚芸術における基本的かつ難解なテキストを読解し、そこから有意義な問題を立てて、思考することを企てる。

### ■到達目標

- ・難解なテキストの読解力を身につけること。

### ■授業計画・方法

本科目で望まれる発表内容は、単に取り上げたテキストの要約を作るのではなく、テキストに対して批評的な眼差しを注ぎ、そこから何らかの問題を抽出し、自らの思考や意見を論理的にプレゼンテーションすることである。担当者以外の受講者も、発表者のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行うことが求められるため、担当者が取り上げたテキストを予習しておく必要がある。

なお、下記各回において表記した、授業会で読み進める頁数は、あくまで目安である。

第1回	イントロダクション、講読テキスト決め	第16回	29-30 頁
第2回	第1 担当者の担当による読み進め 1-2 頁	第17回	31-32 頁
第3回	同様 3-4 頁	第18回	33-34 頁
第4回	同様 5-6 頁	第19回	35-36 頁
第5回	第2 担当者による読み進め 7-8 頁	第20回	37-38 頁
第6回	同様 9-10 頁	第21回	39-40 頁
第7回	同様 11-12 頁	第22回	41-42 頁
第8回	第3 担当者による……といった 13-14 頁	第23回	43-44 頁
第9回	ように、授業回数全30回集中 15-16 頁	第24回	45-46 頁
第10回	して、ひたすらテキスト読 17-18 頁	第25回	47-48 頁
第11回	解に注力する 19-20 頁	第26回	49-50 頁
第12回	21-22 頁	第27回	51-52 頁
第13回	23-24 頁	第28回	53-54 頁
第14回	25-26 頁	第29回	55-56 頁
第15回	27-28 頁	第30回	57-58 頁

※定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

修士論文の執筆を視野に入れるため、研究対象やそれにとまなうテキストの読解能力、論理的な思考能力、明晰かつ懇切丁寧なプレゼンテーション能力、発表のためのレジユメの適切な書き方、さらには論文作成のための作法などの能力を磨くことが求められる。このような能力を身につけるのは困難であるので、不明な点については懇切指導していく。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 受講態度 (100%)

□基準 予習復習含め、授業内容の理解度で成績を判定するので、受講態度で判断する。

### ■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 特になし

□テキスト 特になし (授業内で指示する)

□参考文献 Charles Harrison and Paul Wood(ed.), *Art in Theory 1900-2000*, Blackwell Pub., 2002

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70625	比較芸術学特殊演習Ⅱ	4単位 通年	2	演習	土屋 誠一

※「比較芸術学特殊演習Ⅰ」を履修済みの者を対象とする。

■テーマ 高度なテキスト読解

### ■授業の概要

比較芸術学特殊演習Ⅰに引き続き、主として現代の視覚芸術における基本的かつ難解なテキストを読解し、そこから有意義な問題を立てて、思考することを企てる。

### ■到達目標

- ・比較芸術学特殊演習Ⅰよりも難解なテキストの読解力を身につけること。

### ■授業計画・方法

本科目で望まれる発表内容は、単に取り上げたテキストの要約を作るのではなく、テキストに対して批評的な眼差しを注ぎ、そこから何らかの問題を抽出し、自らの思考や意見を論理的にプレゼンテーションすることである。担当者以外の受講者も、発表者のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行うことが求められるため、担当者が取り上げたテキストを予習しておく必要がある。

なお、下記各回において表記した、授業会で読み進める頁数は、あくまで目安である。

第1回	イントロダクション、講読テキスト決め	第16回	29-30頁
第2回	第1担当者の担当による読み進め 1-2頁	第17回	31-32頁
第3回	同様 3-4頁	第18回	33-34頁
第4回	同様 5-6頁	第19回	35-36頁
第5回	第2担当者による読み進め 7-8頁	第20回	37-38頁
第6回	同様 9-10頁	第21回	39-40頁
第7回	同様 11-12頁	第22回	41-42頁
第8回	第3担当者による……といった 13-14頁	第23回	43-44頁
第9回	ように、授業回数全30回集中 15-16頁	第24回	45-46頁
第10回	して、ひたすらテキスト読 17-18頁	第25回	47-48頁
第11回	解に注力する 19-20頁	第26回	49-50頁
第12回	21-22頁	第27回	51-52頁
第13回	23-24頁	第28回	53-54頁
第14回	25-26頁	第29回	55-56頁
第15回	27-28頁	第30回	57-58頁

※定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

修士論文の執筆を視野に入れるため、研究対象やそれにとまなうテキストの読解能力、論理的な思考能力、明晰かつ懇切丁寧なプレゼンテーション能力、発表のためのレジユメの適切な書き方、さらには論文作成のための作法などの能力を磨くことが求められる。このような能力を身につけるのは困難であるので、不明な点については懇切指導していく。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 受講態度 (100%)

□基準 予習復習含め、授業内容の理解度で成績を判定するので、受講態度で判断する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□教科書 特になし

□テキスト 特になし (授業内で指示する)

□参考文献 Charles Harrison and Paul Wood(ed.), *Art in Theory 1900-2000*, Blackwell Pub., 2002

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70663	日本美術史特殊演習 I	4 単位 通年	1	演習	小林 純子

■テーマ 琉球の仏教美術史研究

■授業の概要

文献購読と作品解釈を中心に、美術史研究の方法と技術、歴史観や美術作品への視点を確立することを目的とします。テキストは主に『琉球国由来記』の「事始」「諸寺旧記」「密門諸寺縁起」等を用い、近世琉球の造形技術と仏教美術について考究します。特に琉球・沖縄美術と日本を含む東アジア美術との比較を行い、アジア美術の共通点や差異を明らかにします。なお、テキストは受講生の専門や興味に合わせて変更する場合があります。

■到達目標

- ・文献の読解能力及び美術史研究の技術を高める。
- ・独自の視点と方法を確立する。
- ・実証的かつ論理的に自説を展開する。

■授業計画・方法

- |                        |                           |
|------------------------|---------------------------|
| 1. オリエンテーション           | 16. 琉球国由来記「諸寺旧記」妙高山天界寺    |
| 2. 琉球の史料と美術            | 17. 琉球国由来記「諸寺旧記」霊徳山崇元寺併国廟 |
| 3. 琉球の造形技術について         | 18. 琉球国由来記「諸寺旧記」天徳山龍福寺    |
| 4. 琉球における仏教について        | 19. 琉球国由来記「諸寺旧記」太平山安国寺    |
| 5. 琉球国由来記「事始」画工        | 20. 琉球国由来記「諸寺旧記」万歳嶺慈眼院    |
| 6. 琉球国由来記「事始」貝摺師       | 21. 琉球国由来記「諸寺旧記」照大寺・西来院   |
| 7. 琉球国由来記「事始」陶工・瓦工     | 22. 琉球国由来記「諸寺旧記」南海山桃林寺    |
| 8. 琉球国由来記「事始」浮織・蕉布     | 23. 琉球国由来記「密門諸寺縁起」波上山護国寺  |
| 9. 琉球国由来記「事始」染物師       | 24. 琉球国由来記「密門諸寺縁起」沖山臨海寺   |
| 10. 琉球国由来記「事始」紙漉       | 25. 琉球国由来記「密門諸寺縁起」八幡神徳寺   |
| 11. 琉球国由来記「事始」錫細工・金細工  | 26. 琉球国由来記「密門諸寺縁起」姑射山神心寺  |
| 12. 琉球国由来記「諸寺旧記」天徳山円覚寺 | 27. 琉球国由来記「密門諸寺縁起」万寿寺・聖現寺 |
| 13. 琉球国由来記「諸寺旧記」弁財天女堂  | 28. 琉球国由来記「密門諸寺縁起」普天間神宮寺  |
| 14. 琉球国由来記「諸寺旧記」福源山天王寺 | 29. 琉球国由来記「密門諸寺縁起」金峰山観音寺  |
| 15. 前期総括               | 30. 後期総括                  |

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・日本美術史特殊演習 I を履修済みのこと。
- ・琉球の美術は現存する伝来品が少なく、美術史学的研究に困難が伴います。記録、画中画、考古遺物までを研究対象にする努力が必要です。講義以外の授業時間は文献の読解やこれらの調整、発表の準備等にあてます。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点 (40%)、前学期レポート (30%)、後学期レポート (30%) で総合的に評価します。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価します。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書：特になし。

□テキスト：購読する文献を授業中に配布します。

□参考文献：外間守善・波照間永吉『定本 琉球国由来記』角川書店、1997 年  
 名幸芳章『沖縄仏教史』護国寺、1968 年  
 知名定寛『沖縄宗教史の研究』榕樹社、1994 年  
 知名定寛『琉球仏教史の研究 (琉球弧叢書 17)』榕樹書林、2008 年  
 (本学附属図書館または芸術学専攻が所蔵しています)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70664	日本美術史特殊演習Ⅱ	4単位 通年	2	演習	小林 純子

■テーマ 琉球の絵画史及び陶芸史研究

### ■授業の概要

演習Ⅰに引き続き、文献購読と作品解釈を中心に、美術史研究の方法と技術、歴史観や美術作品への視点を確立することを目的とします。テキストは主に家譜資料を用い、近世琉球の陶工と画家について考究します。特に琉球・沖縄美術と日本を含む東アジア美術との比較を行い、アジア美術の共通点や差異を明らかにします。なお、テキストは受講生の専門や興味に合わせて変更する場合があります。

### ■到達目標

- ・文献の読解能力及び美術史研究の技術を高める。
- ・独自の視点と方法を確立する。
- ・実証的かつ論理的に自説を展開する。

### ■授業計画・方法

- |                      |                            |
|----------------------|----------------------------|
| 1. オリエンテーション         | 16. 琉球絵画史について              |
| 2. 琉球の史料と美術工芸        | 17. 「欽姓家譜」城間清豊             |
| 3. 琉球の造形技術について       | 18. 「李姓家譜」崎山喜俊             |
| 4. 琉球陶芸史について         | 19. 「王偏に處姓家譜」石嶺傳莫・傳福       |
| 5. 「新参宿姓家譜」平田典通      | 20. 「査姓家譜」上原真知・仲宗根真秀・真裕・真補 |
| 6. 「新参宿姓家譜」平田典寛      | 21. 「呉姓家譜」山口宗季             |
| 7. 「新参関姓家譜」嘉手納憑武     | 22. 「殷姓家譜」座間味庸昌            |
| 8. 「新参珠姓家譜」仲宗根喜元     | 23. 「査姓家譜」仲宗根              |
| 9. 「新参用姓家譜」仲村渠致元     | 24. 「呉姓家譜」屋慶名政賀            |
| 10. 「新参用姓家譜」仲村渠致英    | 25. 「向姓家譜」小橋川朝安            |
| 11. 「新参用姓家譜」仲村渠致教・致安 | 26. 「張姓家譜」島袋宗雍             |
| 12. 「新参用姓家譜」仲村渠致救    | 27. 「慎姓家譜」泉川寛英             |
| 13. 「新参用姓家譜」仲村渠致真    | 28. 「張姓家譜」島袋宗雍・寛郁          |
| 14. 「新参用姓家譜」仲村渠致命    | 29. 「毛姓家譜」佐渡山安健            |
| 15. 前期総括             | 30. 後期総括                   |

定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・日本美術史特殊演習Ⅰを履修済みのこと。
- ・琉球の美術は現存する伝来品が少なく、美術史学的研究に困難が伴います。記録、画中画、考古遺物までを研究対象にする努力が必要です。講義以外の授業時間は文献の読解やこれらの調整、発表の準備等に当てます。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点 (40%)、前学期レポート (30%)、後学期レポート (30%) で総合的に評価します。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価します。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□教科書 特になし。

□テキスト 購読する文献を授業中に配布します。

□参考文献 比嘉朝健「琉球歴代陶工家譜」『美術研究』第49・50・52号、美術研究所、1936年  
比嘉朝健「琉球歴代画家譜」『美術研究』第45・48号、美術研究所、1935年  
波照間永吉『鎌倉芳太郎資料集(ノート篇)第一巻 美術・工芸』沖縄県立附属研究所2004年  
(所蔵図書館で複写のこと)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70665	東洋美術史特殊演習 I	4単位 通年	1	演習	金 恵信

■テーマ 東洋美術史の概念と造形

■授業の概要

文献を手掛かりにその購読を進めながら、東洋美術史（日本、韓国、中国）の流れと造形について考える。

■到達目標

- ・東洋美術の文献購読能力を高める
- ・美術作品を周辺地域との交流を視座に入れながら考察・鑑賞できるようになる。

■授業計画・方法

基本的内容の講義を入れながら、受講者の発表とディスカッションで授業を進める。

第1回	イントロダクション、講読テキスト決め	第16回	29-30 頁
第2回	第1 担当者の担当による読み進め 1-2 頁	第17回	31-32 頁
第3回	同様 3-4 頁	第18回	33-34 頁
第4回	同様 5-6 頁	第19回	35-36 頁
第5回	第2 担当者による読み進め 7-8 頁	第20回	37-38 頁
第6回	同様 9-10 頁	第21回	39-40 頁
第7回	同様 11-12 頁	第22回	41-42 頁
第8回	第3 担当者による……といった 13-14 頁	第23回	43-44 頁
第9回	ように、授業回数全30回集中 15-16 頁	第24回	45-46 頁
第10回	して、ひたすらテキスト読 17-18 頁	第25回	47-48 頁
第11回	解に注力する 19-20 頁	第26回	49-50 頁
第12回	21-22 頁	第27回	51-52 頁
第13回	23-24 頁	第28回	53-54 頁
第14回	25-26 頁	第29回	55-56 頁
第15回	27-28 頁	第30回	57-58 頁

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・事前に示される関連文献と資料を熟読する
- ・授業内容についての意見及び質問を用意する。
- ・常に展覧会に足を運び、作品鑑賞をする。

■成績評価の方法・基準

□方法 都度の発表 60% 平常点 20% レポート 20%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 なし

□テキスト 購読する文献を授業中に配布する。

□参考文献

『美術とジェンダー』鈴木杜幾子・千野香織・馬淵明子編著 ブリュッケ 1997

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70666	東洋美術史特殊演習Ⅱ	4単位 通年	2	演習	金 恵信

■テーマ 東洋美術史の概念と造形

### ■授業の概要

文献を手掛かりにその購読を進めながら、東洋美術史（日本、韓国、中国）の流れと造形について考える。

### ■到達目標

- ・東洋美術史特殊演習Ⅰより深い議論ができる文献資料をもって文献購読能力を高める
- ・美術作品を周辺地域との交流を視座に入れながら考察・鑑賞できるようになる。

### ■授業計画・方法

基本的内容の講義を入れながら、受講者の発表とディスカッションで授業を進める。

第1回	イントロダクション、講読テキスト決め	第16回	29-30 頁
第2回	第1担当者の担当による読み進め 1-2 頁	第17回	31-32 頁
第3回	同様 3-4 頁	第18回	33-34 頁
第4回	同様 5-6 頁	第19回	35-36 頁
第5回	第2担当者による読み進め 7-8 頁	第20回	37-38 頁
第6回	同様 9-10 頁	第21回	39-40 頁
第7回	同様 11-12 頁	第22回	41-42 頁
第8回	第3担当者による……といった 13-14 頁	第23回	43-44 頁
第9回	ように、授業回数全30回集中 15-16 頁	第24回	45-46 頁
第10回	して、ひたすらテキスト読 17-18 頁	第25回	47-48 頁
第11回	解に注力する 19-20 頁	第26回	49-50 頁
第12回	21-22 頁	第27回	51-52 頁
第13回	23-24 頁	第28回	53-54 頁
第14回	25-26 頁	第29回	55-56 頁
第15回	27-28 頁	第30回	57-58 頁

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・事前に示される関連文献と資料を熟読する
- ・授業内容についての意見及び質問を用意する。
- ・常に展覧会に足を運び、作品鑑賞をする。

### 成績評価の方法・基準

- 方法 都度の発表 60% 平常点 20% レポート 20%
- 基準 学習目標で挙げた点を基準に評価する。

### ■教科書・参考文献（作品）等

- 教科書 なし
- テキスト 購読する文献を授業中に配布する。
- 参考文献

『交差する視線』鈴木杜幾子・馬淵明子・池田忍・金恵信 ブリュッケ 2005

『イメージとパトロン』美術史を学ぶための23章 浅井和春監修 稲本万里子他編著 ブリュッケ 2009

『国際シンポジウム 2002「流動するアジア表象とアイデンティティ」報告書』国際交流基金アジアセンター 2003

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70628	西洋美術史特殊演習 I	4 単位 通年	1	演習	尾形 希和子

■テーマ 外国語文献の読解能力を高める。

■授業の概要

西洋美術史に関する外国語文献の講読を進める。

■到達目標

- ・ 文献の内容を理解して専門的知識を得ると同時に、当該外国語の専門用語を学ぶ。
- ・ 引用、注などの中のギリシャ・ラテン語などの西洋古典語も、ある程度理解できるようになることを目標とする。

■授業計画・方法

受講生との相談の上でテキストを決める。

毎回翻訳の担当者を決め、担当者は、授業で講読していく部分を事前に試訳し、翻訳の際に必要な関連資料を各自で用意し、訳文と共にできれば授業の前に配布する。授業の際にはそれらの資料を使って訳文を検証していく。下記各回において表記した、授業会で読み進める頁数は、あくまで目安である。

第1回	イントロダクション		第16回	31-32 頁
第2回	第1担当者による読み進め	3-4 頁	第17回	33-34 頁
第3回	第2担当者による読み進め	5-6 頁	第18回	35-36 頁
第4回	第3担当者による読み進め	7-8 頁	第19回	37-38 頁
第5回	第4担当者による読み進め	9-10 頁	第20回	39-40 頁
第6回	以下同様	11-12 頁	第21回	41-42 頁
第7回	以下同様	13-14 頁	第22回	43-44 頁
第8回	以下同様	15-16 頁	第23回	45-46 頁
第9回	以下同様	17-18 頁	第24回	47-48 頁
第10回	以下同様	19-20 頁	第25回	49-50 頁
第11回	以下同様	21-22 頁	第26回	51-52 頁
第12回	以下同様	23-24 頁	第27回	53-54 頁
第13回	以下同様	25-26 頁	第28回	55-56 頁
第14回	同	27-28 頁	第29回	57-58 頁
第15回	同	29-30 頁	第30回	59-60 頁

※ 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・ 受講生は授業で講読していく部分を事前に試訳し、また翻訳の際に必要な関連資料を各自で用意し、訳文と共に事前に配布する必要がある。授業の際にはそれらの資料を使って訳文を検証していく。

■成績評価の方法・基準

□方法 担当回の準備 (40%) 通常の授業での積極性 (40%)、訂正、推敲の上、提出された担当部分の訳文 (20%)

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

自身の担当回だけではなく、それ以外の回における授業へのコミットメントを重要視する。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 なし

□テキスト 特に要望が無い場合以下のテキストを読み進める。

Eugenio Battisti, *L' antirinascimento*, Feltrinelli, 1962

□参考文献 なし

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70629	西洋美術史特殊演習Ⅱ	4単位 通年	2	演習	尾形 希和子

■テーマ 外国語文献の読解能力を高める。

■授業の概要

西洋美術史特殊演習Ⅰに続き、西洋美術史に関する外国語文献の講読を進める。

■到達目標

- ・西洋美術史特殊演習Ⅰと同様に文献の内容を理解して専門的知識を得ると同時に、当該外国語の専門用語を学ぶ。
- ・引用、注などの中のギリシャ・ラテン語などの西洋古典語も、ある程度理解できるようになることを目標とする。

■授業計画・方法

第1回	イントロダクション	第16回	31-32 頁
第2回	第1担当者による読み進め 3-4 頁	第17回	33-34 頁
第3回	第2担当者 による読み進め 5-6 頁	第18回	35-36 頁
第4回	第3担当者 による読み進め 7-8 頁	第19回	37-38 頁
第5回	第4担当者による読み進め 9-10 頁	第20回	39-40 頁
第6回	以下同様 11-12 頁	第21回	41-42 頁
第7回	以下同様 13-14 頁	第22回	43-44 頁
第8回	以下同様 15-16 頁	第23回	45-46 頁
第9回	以下同様 17-18 頁	第24回	47-48 頁
第10回	以下同様 19-20 頁	第25回	49-50 頁
第11回	以下同様 21-22 頁	第26回	51-52 頁
第12回	以下同様 23-24 頁	第27回	53-54 頁
第13回	以下同様 25-26 頁	第28回	55-56 頁
第14回	同 27-28 頁	第29回	57-58 頁
第15回	同 29-30 頁	第30回	59-60 頁

※ 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・演習Ⅰを受講して、単位を修得した学生に限る。
- ・受講生は授業で講読していく部分を事前に試訳し、また翻訳の際に必要な関連資料を各自で用意し、訳文と共に事前に配布する必要がある。授業の際にはそれらの資料を使って訳文を検証していく。
- ・Ⅱを受講するためにはⅠを既に履修済みでなければならない。

■成績評価の方法・基準

□方法 担当回の準備 (40%) 通常の授業での積極性 (40%)、訂正、推敲の上、提出された担当部分の訳文(20%)

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

自身の担当回だけでなく、それ以外の回における授業へのコミットメントを重要視する。

■教科書・参考文献(資料)等

□教科書 なし

□テキスト 特に要望が無い場合以下のテキストを読み進める。

Eugenio Battisti, *L' antirinascimento*, Feltrinelli, 1962

□参考文献 なし

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70730	論文演習	2単位 後期	1	演習	中島アリサ（非）・新田摂子 比較芸術学専攻教員

※比較芸術学専攻を除く

### ■テーマ

論文の作成方法について学ぶ。

### ■授業の概要

修士課程において、絵画・彫刻・デザイン・工芸の実技を学ぶにあたり、文章作成の技術も必須の能力である。その能力を身につけることにおいて、学術論文のような、ルールのある程度定まった文章を書けるようになることは、極めて有益なことである。そのため本科目では、学術論文を作成するための基礎的な技術を学び、芸術の歴史や理論についても目を配りつつ、主体的に思考することで、実制作における深い取り組みが可能となることを目的とする。

### ■到達目標

執筆する論文に必要なテーマにかかわる、作品や先行する文献を読解する能力を身につけ、そこから汲み取れる受講者各自の考えを文章化することを目標とする。

### ■授業計画・方法

1. オリエンテーション／「論文」とは何か
2. テーマ設定・情報の収集
3. 情報の収集と整理
4. 資料を読み解く
5. 要約の作成
6. ディスクリプションとは
7. 作品鑑賞と記述
8. 研究テーマの検討
9. イメージ資料の取り扱い
10. 論文計画の作成
11. 論文テーマの確認
12. 論文の作成（章立て、目次）
13. 論文を書く（体系的に整理）
14. 論文を書く（論理的な展開）
15. 論文を書く（見直し／まとめ）                      15回まで講義を行い、論文を提出する。

※定期試験は実施しない

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・学期末の論文の他、必要に応じて小レポートを出す。
- ・1年次必修のため、きちんと出席し、授業ごとの課題を提出すること。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点・小レポートの提出状況（50%）、期末レポート（50%）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
最終的な成績は本科目担当の教員による合議で決定する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書

授業内で適宜指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70669	日本芸術文化学特殊演習Ⅰ	4単位 通年	1	演習	波平 八郎

■テーマ 日本文学の作品を読んで、その背後にある文化の諸相を理解する。

■授業の概要

近世期の日本文学・日本文化にかかわる重要な文献を輪読する。  
 なお、輪読テキストは受講生の研究テーマに応じて決定する。

■到達目標

・文学研究の理論に基づいて作品を分析することができる。

■授業計画・方法

日本文学の作品を適宜分担を決め、輪読する。受講生は事前に割り当てられた部分について読解しておき、授業中に意見を発表する。

なお、輪読するテキスト等の詳細については、受講生の専門分野を勘案して、受講生と協議の上決定する。

[前学期]		[後学期]	
1	オリエンテーション	1	後期オリエンテーション
2	笑話集『醒睡笑』	2	西鶴の作品(1)『好色一代男』
3	江戸戯作	3	西鶴の作品(2)『好色五人女』
4	談義本(前期滑稽本)	4	西鶴の作品(3)『日本永代蔵』
5	洒落本	5	俳諧について
6	滑稽本(十返舎一九)	6	俳諧の式目(ルール)
7	『東海道中膝栗毛』	7	俳諧の理論(1)『去来抄』
8	滑稽本(式亭三馬)	8	俳諧の理論(2)『三冊子』
9	『浮世風呂』	9	芭蕉の作品(1)俳諧
10	『浮世床』	10	芭蕉の作品(2)俳文
11	人情本	11	芭蕉の作品(3)「おくの細道」(前半)
12	読本	12	芭蕉の作品(4)「おくの細道」(後半)
13	『椿説弓張月』(馬琴)	13	漱石の作品(1)『吾輩は猫である』(近代文学)
14	草双紙	14	漱石の作品(2)俳句
15	前期まとめ・レポート提出	15	まとめ・レポート提出

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

レポートは、前・後学期それぞれ関心のあるテーマをテキストから選んでレポートする。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点(50%)、レポート(50%)を総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

□教科書 なし

□テキスト 適宜プリント等を配布する。

□参考文献 適宜授業中に指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70670	日本芸術文化学特殊演習Ⅱ	4単位 通年	2	演習	波平 八郎

■テーマ 日本文学の作品を読んで、その背後にある文化の諸相を理解する。

■授業の概要

近世期の日本文学・日本文化にかかわる重要な文献を輪読する。  
 なお、輪読テキストは受講生の研究テーマに応じて決定する。

■到達目標

・文学研究の理論に基づいて作品を分析することができる。

■授業計画・方法

日本文学の作品を適宜分担を決め、輪読する。受講生は事前に割り当てられた部分について読解しておき、授業中に意見を発表する。

なお、輪読するテキスト等の詳細については、受講生の専門分野を勘案して、受講生と協議の上決定する。

[前学期]		[後学期]	
1	オリエンテーション	1	後期オリエンテーション
2	笑話集『醒睡笑』	2	西鶴の作品（1）『好色一代男』
3	江戸戯作	3	西鶴の作品（2）『好色五人女』
4	談義本（前期滑稽本）	4	西鶴の作品（3）『日本永代蔵』
5	洒落本	5	俳諧について
6	滑稽本（十返舎一九）	6	俳諧の式目（ルール）
7	『東海道中膝栗毛』	7	俳諧の理論（1）『去来抄』
8	滑稽本（式亭三馬）	8	俳諧の理論（2）『三冊子』
9	『浮世風呂』	9	芭蕉の作品（1）俳諧
10	『浮世床』	10	芭蕉の作品（2）俳文
11	人情本	11	芭蕉の作品（3）「おくの細道」（前半）
12	読本	12	芭蕉の作品（4）「おくの細道」（後半）
13	『椿説弓張月』	13	漱石の作品（1）『吾輩は猫である』（近代文学）
14	草双紙	14	漱石の作品（2）俳句
15	前期まとめ・レポート提出	15	まとめ・レポート提出

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

レポートは、前・後学期それぞれ関心のあるテーマをテキストから選んでレポートする。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（50%）、レポート（50%）を総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 なし

□テキスト 適宜プリント等を配布する。

□参考文献 適宜授業中に指示する。

70667	民族芸術文化学特殊演習Ⅰ	4単位 通年	1	演習	鈴木 耕太
-------	--------------	--------	---	----	-------

■テーマ 琉球文学および琉球文化の諸相

■授業概要

琉球文学に表れた沖縄の民族文化の諸相をテーマに沿って解析することを目指す。本学年度は『琉球戯曲集』をテキストに、収録作品の中から組踊「護佐丸敵討」について作品の内容、他のテキストとの詞章比較、映像によってわかる演出の変遷など、多方面からの考察をしていく。近世琉球に創作された「組踊」。そこに描かれる人々の思念を探究するためには、当時の人々の考え方、生活、そして学習していた学問などを知ることが必要不可欠である。本科目では組踊について文学・歴史資料などを基に多方面から考察を深め、これらを正確に理解できることを目標とする。

■学習目標

組踊について、その成立年代や作品などの概要を説明することが出来る。組踊で表現される事象について説明することが出来る。また、基本的な発表の技術を持っているか、についても学習目標とする。

■授業計画・方法

前期		後期	
第1回	前期オリエンテーション	第1回	後期オリエンテーション
第2回	琉球文学概説	第2回	前期のまとめ・再確認
第3回	『琉球戯曲集』について	第3回	「護佐丸敵討」の諸本について
第4回	組踊概説	第4回	組踊本の校合について
第5回	「護佐丸敵討」と琉球史	第5回	校合と発表（琉球踊狂言）
第6回	「護佐丸敵討」上演史について	第6回	校合と発表（恩河本小禄御殿本組踊集）
第7回	組踊の仇討物について	第7回	校合と発表（琉球新報（明治年間））
第8回	「護佐丸敵討」講読および発表（護佐丸登場の場）	第8回	校合と発表（勢理客公民館所蔵本組踊集）
第9回	「護佐丸敵討」講読および発表（二童と母の別れ）	第9回	校合と発表（大城活版本組踊集）
第10回	「護佐丸敵討」講読および発表（あまおへの春遊び）	第10回	校合と発表（『組踊集』第一編）
第11回	「護佐丸敵討」講読および発表（二童の芸づくし）	第11回	校合と発表（『日本民俗』第十二号）
第12回	「護佐丸敵討」講読および発表（仇討と幕入り）	第12回	各組踊本の異同について
第13回	「護佐丸敵討」講読および発表（まとめ）	第13回	校合のまとめ
第14回	「護佐丸敵討」鑑賞（1960年代の映像）	第14回	「護佐丸敵討」と「護佐丸忠義伝」
第15回	「護佐丸敵討」鑑賞（2010年代の映像）	第15回	本講義のまとめ

毎回の発表及び、本講座のまとめにおいて、期末レポートを提出すること。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

毎回の講義に向けて、予習および発表の事前準備を欠かさないこと。

■成績評価の方法・基準

一年を通じた講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。

■成績評価の基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

- 教科書 講義用レジュメや資料を配布する。
- テキスト なし。

■教科書・参考文献（作品）等

- 外間守善・波照間永吉『定本おもろさうし』（2002年・角川書店）
- 沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店）
- 外間守善他『南島歌謡大成 I～V』（1980年・角川書店）
- 玉城政美『南島歌謡論』（1991年・砂子屋書房）
- 外間守善『南島文学論』（1994年・角川書店）
- 波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』（1999年・砂子屋書房）
- 玉城政美『琉球歌謡論』（2010年・砂子屋書房）
- 矢野輝雄『組踊への招待』（2001年・琉球新報社）
- 矢野輝雄『組踊を聴く』（2003年・瑞樹書房）

70668	民族芸術文化学特殊演習Ⅱ	4単位 通年	2	演習	鈴木 耕太
-------	--------------	--------	---	----	-------

■テーマ 琉球文学および琉球文化の諸相

■授業概要

「民族芸術文化学特殊演習Ⅰ」の成果をふまえ、観劇およびフィールドワークにもさらなる視線を注ぎつつ、沖縄の民族芸術文化の全体像の究明を目指す。具体的には、受講者各人のテーマに即して作成された草稿を基にした発表に対して、受講者全員で議論していく。本学年度は『琉球戯曲集』をテキストに、収録作品の中から組踊「護佐丸敵討」について、作品の内容、他のテキストとの詞章比較、映像によってわかる演出の変遷など、多方面からの考察をしていく。

■学習目標

文献研究のみに偏らないよう、常に観劇やフィールドへも目を注ぎ、琉球・沖縄の文学・思想の具体的なありようを把握することができる。特に組踊に対しては、文学的な視点はもちろんであるが、さらに時代によって上演形式の違いや、演出の違いなど、映像資料や歴史史料なども用いて、多方面からアプローチできることを目指す。

また、受講者が個別に制作してきた発表テーマについて自らの解釈を提示でき、これをもとに琉球・沖縄の人々の想念について精確な立論ができることを目指す。

■授業計画・方法

前期		後期	
第1回	前期オリエンテーション	第1回	後期オリエンテーション
第2回	受講者の発表①	第2回	受講者の発表①
第3回	受講者の発表②	第3回	受講者の発表②
第4回	受講者の発表③	第4回	受講者の発表③
第5回	受講者の発表④	第5回	受講者の発表④
第6回	受講者の発表⑤	第6回	受講者の発表⑤
第7回	受講者の発表⑥	第7回	受講者の発表⑥
第8回	受講者の発表⑦	第8回	受講者の発表⑦
第9回	受講者の発表⑧	第9回	受講者の発表⑧
第10回	受講者の発表⑨	第10回	受講者の発表⑨
第11回	受講者の発表⑩	第11回	受講者の発表⑩
第12回	受講者の発表⑪	第12回	受講者の発表⑪
第13回	受講者の発表⑫	第13回	受講者の発表⑫
第14回	受講者の発表⑬	第14回	受講者の発表⑬
第15回	前期のまとめ	第15回	後期のまとめ

第2講以降の発表は、毎時間一人ずつ、受講者各人が作成してきた草稿に基づき発表を行う。その後、この発表に対して、参加者全員による質疑応答・問題点の指摘などを行っていく。受講生は発表までに自身で決めたテーマの発表原稿を書き上げておくことが必須となる。前後期とも期末レポートを課す。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

※「民族芸術文化学特殊演習Ⅰ」を履修済みのこと。毎回の講義に向けて、上記の事前準備を欠かさないこと。

■成績評価の方法・基準

一年を通した講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。

■教科書・参考文献（作品）等

- 外間守善・波照間永吉『定本おもろさうし』（2002年・角川書店）
- 沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店）
- 外間守善他『南島歌謡大成 I～V』（1980年・角川書店）
- 玉城政美『南島歌謡論』（1991年・砂子屋書房）
- 外間守善『南島文学論』（1994年・角川書店）
- 波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』（1999年・砂子屋書房）
- 玉城政美『琉球歌謡論』（2010年・砂子屋書房）
- 矢野輝雄『組踊への招待』（2001年・琉球新報社）
- 矢野輝雄『組踊を聴く』（2003年・瑞樹書房）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70673	東洋芸術文化学特殊演習 I	4 単位 通年	1	演習	森 達也

## ■テーマ 東洋工芸史の探求

### ■授業の概要

東アジア陶磁史を中心としながら、工芸史全般にわたる基本文献の読解と陶片などの基本資料の観察を行い、工芸史研究の基礎的理解を深める。

### ■到達目標

- ・工芸資料の取り扱いや研究資料化の方法を身に付け、工芸史研究の視点を確立することを目的とする。
- ・陶磁史を中心としながらも工芸全般の知識を身に付けることを目標とする。

### ■授業計画・方法

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. オリエンテーション                | 17. 陶磁器資料解釈 (タイ南部)          |
| 2. 陶磁器資料解釈 (中国窯址資料・浙江)      | 18. 陶磁器資料解釈 (ベトナム北部)        |
| 3. 陶磁器資料解釈 (中国窯址資料・福建)      | 19. 陶磁器資料解釈 (ベトナム中部)        |
| 4. 陶磁器資料解釈 (中国窯址資料・福建北部)    | 20. 陶磁器資料解釈 (西アジア・イラン)      |
| 5. 陶磁器資料解釈 (中国窯址資料・福建南部)    | 21. 陶磁器資料解釈 (西アジア・エジプト、トルコ) |
| 6. 陶磁器資料解釈 (中国窯址資料・広東東部)    | 22. 陶磁器資料解釈 (ヨーロッパ)         |
| 7. 陶磁器資料解釈 (中国窯址資料・広東西部)    | 23. 漆器資料解釈 (芸術資料館所蔵品)       |
| 8. 陶磁器資料解釈 (中国窯址資料・江西北部)    | 24. 漆器資料解釈 (首里城所蔵品)         |
| 9. 陶磁器資料解釈 (中国窯址資料・江西南部)    | 25. 漆器資料調査 (県立博物館所蔵品)       |
| 10. 陶磁器資料解釈 (中国窯址資料・その他・華北) | 26. 漆器資料調査 (浦添美術館所蔵品)       |
| 11. 陶磁器資料解釈 (中国窯址資料・その他・華南) | 27. 漆器資料調査 (個人所蔵品)          |
| 12. 陶磁器資料解釈 (日本・九州)         | 28. 漆器資料調査 (古美術商等所蔵品)       |
| 13. 陶磁器資料解釈 (日本・近畿)         | 29. 口頭発表                    |
| 14. 陶磁器資料解釈 (日本・瀬戸ほか)       | 30. 総括                      |
| 15. 陶磁器資料解釈 (沖縄ほか)          | ※ 定期試験は実施しない。               |
| 16. 陶磁器資料解釈 (タイ北部)          |                             |

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・陶磁史の概説書や工芸史の概説書に目を通してもらいたい。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点 30%、口頭発表 30%、レポート 40%で評価を行う。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 なし

□テキスト 資料は講義中にプリントを配布する。

□参考文献 講義中に紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70674	東洋芸術文化学特殊演習Ⅱ	4単位 通年	2	演習	森 達也

## ■テーマ 東洋工芸史の探求

### ■授業の概要

特殊演習Ⅰの継続。東アジア陶磁史を中心としながら、工芸史全般にわたる基本文献の読解と陶片などの基本資料の観察を行い、工芸史研究の基礎的理解を深める。

### ■到達目標

- ・工芸資料の取り扱いや研究資料化の方法を身に付け、工芸史研究の視点を確立することを目的とする。
- ・陶磁史を中心としながらも工芸全般の知識を身に付けることを目標とする。

### ■授業計画・方法

- |                             |                         |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1. オリエンテーション                | 17. 陶磁器資料解釈 (中国・粉彩)     |
| 2. 陶磁器資料解釈 (中国・華北土器)        | 17. 陶磁器資料解釈 (中国・三彩:唐)   |
| 3. 陶磁器資料解釈 (中国・華南土器)        | 18. 陶磁器資料解釈 (中国・三彩:宋、元) |
| 4. 陶磁器資料解釈 (中国・原始青瓷:夏商)     | 19. 陶磁器資料解釈 (中国・三彩:明、清) |
| 5. 陶磁器資料解釈 (中国・原始青瓷:春秋戦国)   | 20. 陶磁器資料解釈 (日本・茶道具)    |
| 6. 陶磁器資料解釈 (中国・青磁:越州窯、耀州窯)  | 21. 陶磁器資料解釈 (日本・煎茶具)    |
| 7. 陶磁器資料解釈 (中国・青磁:汝窯、南宋官窯)  | 22. 陶磁器資料解釈 (韓国・高麗)     |
| 8. 陶磁器資料解釈 (中国・青磁:龍泉窯)      | 23. 陶磁器資料解釈 (韓国・朝鮮)     |
| 9. 陶磁器資料解釈 (中国・白磁:邢窯、鞏義窯)   | 24. 陶磁器資料解釈 (東南アジア)     |
| 10. 陶磁器資料解釈 (中国・白磁:定窯、景德鎮窯) | 25. 陶磁器資料解釈 (西アジア)      |
| 11. 陶磁器資料解釈 (中国・青白磁)        | 26. 漆器資料解釈 (沖縄)         |
| 12. 陶磁器資料解釈 (中国・青花磁器:唐、元)   | 27. 漆器資料調査 (日本)         |
| 13. 陶磁器資料解釈 (中国・青花磁器:明)     | 28. 漆器資料調査 (中国)         |
| 14. 陶磁器資料解釈 (中国・青花磁器:清)     | 29. 口頭発表                |
| 15. 陶磁器資料解釈 (中国・五彩:金、元)     | 30. 総括                  |
| 16. 陶磁器資料解釈 (中国・五彩:明、清)     | ※ 定期試験は実施しない。           |

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・東洋芸術文化学特殊演習Ⅰを受講した学生に限る。陶磁史の概説書や工芸史の概説書に目を通してもらいたい。
- ・東洋美術史特殊演習Ⅰを履修済みである必要がある。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点30%、口頭発表30%、レポート40%で評価を行う。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□教科書 なし

□テキスト 資料は講義中にプリントを配布する。

□参考文献 講義中に紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70651	課題研究 I	2 単位 前・後	2	演習	比較芸術学専攻教員

※課題研究 I、課題研究 II を合わせて修了単位とする。

■テーマ 論文について学び、執筆する

### ■授業の概要

主として担当教員（必要に応じて他の教員も含む）と、マンツーマンでの論文指導を行う。

### ■到達目標

- ・修士論文の構成を決定し、できうれば論文初稿まで書き上げる。

### ■授業計画・方法

※概ね以下のようなスケジュールで進めるが、進捗状況を都度確認し合い、合理的に執筆を進行させる。

1. 本科目のオリエンテーション
2. 論文構成の素案を、教員との意見交換により組み立てる
3. 論文構成の骨子を確定する
4. 論文執筆開始
5. 執筆過程での修正および意見交換
6. 論文執筆の継続と、意見交換
7. 論述中の事実関係のチェック
8. さらなる論文執筆の継続と、意見交換
9. 論述の展開可能性の検討
10. 継続しての執筆と意見交換
11. 結論部での、論文の主張と、その妥当性の検討
12. 執筆の継続と既執筆部分の再検討
13. 執筆の初稿の完成と、内容の再検討
14. 中間発表の検討
15. 総括

※定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・概ね週ごとに1セッションで指導を行っていくが、そのため、教員とのセッションに臨む前に、毎週論文を書き進めておく必要がある。当然ではあるが、論文執筆には先行する言説の網羅的読解や、論述する対象である作品の鑑賞・読解・分析、そして関連する文献の内容把握も重要であるため、論文執筆の前提となる当然の作業は、受講者各自で主体的に進めておく必要がある。勿論、そのために教員は万全のサポートを行うので、指導教員に限らず、特に各専任教員には、積極的にアドバイスを求めるようにしてもらいたい。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（30%）、科目終了時での執筆された論文の成果（40%）、中間発表での内容の精度（30%）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

修士論文執筆という厳しいハードルを乗り越えるためには、「手抜き」はあり得ないのであり、ゆえに、「悪い成績」もまた原則的にあり得ないはずである。万一悪い成績がつくようであるならば、修士論文執筆への姿勢に、根本的な問題があると考えるべきであり、教員の意見をしっかりと聞きつつ、問題点を反省的に自覚してほしい。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 なし
- テキスト なし
- 参考文献 なし

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70652	課題研究Ⅱ	2単位 前・後	2	演習	比較芸術学専攻教員

※課題研究Ⅰ、課題研究Ⅱを合わせて修了単位とする。

■テーマ 論文について学び、執筆する

### ■授業の概要

主として担当教員（必要に応じて他の教員も含む）と、マンツーマンでの論文指導を行う。

### ■到達目標

- ・これまでの論文執筆の進捗を活かしたうえで、修士論文を完成させる。

### ■授業計画・方法

1. オリエンテーション
2. これまでの執筆成果の再検討
3. 執筆開始
4. 執筆過程での修正および意見交換
5. 論文執筆の継続と、意見交換
6. 論述の展開可能性の検討
7. さらなる論文執筆の継続と、意見交換
8. 第二稿完成と、全体の再検討
9. 論文執筆の継続と、論文のブラッシュアップ
10. 補筆と再検討
11. 補筆箇所と既執筆箇所との整合性の確認
12. 継続してのリライトと、さらなる加筆修正
13. 再度の論旨の整合性の確認
14. 最終稿一步手前での確認
15. 完成稿提出前の、校正・校閲を基礎とする最終チェック

※定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・概ね週ごとに1セッションで指導を行っていくが、そのため、教員とのセッションに臨む前に、毎週論文を書き進めておく必要がある。当然ではあるが、論文執筆には先行する言説の網羅的読解や、論述する対象である作品の鑑賞・読解・分析、そして関連する文献の内容把握も重要であるため、論文執筆の前提となる当然の作業は、受講者各自で主体的に進めておく必要がある。勿論、そのために教員は万全のサポートを行うので、指導教員に限らず、特に各専任教員には、積極的にアドバイスを求めるようにしてもらいたい。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 受講態度（10%）、修士論文（90%）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

論文は、研究テーマの学術的意義、内容の独創性、実証性、論理性、当該または関連分野に貢献できるかどうかなどを考慮して評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 なし
- テキスト なし
- 参考文献 なし

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70727	民族芸術学特論	2単位 後期 (集中)	1~2	講義	石岡 良治

■**テーマ** 芸術からポピュラー文化に至る「イメージ制作」と人類の関わりを捉える

### ■授業の概要

民族学・人類学的知見の蓄積により、人類の文化的営みにおいて「イメージ」が果たす役割の重要性が広く知られるようになっている。造形芸術がイメージ制作 (image making) の観点から捉え直され、主としてヨーロッパや東アジアなどを対象とした「美術史」についても新たな光が投げかけられている。前近代における「民衆芸術」への関心や、近現代におけるポピュラー文化への関心などが、芸術学における重要な問いを構成するようになったのも、こうした文脈から理解することができるだろう。本講義はそうした状況を捉えるために、現代の様々な理論を概観した上で、民族学・人類学的観点から諸星大二郎や岩明均などのマンガ作品、高畑勲や宮崎駿のアニメ作品などを読解する。そのさい、「キッチュ」「マンガ」「絵馬」といった多様な対象に取り組んだ日本の美術批評家、石子順造の活動を手がかりにしつつ、彼が最晩年に「丸石神」への関心に至った歩みを批評的に再検証する。芸術的創造の問いを身近な場面で考えていきたい。

### ■到達目標

民族誌・人類学やポピュラー文化などを通じた「イメージ」の役割の広がりについて学び、人類と「芸術」の関わりについて各自の関心と結びつけて理解を深める。

### ■授業計画・方法

1. イントロダクション：イメージと人類
2. ドイツ・オーストリア芸術学の現代的意義：ウィルヘルム・ヴォリンガー
3. ドイツ・オーストリア芸術学の現代的意義：エルンスト・ゴンブリッチ
4. ジル・ドゥルーズの芸術学と現在のイメージ人類学
5. 「オブジェクト」への思弁的関心とデザイン
6. 諸星大二郎と人類学的関心 (1) 漢字文化圏を掘り下げる
7. 諸星大二郎と人類学的関心 (2) 『マッドメン』と神話の構造分析
8. 人類の暴力と投擲：『寄生獣』とは誰か
9. ジブリアニメと「日本」：『もののけ姫』（宮崎駿）と『鳥獣戯画』起源説（高畑勲）の限界を考える
10. 民衆芸術と消費文化
11. 現代日本の創作における人類学的想像力：上橋菜穂子と都留泰作
12. 装飾をめぐる：造形の「エッジ」と「テリトリー」
13. 石子順造の仕事：先史性、キッチュ、マンガ
14. 創造行為とイメージの分析
15. まとめ：文化の無底性に向き合うこと

定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

以下に挙げる「参考文献（作品）」のいくつかに予め触れておくことが望ましい。その上で講義をふまえ、レポート課題に取り組んでほしい。

### ■成績評価の方法・基準

□**方法** 平常点＋コメントペーパー40%、レポート60%

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化学研究科（博士課程）の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□**教科書** なし、ただし参考文献・作品のいずれかに触れておくこと

□**参考文献** 石岡良治『「超」批評 視覚文化×マンガ』青土社

ウィルヘルム・ヴォリンガー（中野勇訳）『ゴシック美術形式論』文春学芸ライブラリーの石岡良治による解題

石子順造『キッチュ／マンガ』小学館クリエイティブ

諸星大二郎『妖怪ハンター』『暗黒神話』『マッドメン』

岩明均『寄生獣』『七夕の国』『ヒストリエ』

都留泰作『ナチュン』『ムシユン』

上橋菜穂子『精霊の守り人』

宮崎駿『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』

高畑勲『平成狸合戦ぽんぽこ』『十二世紀のアニメーション』

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70812	琉球歌謡論研究 A	2 単位 前期	1～2	講義	波照間栄吉(客)

■テーマ 琉球歌謡の全体像を把握し、奄美・沖縄各地域の歌謡の特徴について理解する。

### ■授業の概要

琉球歌謡の概要とその内容について学ぶ。琉球歌謡は『おもろさうし』に記載されたオモロから現在もなお活発に奏されている「新氏謡」にまで及ぶ。本講座では、オモロから宮古・八重山に伝わる祭祀歌謡、物語歌謡、個人の心中を謡う抒情歌謡をとりあげ、琉球歌謡の全体像を明らかにする。(本講座では『おもろさうし』『南島歌謡大成』(全5巻)などをテキストに、琉球歌謡の全体像が描き出せるよう学習する)。特に、琉球芸能とのかかわりの深い琉歌について、その表現の特徴や芸能との関わりについて学ぶ。また、沖縄各地の村の祭祀と芸能・歌謡の関係について実地について学ぶ。これらの作業を通して、琉球歌謡の世界を理解すると同時に、そこに表れる民俗文化についても理解を深め、芸能を生み出した文化全般について知識を習得できるようにする。

### ■到達目標

- ・琉球歌謡の全体像を把握する。
- ・琉球歌謡の形式——対句形式と非対句形式、長詞形式と短詞形式——を学ぶ。
- ・内容および琉歌と琉球舞踊・組踊やその他の芸能とのかかわりについて学ぶ。
- ・琉球文化圏の島々の歌謡の母胎である歴史・民俗・文化などについて理解する。

### ■授業計画・方法

1. 琉球歌謡の概説。『おもろさうし』および琉球歌謡テキストの概容、講義の進め方、学習方法について説明する。
2. 琉球歌謡の研究史について概説する。
3. 『おもろさうし』とオモロ概説。
4. オモロ作品概説。
5. 沖縄諸島歌謡の概説①
6. 沖縄諸島歌謡の概説②
7. 宮古歌謡の概説①
8. 宮古歌謡の概説②
9. 八重山歌謡の概説①
10. 八重山歌謡の概説②
11. 奄美歌謡の概説
12. 沖縄諸島の祭祀歌謡の現場調査(フィールドワーク)
13. 沖縄諸島の祭祀歌謡の現場調査(フィールドワーク)
14. 琉歌と芸能①
15. 琉歌と芸能②

※ 第5・6回予定のフィールドワークは地域の祭りの日程に合わせて調整する。

※ 定期試験は実施しない。レポートを課す。

### ■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

- ・毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。
- ・琉球歌謡全般に対する知識・情報を事前で収集し(琉球歌謡テキストを讀む)、講義での各事項の概説が理解出来るよう準備すること。
- ・当面取り扱う歌謡のみでなく、ひろく奄美から与那国にいたる琉球歌謡の言うまでも無く、琉球文化圏各地の歌謡や伝承についても情報を集める。
- ・日本古典文学一般についても広く知識を広げていく意欲が求められる。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 一年を通じた講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

#### □参考文献

- |                                   |                               |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 外間守善・波照間栄吉『定本おもろさうし』(2002年・角川書店)  | 外間守善他『南島歌謡大成 I～V』(1980年・角川書店) |
| 外間守善・波照間栄吉『定本琉球国由来記』(1997年・角川書店)  | 玉城政美『南島歌謡論』(1991年・砂子屋書房)      |
| 外間守善『校注おもろさうし』(2000年・岩波書店)        | 外間守善『南島文学論』(1994年・角川書店)       |
| 沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』(1995年・角川書店) | 波照間栄吉『南島祭祀歌謡の形成』(1999年・砂子屋書房) |
| 島袋盛敏・翁長俊郎『琉歌全集』(1968年・武蔵野書院)      | 玉城政美『琉球歌謡論』(2010年・砂子屋書房)      |

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70813	琉球歌謡論研究B	後期2単位	1~2	講義	波照間永吉(客)

■ **テーマ** 琉球歌謡についての理解を深める。諸ジャンルの歌謡の形式と内容および機能について考える。

### ■ 授業の概要

琉球歌謡の全体像についての理解を深め、諸ジャンルの歌謡の内容の特質について考え、これらの歌謡の社会的機能について考察する。講義の後半では琉球歌謡の抒情詩の発生と展開について考える。また、琉歌と芸能との関係について、個別の演目を取り上げ、歌詞としての琉歌の選択がどのようにされていくのかについて考える。さらに、組踊作品の表現についても考察していく。

### ■ 到達目標

- ・琉球歌謡の形式と内容、社会的機能について理解する。
- ・琉歌の表現（語彙と技巧など）について学び、解釈・鑑賞能力を高める。
- ・琉球歌謡における抒情詩の発生と展開の問題について理解し、琉歌形式の持つ意味を考える。
- ・琉歌と芸能との関係に着目し、個々の芸能における琉歌および琉歌形式の役割について考察する。

### ■ 授業計画・方法

1. 講義の進め方、学習方法について説明。琉球歌謡の諸ジャンルについて概説する。
  2. 琉球歌謡の叙述形式について解説する。対句法について学ぶ（I型～VII型）
  3. 琉球歌謡の叙述形式について解説する。対句法について学ぶ（無対併形式）
  4. 宮古・八重山歌謡の形式と内容
  5. 琉球歌謡の抒情詩概説
  6. 沖縄諸島の祭祀歌謡の現地調査（フィールドワーク）
  7. 沖縄諸島の祭祀歌謡の現地調査（フィールドワーク）
  8. 琉歌の表現について——琉歌の語彙について
  9. 琉歌の表現について——技巧をめぐって
  10. 琉歌と琉球舞踊①——古典舞踊
  11. 琉歌と琉球舞踊②——雑踊り
  12. 組踊概説①——初期舞踊
  13. 組踊概説②——後期舞踊
  14. 琉歌と琉球芸能
  15. 総括。琉歌形式の果たした役割
- ※ 第5・6回予定のフィールドワークは地域の祭りの日程に合わせて調整する。  
 ※ 定期試験は実施しない。レポートを課す

### ■ 履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。琉球歌謡全般に対する知識・情報を事前収集し（琉球歌謡テキストを読む）、講義での各事項の理解が理解出来るよう準備すること。

### ■ 成績評価の方法・基準

□ **方法** 一年を通した講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。

□ **基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

講義への出席、および受講への取り組みなど平常の受講態度についても評価する。

### ■ 教科書・参考文献（資料）等

#### □ 参考文献

- |                                             |                                   |
|---------------------------------------------|-----------------------------------|
| 外間守善・波照間永吉『定本おもろさうし』（2002年・角川書店）            | 沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店） |
| 外間守善・波照間永吉『定本琉球国由来記』（1997年・角川書店）            | 外間守善他『南島歌謡大成 I～V』（1980年・角川書店）     |
| 外間守善『校注おもろさうし』（2000年・岩波書店）                  | 玉城政美『南島歌謡論』（1991年・砂子屋書房）          |
| 外間守善『沖縄の神歌』（1994年・中公文庫）                     | 外間守善『南島文学論』（1994年・角川書店）           |
| 比嘉康雄『神々の古層』（写真集・全12巻）<br>（1990年～1994年・ニライ社） | 波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』（1999年・砂子屋書房）     |
| 比嘉康雄『沖縄 久高島』（1997年・第一書房）                    | 玉城政美『琉球歌謡論』（2010年・砂子屋書房）          |

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70732	比較民俗学研究A	2単位 前期	1~2	講義	吉川 秀樹(非)

■テーマ 人類学の視点からの art や performing art の研究

### ■授業の概要

Anthropology、Art、そして Performing Art の特別な関係 Part I

伝統的に非西洋の文化を研究してきた人類学ではあるが、非西洋の「art」や「performing art」は、研究の対象として、また新たな理論、研究方法（研究成果の提示法も含めて）を生み出すインスピレーションとして常に特別な存在であり続けてきた。例えば審美性 (aesthetics)、感情 (emotions)、感受性 (sensibility)、創造性 (creativity) という異文化研究において方法論上扱いにくい領域に人類学を踏み込ませた。また多くの非西洋文化／社会において精神構造やコスモロジーや社会構造と密接な関係にある art や performing art が、colonization や globalization を通して、西洋の文化／社会に移行することにより、どのような新たな意味や価値等が与えられるか、すなわち異文化／社会間の appropriation の分析に人類学を向かわせた。さらには、人類学における logocentric（文字中心）な研究成果の提示法にも疑問を投げかけ、映像人類学 (visual anthropology) 等の分野の確立へと繋がっていった。そして人類学における art や performing art の研究は、西洋文化／社会の art や performing art の再検証にも影響を与えている。

この授業では、art や performing art を人類学的視点から研究／分析した英語の論文を読み、様々な文化／社会における art や performing art について、そして art や performing art と人類学の関係について考察していく。同時に、大学院レベルで英語の論文を講読するに必要な英語力やスキルを習得していく。

### ■到達目標

- ・異文化／社会における art や performing art（と分類されるもの）の存在に注目し、その多様性、ならびに共通点や相違点を理解する。
- ・Art や performing art の人類学的研究の視点、理論、方法について学び、art や performing art と人類学の関係について考察する。
- ・研究における英語の論文の講読に必要な英語力やスキルを習得し、向上させる。
- ・学生が各自持つ art や performing art に対するアプローチ／専門性の特徴を、人類学のアプローチとの比較を通して、理解する

### ■授業計画・方法

授業は、講読する論文についてのクラス・ディスカッションを中心に行われる。学生はディスカッションのための「レジメ」の準備をすること。また各論文を読み始めるにあたり、パワーポイントや資料を使って文化／社会的背景の説明が教員により行われる。

1. オリエンテーション: Anthropology と Art と Performing Art の特別な関係  
プリミティビズム(primitivism) と 普遍性 (the universal)
2. 第2週 “Primitive Art” by Franz Boas (1955) in AA, “Split Representation in the Art of Asia and America” by Claude Levi-Strauss (1963) in AA, “Singing the Rug: Patterned Textiles and the Origins of Indo-European Metrical Poetry” by Anthony Tuck (2006) in AP.
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上

7. 機能 (functions)、意味 (meaning)、社会／文化的背景 (socio-cultural context)  
 Sacred Art and Spiritual Power: An Analysis of Tlingit Shamans' Masks” by Aldona Jonaitis (1982) in AA, “Modernity and the ‘Graphicalization of Meaning New Guinea Highland Shield Design in Historical Perspective” by Michael O’ Hanlon (1995) in AA, or “Performance and the cultural Construction of Reality” by Edward Schieffelin (1985) in AP.
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 異文化と審美性 (aesthetics)  
 “Yoruba Artistic Criticism” by Robert Farris Thompson (1973) in AA, “From Dull to Brilliant: The Aesthetics of Spiritual Power among the Yolngu (1992) in AA, or “What They Came With: Carnival and the Persistence of African Performance Aesthetics in the Diaspora” (2007) by Esiaba Irobi in AP.
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 同上、まとめ
- ※ 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

授業におけるディスカッションを充実させるには、そのための準備をきちんと行うことが不可欠である。論文講読で分担された部分を訳し、その内容の要約やコメント／質問等を書いたレジメを準備しディスカッションに臨むこと。分担については授業のなかで学生と教員で決める。

■成績評価の方法・基準

□方法	*クラス・ディスカッションの内容 (レジメと発言)	70%
	**短評 (article review)	20%
	**短評についてのプレゼンテーション	10%
	合計	100%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 *The Anthropology of Art: A Reader* (2002), Howard Morphy and Morgan Perkins eds., Blackwell Publishing.

*The Anthropology of Performance: A Reader* (2013), Frank J. Korom ed., Willey-Blackwell.

以上から選出した論文や章を教科書とする。授業計画を参照すること。

なお*The Anthropology of Art: A Reader*はAA、*The Anthropology of Performance*はAPと表記している。

□テキスト なし

□参考文献 *Sociology of the Arts: Exploring Fine and Popular Forms*

(2003, Victoria D. Alexander, Blackwell Publishing).

*In Praise of Commercial Culture* (1998, Tyler Cowen, Princeton University Press).

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70733	比較民俗学研究B	2単位 後期	1~2	講義	吉川 秀樹 (非)

■テーマ 人類学の視点からの art や performing art の研究

### ■授業の概要

Anthropology、Art、そしてPerforming Art の特別な関係 Part II

伝統的に非西洋の文化を研究してきた人類学ではあるが、非西洋の「art」や「performing art」は、研究の対象として、また新たな理論、研究方法（研究成果の提示法も含めて）を生み出すインスピレーションとして常に特別な存在であり続けてきた。例えば審美性 (aesthetics)、感情 (emotions)、感受性 (sensibility)、創造性 (creativity) という異文化／社会研究において方法論上扱いにくい領域に人類学を踏み込ませた。また多くの非西洋文化／社会において精神構造やコスモロジーや社会構造と密接な関係にある art や performing art が、colonization や globalization を通して、西洋の文化／社会に移行することにより、どのような新たな意味や価値等が与えられるか、すなわち異文化／社会間の appropriation の分析に人類学を向かわせた。さらには、人類学における logocentric (文字中心) な研究成果の提示法にも疑問を投げかけ、映像人類学 (visual anthropology) 等の分野の確立へと繋がっていった。そして人類学における art や performing art の研究は、西洋文化／社会の art や performing art の再検証にも影響を与えている。

この授業では、art や performing art を人類学的視点から研究／分析した英語の論文を読み、様々な文化／社会における art や performing art について、そして art や performing art と人類学の関係について考察していく。同時に、大学院レベルで英語の論文を講読するのに必要な英語力やスキルを習得していく。

### ■到達目標

- ・異文化／社会における art や performing art (と分類されるもの) の存在に注目し、その多様性、ならびに共通点や相違点を理解する。
- ・Art や performing art の人類学的研究の視点、理論、方法について学び、art や performing art と人類学の関係について考察する。
- ・研究における英語の論文の講読に必要な英語力やスキルを習得し、向上させる。4) 学生が各自持つ art や performing art に対するアプローチ／専門性の特徴を、人類学のアプローチとの比較を通して、理解する。

### ■授業計画・方法

授業は、講読する論文についてのクラス・ディスカッションを中心に行われる。学生はディスカッションのための「レジュメ」の準備をすること。また各論文を読み始めるにあたり、パワーポイントや資料を使って文化／社会的背景の説明が教員により行われる。

1. 西洋という場所における Non-Western “Art” and “Performing Art”  
“Introduction to Art/Artifact: African Art in Anthropology Collections” by Susan Vogel (1988) in AA,  
“Oriental Antiquities/Far Eastern Art” by Craig Clunas (1997) in AA, or “What They Came With: Carnival and the Persistence of African Performance Aesthetics in the Diaspora” (2007) by Esiaba Irobi in AP
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. Art と Performing Art と Appropriation そして商品化 (commodification)  
“The Collecting and Display of Souvenir Arts: Authenticity and the ‘Strictly Commercial’” by Ruth B. Phillips (1998) in AA or “Representing History: Performing the Columbian Exposition” (2002) by Rosemarie Bank in AP.

7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. アート (art) とアーティスト (artist) と人類学 (anthropology) の新しい関係

“Artists in the Field: Between Art and Anthropology” by Fernando Calzadilla and George E. Marcus in CAA (2006), or “Shadows of Song: Exploring Research and Performance Strategies in Yolngu Women’s Crying-songs” (2002) by Fiona Magowan in AP.

12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 同上、まとめ

※ 定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

授業におけるディスカッションを充実させるには、そのための準備をきちんと行うことが不可欠である。論文講読で分担された部分を訳し、その内容の要約やコメント／質問等を書いたレジメを準備しディスカッションに臨むこと。分担については授業のなかで学生と教員で決める。

#### ■成績評価の方法・基準

□方法	*クラス・ディスカッションの内容 (レジメと発言)	70%
	**短評 (article review)	20%
	**短評についてのプレゼンテーション	10%
	合計	100%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 *The Anthropology of Art: A Reader* (2002) Howard Morphy and Morgan Perkins eds., Blackwell Publishing.  
*Contemporary Art and Anthropology* (2006) Arnd Schneider and Christopher Wright eds., Berg.  
*The Anthropology of Performance: A Reader* (2013), Frank J. Korom ed., Willey-Blackwell.  
 以上から選出した論文や章を教科書とする。授業計画を参照すること。なお*The Anthropology of Art: A Reader*はAA、*Contemporary Art and Anthropology*はCAA、*The Anthropology of Performance*はAP と表記している。

□テキスト なし

□参考文献 *Sociology of the Arts: Exploring Fine and Popular Forms*

(2003, Victoria D. Alexander, Blackwell Publishing).

*In Praise of Commercial Culture* (1998, Tyler Cowen, Princeton University Press).

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70728	東南アジア文化研究A	2単位 前期 集中	1~2	講義	矢島 律子 (非)

## ■テーマ 東南アジアの工芸—風土と歴史—

### ■授業の概要

東南アジアで展開した様々な工芸のうち陶磁器と染織を取り上げ、その歴史的展開を通じて各国の文化的特質や相互の文化交流の意義を検証し、工芸がアジアの美術史において果たした役割を考察する。

### ■到達目標

- ・東南アジア諸国の陶磁器生産と流通の歴史的背景を把握し、その特質を理解する。
- ・インドネシア染織の概要を把握し、その特質を理解する。
- ・工芸史を取り扱う際の視点について自覚的に考察する。

### ■授業計画・方法

1. 工芸の捉え方
2. 東南アジアの風土と歴史
3. 中国陶磁と東南アジア
4. ベトナムの陶磁
5. クメールの陶磁
6. タイの陶磁
7. ミャンマーの陶磁
8. 中世世界の陶磁器流通
9. 現代東南アジアの陶磁文化
10. インドネシアの風土と歴史
11. インドネシアの染めⅠ ジャワ王宮のバティック（ロウケツ染め）と宇宙観
12. インドネシアの染めⅡ ジャワ北部海岸のバティック（ロウケツ染め）に見る東西文化交流
13. インドネシアの織り スマトラ都市文化の織りと諸島の織り
14. インドネシア共和国における染織文化の意義—多様と統一の象徴「バティック・インドネシア」の成立
15. 東南アジアの工芸 —伝統と影響、独自性と模倣—

※定期試験は実施しない

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・インドシナ半島の歴史と風土、東南アジア島嶼部の歴史と風土の概要を受講前に知っておくこと。
- ・陶磁器および染織の基本的な用語を受講前に知っておくこと。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 レポート 50%・平常点 30%・コメントペーパー20%で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

強い興味・関心、理解力、問題意識をもって主体的に考察しようとする態度を持っているかを重視する。  
自身の言葉で表現する能力と努力を評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 『黄金の国と南の海から—町田市立博物館所蔵東南アジア陶磁—』 愛知県陶磁美術館 2019年4月(予定)

・『増補版 アジア陶芸史』出川哲朗・弓場紀知・中ノ堂一信監修 昭和堂 2012年

・『インドネシア ファッション—海のシルクロードで花開いた民族服飾の世界—』町田市立博物館 2015年

□参考文献 『東南アジアの歴史—人・モノ・文化の交流史—』(有斐閣アルマ) 桐山昇・根本敬・栗原浩英 2003年

・『事典東南アジア 風土・生態・環境』京都大学東南アジア研究センター編 弘文堂 1997年

・『東南アジアを知る事典』池端雪浦監修 平凡社 2008年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70729	東南アジア文化研究B	2単位 後期 集中	1～2	講義	小池 富雄 (非)

■テーマ 東アジアの古漆器文化財にみる技法・意匠の編年的特質と相互的影響

■授業の概要

日本・中国・朝鮮・琉球を中心とした東アジアの漆工史研究。通史の概論と文献購読、実際の作品調書執筆までを指導する。うるしの文化は、東は日本、西はブータンに広がり、アジアの国々に様々な民族文化、芸術文化を生み出している。東洋漆工史では日本・中国・朝鮮が主幹として研究があり、周辺の琉球、ベトナム、タイなどが独自の民族芸術として花開いている。技術、意匠、材料などの違いと相互間の影響を考慮しつつ、全貌を概観する。

■到達目標

- ・東アジアの漆工史の概略を身に着けることを第一に目標とする。
- ・作品を一見して品質形状、産地、時代を決める鑑識眼を講義と、文献史料購読と実作品の熟覧調査で養い、調書執筆につなげる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス 使用テキスト（コピー配布）と書誌解題
2. 日本漆工史 講義1 縄文時代から奈良時代 原始美術・考古品から正倉院宝物を含む。
3. 日本漆工史 講義2 平安時代から鎌倉時代
4. 日本漆工史 講義3 南北朝時代から室町時代
5. 日本漆工史 講義4 桃山時代 南蛮紅毛漆器を含む輸出漆器の世界での受容と、日本への影響。
6. 日本漆工史 講義5 江戸時代 大名婚礼調度
7. 中国漆工史 講義1 唐、宋、元時代 附、高麗朝鮮時代、比較藝術の観点から共通点と差異を論じる。
8. 中国漆工史 講義2 明、清時代
9. 琉球漆工史 講義1 琉球漆器 古琉球時代 15～16世紀
10. 琉球漆工史 講義2 琉球漆器 江戸時代 17世紀～19世紀
11. タイ・ミャンマー、ベトナムの漆工芸 民族芸術文化の観点から技法と特質を講義。
12. 漆工史文献購読 『幸阿弥家伝書』
13. 漆工史文献購読 Hurry M. Garner “Ryukyu Lacquer” 1972、london、英文
14. 個人、博物館での漆工芸品の熟覧調査と調書の執筆
15. 個人、博物館館での漆工芸品の熟覧調査、科学的分析方法、保存修復の仕様と視点を解説

※定期試験は実施しない

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・個人、博物館での学外授業を含む。その際には、カメラや採寸道具など各自で準備する
- ・テキストは、初日にコピーして配布、書誌解題はするが各自事前に書誌は予備学習して受講されたい。

■成績評価の方法・基準

□方法 授業時間中での質疑応答40%。漆工品作品調書60%で評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 定めない

□テキスト 『幸阿弥家伝書』と Hurry M. Garner “Ryukyu Lacquer” Percival David Foundation of Chinese Art, school of Oriental & African Studies, University of London 1972. は稀少出版で入手が困難であるので、初日にコピーして配布する。

□参考文献 ・荒川浩和校訂解説「髹飾録」（『漆工史』39号所収）2017年）  
・鈴木規男 『日本の美術』No. 451 漆工品の修理 至文堂

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70675	琉球史特論	2単位 後期	1~2	講義	麻生 伸一

※29年度入学者から登録可能

■テーマ 儀礼関係絵画史料からみる琉球の近世

### ■授業の概要

の講義では、琉球の文化について、近世日本や明清中国との相互関係を踏まえながら考える。前半では、基礎となる文献資料（論文）の精読を通して、琉球（首里王府）の外交・内政の全体像を把握し、琉球の文化について、歴史的展開に基づいて考察する。後半では絵画資料をもとに、実際に使われた道具やその役割を検討し、絵画資料の解説文を作成する。使用する資料は、儀礼関係資料である「図帳」（沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵）である。

### ■到達目標

- ・球史研究の諸論点を整理する。
- ・球国の内政・対外関係が、琉球の文化へ果たした役割を理解する。
- ・料を論理的に再解釈し、新たな歴史認識の方法を習得する。

### ■授業計画・方法

1. 講義の進め方
2. 琉球史に関する論文の検討1：通史
3. 琉球史に関する論文の検討2：古琉球
4. 琉球史に関する論文の検討3：近世史
5. 琉球史に関する論文の検討4：テーマ史
6. 「図帳」の分析1：所蔵状況
7. 「図帳」の分析2：史料について
8. 「図帳」の分析3：鎌倉芳太郎資料概観
9. 「図帳」の分析4：候文の読解
10. 「図帳」の分析5：候文の解釈
11. 「図帳」の分析6：候文の現代日本語化
12. 「図帳」の分析7：絵図の読解
13. 「図帳」の分析8：絵図の解釈
14. 「図帳」の分析9：解説文作成
15. まとめ

※定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

資史料・参考文献の読み込み、用語の確認などの事前準備をすること。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 講義中の参加度（発言、予習）40パーセント。論文要約発表、「図帳」解説文60パーセント。「図帳」解説文では、資史料をもとに自身の問題意識に沿って論理的に記述できたかを評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 なし

□テキスト なし

□参考文献 『沖縄県史』古琉球、近世、近代、女性史  
 豊見山和行編『琉球・沖縄史の世界』吉川弘文館、2003年  
 渡辺美季「東アジア世界のなかの琉球」『岩波講座日本歴史』第12巻、岩波書店、2014年  
 石井龍太「近世琉球王国と東アジア交流」『岩波講座日本歴史』第20巻、岩波書店、2014年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70726	東洋工芸史研究 (奇数年度開講)	4単位・通年	1・2	講義	柳 悦州(客) 新田 摂子

■テーマ 染織をとして東洋の工芸の特質と意義の一端を明らかにする。

### ■授業の概要

織物を織ることは、人びとの生活と密接に関わってきた。この授業では、沖縄とラオスやシルクロード沿い諸国の織機構造や染織技術について、歴史の変遷や文化的背景を視野に入れながら検討しながら、東洋の工芸の意義について研究していく。

### ■到達目標

- ・東洋における工芸は、時代とともに変化していくことを説明できる。
- ・西洋における産業革命が、東洋においてどのような影響を与えたのか説明できる。
- ・東洋の美意識について理解し説明できるようになる。

### ■授業計画・方法

- |                          |                    |
|--------------------------|--------------------|
| 1. ガイダンス                 | 16. 日本の織物 (江戸時代)   |
| 2. 織物素材                  | 17. 日本の織物 (江戸時代後期) |
| 3. 繊維素材から糸を製作する方法 (苧麻、綿) | 18. 日本の織物 (明治～戦前)  |
| 4. 繊維素材から糸を製作する方法 (絹、羊毛) | 19. 沖縄の織物 (王朝時代)   |
| 5. 織物と織機                 | 20. 沖縄の織物 (明治～戦前)  |
| 6. 経糸の整経方式               | 21. 沖縄の織物 (戦後)     |
| 7. 織機の機能と構造              | 22. 奄美の織物          |
| 8. 織機の歴史の変遷              | 23. 沖縄の腰機と紋織       |
| 9. 東洋の織機の特徴              | 24. 沖縄の絣           |
| 10. 産業革命                 | 25. 沖縄の緯絣          |
| 11. ジャポニズム               | 26. 本土と沖縄の絣        |
| 12. ラオスの織物 (平地ラオ族)       | 27. 西洋の美意識、日本の美意識  |
| 13. ラオスの織物 (山地少数民族)      | 28. 沖縄の美意識         |
| 14. イラン、ウズベキスタンの染織       | 29. 戦後沖縄の工芸と美意識    |
| 15. トルコ、シリアの織物           | 30. まとめ            |

### ■定期試験および解説・まとめ

定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・織物と織物技術に関する基礎的な知識が必要である。
- ・次回の講義内容に関するキーワードを示す。受講生はそのキーワードについて予習を行い授業に望むこと。
- ・キーワードをもとにディスカッションを行いながら理解を深めていく。
- ・定期試験は行わないが、4回のレポート提出が求められる。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 授業への参加状況 (20%)、レポートの提出状況(30%)、ディスカッションの内容 (50%)  
□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献 (資料) 等

#### □参考文献

- 『沖縄織物の研究』 田中敏夫・玲子 京都書院  
『世界の織機と織物』 吉本忍編著・柳 悦州作図 国立民族学博物館  
『100年前の写真で見る世界の民族衣装』 ナショナル ジオグラフィック編

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70731	造形総合演習	2単位 通年	2	演習	比較芸術学専攻教員

※比較芸術学専攻を除く

■テーマ 論文執筆の実践

### ■授業の概要

作品制作と密接に関連した論文執筆の方法を指導する

### ■到達目標

実技を専攻する学生が、自身の制作や作品に関する論文等を作成するための技術を習得することを目標とする。また、論文執筆を通して、造形研究活動における論理性、実証性を高めることも目指す。

### ■授業計画・方法

- |                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 執筆計画の策定</li> <li>2 文献リストの作成／関連文献の探索</li> <li>3 図版リストの作成／関連作品の探索</li> <li>4 関連文献の読み合わせ、</li> <li>5 関連文献についてのディスカッション</li> <li>6 論文構成の決定</li> <li>7 序論、第一章のエスキース検討</li> <li>8 序論、第一章のブラッシュアップ</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>9 中間章のエスキース検討</li> <li>10 中間章のブラッシュアップ</li> <li>11 全体構成の再確認、テーマディスカッション</li> <li>12 最終章のエスキース検討</li> <li>13 最終章のブラッシュアップ</li> <li>14 全体の推敲、文献表、図版リストの調整</li> <li>15 読み上げ最終確認、論文の完成</li> </ol> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- ・月2回程度の個別指導を通じて、最終的には12月に小論文（4,000字以上）を完成させる。
- ・学生は、年度当初の研究実施計画を踏まえて、終了作品に関わる制作意図とその背景、芸術的特色、技法・素材等に関する問題意識に基づき、本演習の研究テーマを自ら設定する。
- ・年度当初に、研究内容にしたがって希望担当教員を定め、面談を行う。
- ・適切な担当教員が不明なときには、指導教員あるいは芸術学専攻学科室に相談すること

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・比較芸術学専攻の学生を除く
- ・全体の進行を念頭に置いて、着実に執筆を進めておくこと

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（50%）、論文（50%）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

以下の観点から、総合的に判断する。

平常点：論文執筆に積極的に取り組んでいるか、執筆プラン、着想が十分に練られた充実したものとなっているか  
論文：問題意識およびテーマが明確であるか、文献収集が適切になされているか、調査研究が十分な質を獲得しているか、引用・参照が適切に行われているか、論文の構成が明快であるか。説得力や独創性があるか

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書

□テキスト

□参考文献 佐々木健一『論文ゼミナール』（東京大学出版会、2014）〔芸術学専攻学科室〕

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
80553	民族舞踊学研究	4単位 通年	1・2	講義	呉屋淳子

■テーマ パフォーマンス研究を通じて、民族舞踊について理論的、創造的視点から学ぶ。

### ■授業の概要

本講義では、リチャード・シェクナーの唱える「パフォーマンス」観を通して、「パフォーマンス・アーツ」「日常生活におけるパフォーマンス」「文化的パフォーマンス」について考察し、現代社会における舞台芸術について理解を深める。

### ■到達目標

- ・文献講読とディスカッションを通して、舞台芸術としての「パフォーマンス」の概念について理解することができる。
- ・現代社会における民族舞踊を取り巻く支配的言説に対して、新たな価値観を発信していくことができる。

### ■授業計画・方法

#### (前期)

1. ガイダンス、「批判的理論とパフォーマンス」
  2. 「文化的パフォーマンス」(1)
  3. 「文化的パフォーマンス」(2)
  4. 演劇と文化人類学(1)
  5. 演劇と文化人類学(2)
  6. エスノグラフィー(1)
  7. エスノグラフィー(2)
  8. 身体(1)
  9. 身体(2)
  10. ミュージアムと展示(1)
  11. ミュージアムと展示(2)
  12. ジェンダー(1)
  13. ジェンダー(2)
  14. ロール・プレイング(1)
  15. ロール・プレイング(2)
- 定期試験は実施しない。

#### (後期)

1. 「パフォーマンスとアイデンティティ」(1)
  2. 「パフォーマンスとアイデンティティ」(2)
  3. 「パフォーマンス研究」(1)
  4. 「パフォーマンス研究」(2)
  5. 争われる戦争の記憶―「エラノ・ゲイ」「昭和館」と嶋田美子(1)
  6. 争われる戦争の記憶―「エラノ・ゲイ」「昭和館」と嶋田美子(2)
  7. アメリカ「発見」の逆民族誌的パフォーマンス(1)
  8. アメリカ「発見」の逆民族誌的パフォーマンス(2)
  9. 長野オリンピックと開会式と国民国家(1)
  10. 長野オリンピックと開会式と国民国家(2)
  11. 東京の『ミス・サイゴン』―観客の作り方と作られ方(1)
  12. 東京の『ミス・サイゴン』―観客の作り方と作られ方(2)
  13. 介入への実践を目指して
  14. 映像研究(1)
  15. 映像研究(2)
- 定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・教科書は必ず購入し、各回の授業終了時に指示するページを十分に読み込んでおくこと。
- ・教科書や参考文献、授業で紹介する文献以外にも、パフォーマンス研究に関する文献を積極的に読むこと。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 提出物(レジュメおよびレポート等)、講義への取り組み方で総合評価する。

レジュメおよびレポート(60%)、講義の取り組み方(40%)

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化学研究科(博士課程)の学生には、専門家としてのドクロ雨滴かつ学術的な達成を求める。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□教科書 (前期)高橋雄一郎 2011『パフォーマンス研究のキーワード―批判的カルチュラル・スタディーズ入門』世界思想社

(後期)高橋雄一郎 2005『身体化される知―パフォーマンス研究』せりか書房

□参考文献 リチャード・シェクナー 1998『パフォーマンス研究：演劇と文化人類学の出会いの場所』高橋雄一郎訳、人文書院。

京都造形大学舞台芸術研究センター 2005『舞台芸術』(8)、月曜社

Victor Turner 2001 *The Anthropology of Performance*, New York: PAJ Publications.

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
80551	民族音楽学研究	4単位 通年	1・2	講義	小西 潤子

■テーマ グローバル社会における音楽芸能について理解する

### ■授業の概要

応用音楽学の考え方について学んだうえで、「グローバル化社会における音楽芸能」を大テーマ、「社会」「環境」「学校教育」「地域社会」「文化行政」「国際社会」をトピックスとし、沖縄を含めたアジア太平洋地域の音楽芸能パフォーマンスに関する文献講読および事例研究を行う。これにより、民族音楽学研究の動向を知り、自らが課題を見出して取り組む力を身につける。

### ■到達目標

- ・民族音楽学研究の動向を知る。
- ・日本語・英語文献を読む力を向上する。
- ・自らが課題を見出して取り組む力を身につける。
- ・民族音楽学の課題について、論理的に記述することができる。

### ■授業計画・方法

- |                |                     |                |
|----------------|---------------------|----------------|
| 1. 民族音楽学の研究動向① | 16. 音楽芸能と地域社会①      |                |
| 2. 民族音楽学の研究動向② | 17. 音楽芸能と地域社会②      |                |
| 3. 民族音楽学の研究動向③ | 18. 音楽芸能と地域社会③      |                |
| 4. 民族音楽学の研究動向④ | 19. 音楽芸能と地域社会④      |                |
| 5. 音楽芸能と社会①    | 20. 音楽芸能と地域社会⑤      |                |
| 6. 音楽芸能と社会②    | 21. 音楽芸能と文化行政①      |                |
| 7. 音楽芸能と社会③    | 22. 音楽芸能と文化行政②      |                |
| 8. 音楽芸能と社会④    | 23. 音楽芸能と文化行政③      |                |
| 9. 音楽芸能と社会⑤    | 24. 国際社会における音楽芸能公演① | (担当:横道文司講師 予定) |
| 10. 音楽芸能と環境①   | 25. 国際社会における音楽芸能公演② | (担当:横道文司講師 予定) |
| 11. 音楽芸能と環境②   | 26. 国際社会における音楽芸能公演③ | (担当:横道文司講師 予定) |
| 12. 音楽芸能と環境③   | 27. 国際社会における音楽芸能公演④ | (担当:横道文司講師 予定) |
| 13. 学校教育と音楽①   | 28. 国際社会における音楽芸能公演⑤ | (担当:横道文司講師 予定) |
| 14. 学校教育と音楽②   | 29. 国際社会における音楽芸能公演⑥ | (担当:横道文司講師 予定) |
| 15. 前期総括       | 30. 総括 定期試験は実施しない。  |                |

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・図書館や音楽資料室所蔵の関連文献、音源・映像資料を利用して、各自授業の予習・復習をすること。
- ・英語文献の講読に際しては、内容理解に必要な予習・復習を徹底すること。
- ・積極的な発言や質問をすること。

### ■成績評価の方法・基準

#### □方法

- ・授業への取り組み (60%)、期末レポート (40%)
- ・学習意欲や主体的な取り組みが見られるか。
- ・理解が深まるとともに、自らの課題を見だし解決する力がついたか。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

- 教科書 教員の指示による。
- テキスト 教員の指示による。
- 参考文献 教員の指示による。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
80552	琉球音楽論研究	4単位 通年	1~2	講義	金城 厚(客)

■テーマ 民俗音楽研究の現場で考える民謡の今日と明日

■授業の概要

琉球音楽について、民俗芸能の実地調査を通して、より多面的に研究する授業である。

初めに民族音楽学のフィールドワークの技術について学ぶ。フィールドワークとは、文献から知識や情報を得るのではなく、音楽が営まれる現場に立ち会って知識や情報を得る行為である。フィールドワークでは、とりわけ、生活している人々の日常に踏み込んでいくことが多いので、伝承している人々とのように向き合い、コミュニケーションしていくかについて、モラルを身につけることも求められる。このような伝承者とのコミュニケーションを通して、民俗芸能の伝承の実際を深く知り、より多面的、多層的に琉球音楽の理解を深める。

■到達目標

授業で習得した知識や技術を使って、適切にフィールドワークを実施できるようになること  
 得られた情報、録音、録画を適切に整理して、良質な報告書が作成できること  
 フィールドワークおよびデスクワークを通して、率先して共同作業にあたり、リーダーシップを発揮できること  
 民謡の社会性について自己の見方を確立すること

■授業計画・方法

- |                                                           |                           |
|-----------------------------------------------------------|---------------------------|
| 1. オリエンテーション 過去映像 対象芸能の知識 民謡調査の研究史：町田嘉章、小泉文夫、文化庁          | 16. 整理：録音・録画のコピー作成、録音台帳作成 |
| 2. フィールドワークのモラル アイヌ研究の事例から。東京芸大民族音楽ゼミの「心得」から。             | 17. 整理：録音台帳の作成、採譜の方法、分担決定 |
| 3. 後悔しないための録音・録画術① 目的と技術 録音・録画機器の特性 フィールドワーク固有の機器使用法      | 18. 分析：採譜の点検、速度、調の選択      |
| 4. 後悔しないための撮影術 目的と技術 何を撮るか（テキストか、コンテキストアカ） スチル写真の必要性      | 19. 分析：採譜の再点検             |
| 5. インタビューの技術 コミュニケーションによる関係構築 実況録音の技術、何を聞くか。何を撮るか。        | 20. 分析：採譜のヴァリエント          |
| 6.                                                        | 21. 民謡保存会の諸問題             |
| 7. 情報収集の方法 町村史、報告書、行事日程と旧暦 行政窓口、インフォーマントとの接触、趣旨説明、事前調査の計画 | 22. 伝承環境の諸問題              |
| 8. 出かける前の準備 役割分担の確認、持ち物、ミスの「あるある」、方針の確認                   | 23. 社会変化と民謡の変容            |
| 9. データ整理 収録メディアの複製、録音・録画台帳の書式、アーカイブの展望へ                   | 24. 民謡の活路                 |
| 10. 歌詞聞き取りと採譜の方法 留意点                                      | 25. 沖縄民謡サウンド・アーカイブについて    |
| 11. 採譜の校閲 芸能環境情報の整理方法、報告書について                             | 26. 沖縄民謡サウンド・アーカイブの試用の実習  |
| 12. ~15. フィールドワークの実践(授業4回分) 前調査(7月頃)、行事実況(8月~9月)、補充調査(9月) | 27. ~29. 3回分を現地での補充調査に充てる |
| 13.                                                       | 28.                       |
| 14.                                                       | 29.                       |
| 15.                                                       | 30. 報告書の作成について質疑・討論       |

■修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

この科目は学部音楽学専攻の「フィールドワーク演習」と合同で行うので、大学院生には共同作業におけるリーダーシップを求める。また、舞台芸術専攻のほか造形芸術研究科の学生も履修可能なので、それぞれの専修や学年の能力に応じた役割分担をこなすことが評価の焦点となる。

教室での学修以外に、フィールドワーク(現地調査)を行い、授業の2~3回分をこれに充てるので、必ず参加すること。芸能の内容によっては、帰還が深夜に及ぶこともある。日程等は、受講者の都合も含めて相談して決める。

■成績評価の方法・基準

□方法 前期末に調査概要についてのレポート(20%)、後期末には最終報告書(60%) 予習課題等についての取り組みと共同の実践における貢献度(20%)により評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

□教科書 担当教員の指示による。



平成31年4月発行

**2019 授業科目〈シラバス〉**

編 集 沖縄県立芸術大学大学院  
造形芸術研究科運営委員会

所 在 地 〒903-8602  
沖縄県那覇市首里当蔵町1-4  
電 話：(098) 882-5080  
FAX：(098) 882-5033